はじめに

「受験古文」の最終目標は、**「初見の古文の文章を辞書なしで読めて、問題が解けること」**です。
そのために必要な三つの要素は、**「文法・単語・読解のルール（古文常識・作品常識含む）」**です。
三つの要素のうち、「文法」と「単語」が古文の土台となるところです。
「古文ができない」、「読めない」という人のほとんどは、この「文法」と「単語」がきちんとできていません。
この講座は、その土台の一つである**「文法」をしっかり身に着けるための講座**です。

本講座は**「ベーシックレベル」**ですが、「基本だけ学ぶ」という意味ではありません。
基本から説明をして、実際の大学入試の文法問題も解けるように構成しています。

他レベルの『文法講座』との大きな違いは、
●**各チャプター時間が短時間**〔チャプターの途中で集中力が切れてしまわないように。〕
●**用例ごとの例文が豊富**〔なるべく有名な文章から取り上げました。学校の授業で見かける文もあるはず。〕
●**問題数が多い**〔同じような問題でも、たくさん実施することにより、より記憶に定着させるため。〕
●**大事なことは繰り返し説明**〔何度も同じことを聞くことにより、自然と復習していることになる。〕
●**丁寧にじっくり解説**〔わかる人には冗長に感じるかも。ですが、**「ゆっくりじっくり確実に！」**の姿勢で。〕
あとは、テキスト解説部分の文字も大きく読みやすくしています。

他の文法講座より講数が多いのは、前述（例文・問題数が多いが、じっくり解説）の理由からです。
よって、身に着く内容は「ベーシックレベル」でも、他の文法講座となんら違いはありません。
全30講をきちんと仕上げたとき、大学入試文法問題を解く力はもとより、
大学入試レベルの文章を読むための土台の力も、十分についています！

現時点で「古文なんて、何書いているのかさっぱりわからないから大嫌いだ」という人は、なんの問題もありません。
一番恐ろしい勘違いは、「古文なんて日本語なんだから、勉強しなくてもどうにかなる」と思ってしまうことです。
断言しておきますが、勉強しておかないと、絶対にどうにもなりません。
「古文＝日本語」だと思っている人がいるならば、**「古文＝外国語」**だというくらいイメージを変えましょう。
ただし、**コツさえつかめば**、外国語を学習するよりも**ずっと簡単に、ずっと楽に「点取り科目」にすることができる。**
それが、古文のオイシイところです。

本講座で文法のコツをしっかりとつかんで、是非、古文を得点源の科目にしましょう！

ベーシックレベル　古文＜文法編＞

予復習・授業の受け方について

予習は一切不要です。
ノートも不要です。
テキストと筆記用具さえあれば大丈夫です。
テキストへの書き込みで授業をすすめていきます。

テキスト中に〔**例題**〕や「**問題**」がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。
特に**太字**や**空欄に自分で書き込んだところ**に重点を置いて、覚え込むまで何度も復習してください。

復習が終われば、各パートの後ろにある「**確認問題**」を解きましょう。
確認問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。
万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「確認問題」を解き直しましょう。
記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

目次

ベーシックレベル　古文＜文法編＞

第1講　歴史的仮名づかい……p.6
第2講　品詞・活用形・係り結びの法則……p.16
第3講　動詞……p.28
第4講　動詞の活用表と応用編……p.42
第5講　形容詞・形容動詞・音便……p.64
第6講　助動詞（活用）……p.76
第7講　助動詞（接続）……p.86
第8講　ず・き・けり……p.96
第9講　つ・ぬ・たり・り……p.108
第10講　ぬ・ねの識別……p.120
第11講　る・らる／る・れの識別……p.140
第12講　「す・さす・しむ」と「せ」の識別……p.158
第13講　まし・む・むず……p.172
第14講　らむ・けむ……p.190
第15講　じ・べし・まじ・まほし・たし・ごとし……p.206

〈Memo〉

第1講　歴史的仮名づかい

PART1　歴史的仮名づかい（読み方）

★歴史的仮名づかい

●「あふみのうみ」「あうしうかいだう」とは何？

〈表記〉

（現代語→古文）

①じ→「ぢ」／ず→「づ」

（例）はぢ（恥〔はじ〕）／うなづく

②促音「っ」→「つ」／拗音「ゃ・ゅ・ょ」→「や・ゆ・よ」

（例）鳴つて（鳴って）／大将〔たいしやう〕

〈読み方〉

（古文→現代語）

① ゐ →「　　」

（例）ゐなか（　【　　】）

② ゑ →「　　」

（例）ゑし（　【　　】）

③ を →「　　」

（例）をさなき人（　人【　　人】）

④ くゎ →「　　」／ ぐゎ →「　　」

（例）くゎんぱく（　【　　】）／ ぐゎんりき（　【　　】）

⑤ 語頭以外の「はひふへほ」→「　　」

（例）かほ（　【　　】）／ ＊月のひかり（月の　【月の　　】）

⑥　a＋う　→「　　　」

（例）あうむ（【鸚鵡】）

⑦　i＋う　→「　　　」

（例）かなしう（【　　　】）

⑧　e＋う　→「　　　」

（例）せうそこ（【　　　】）／けふ（【　　　】）

⑨　o＋う　→「　　　」

（例）きのふ（【　　　】）

※「あふみのうみ」→「　　　のうみ（【　　　の海】）」＝「　　　」

「あうしうかいだう」→「　　　【　　　】」

問一　次のそれぞれの読み方を現代仮名づかいで書きなさい。

①　にほふ〔　　　〕　②　ひとこゑ〔　　　〕
③　をかし〔　　　〕　④　ふさはし〔　　　〕
⑤　とのゐ〔　　　〕

問二　次のそれぞれの発音の仕方を、例にならってカタカナで書きなさい。

（例）　けふ　→　〔キョー〕

①　いふ〔　　　〕　②　あふさか〔　　　〕
③　てふてふ〔　　　〕　④　しゃうじ〔　　　〕

第1講　PART1　確認問題

①「ひやくやくのちやう」の現代仮名づかいとして正しいものを次の中から選べ。

ア　ひゃくゃくのちよう　イ　ひゃくやくのちょう　ウ　ひやくゃくのちょう　エ　ひゃくやくのちゅう

②「うへに据ゑる」の現代仮名づかいとして正しいものを次の中から選べ。

ア　うえに据える　イ　うへに据うる　ウ　うえに据ゑる　エ　うえに据いる

③「につくわう」の現代仮名づかいとして正しいものを次の中から選べ。

ア　にっかう　イ　につかう　ウ　にっこう　エ　にっくおう

④「にふだう」の現代仮名づかいとして正しいものを次の中から選べ。

ア　にょうどう　イ　にうだう　ウ　にうどう　エ　にゅうどう

⑤「いてふ」の現代仮名づかいとして正しいものを次の中から選べ。

ア　いてう　　イ　いちょう　　ウ　いとう　　エ　いたふ

PART2　歴史的仮名づかいにおける五十音図

★歴史的仮名づかいにおける五十音図

ア行	あ		う		お
ヤ行	や		ゆ		よ
ワ行	わ		う		を

〈Memo〉

第1講　PART2　確認問題

① 「ゐざうし」の傍線部分は五十音図における何行に当たるか。正しいものを次の中から選べ。

ア　ア行　　イ　ハ行　　ウ　ヤ行　　エ　ワ行

② 「こゑ」の傍線部分は五十音図における何行に当たるか。正しいものを次の中から選べ。

ア　ア行　　イ　ヤ行　　ウ　ラ行　　エ　ワ行

③ 「をりふし」の傍線部分は五十音図における何行に当たるか。正しいものを次の中から選べ。

ア　ア行　　イ　ハ行　　ウ　ヤ行　　エ　ワ行

④ 「ゐる」の傍線部分は五十音図における何行に当たるか。正しいものを次の中から選べ。

ア　ア行　　イ　ヤ行　　ウ　ラ行　　エ　ワ行

⑤　「老いたり」の傍線部分は五十音図における何行に当たるか。正しいものを次の中から選べ。

ア　ア行　　イ　ハ行　　ウ　ヤ行　　エ　ワ行

第2講　品詞・活用形・係り結びの法則

PART1　品詞

★**品詞**＝十個（名詞・動詞・形容詞・形容動詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞）

〈自立語〉＝単独で文節を作ることができる語。

名詞…事物（人物・場所・物質など）の名前をあらわす語。➡「　　　　」

動詞…**動作**・**存在**をあらわす語。

形容詞…事物の**性質**・**状態**をあらわす語。「〜　　　」で終わる。

形容動詞…事物の**性質**・**状態**をあらわす語。「〜　　　」・「〜　　　」で終わる。

（形容詞・形容動詞）➡「　　　　」

副詞…用言を修飾する語。

連体詞…体言を修飾する語。

接続詞…文と文をつなぐ語。前後の文脈の関係をあらわす語。

感動詞…感動・呼びかけ・応答・掛け声などをあらわす語。

〈付属語〉＝自立語（や助動詞）に付いて、文節の一部として用いられる語。

助動詞…用言や体言などに付いて、意味を加える語。

助詞…自立語（や助動詞）に付いて、意味を添えたり、ことばの働きをあらわしたりする語。

（例）　昔、男ありけり。

〈Memo〉

第2講　PART1　確認問題

① 次の中から体言を選べ。

ア 副詞　イ 連体詞　ウ 感動詞　エ 名詞

② 次の中から用言でないものを選べ。

ア 動詞　イ 助動詞　ウ 形容詞　エ 形容動詞

③ 文中の用言を、次の中から選べ。

「あるところに、一人の僧なむありけり。」

ア ある　イ ところ　ウ あり　エ けり

④　文中の用言を、次の中から選べ。

「いと静かなる、かの秋の日の月夜なり。」

ア　いと　　イ　静かなる　　ウ　かの　　エ　なり

⑤　文中の体言を、次の中から選べ。

「そのうつくしさ、限りなしと思ひけり。」

ア　その　　イ　うつくしさ　　ウ　限りなし　　エ　思ひけり

PART2　活用・活用形・係り結びの法則

★活用＝形が変わること

（例）「読む」を活用させて（　　）を埋めなさい。

読（　　）ない
読（　　）ます
読（　　）。
読（　　）とき
読（　　）ば
読（　　）！

★活用する品詞＝**「動詞」・「形容詞」・「形容動詞」・「助動詞」**

★活用形＝**「未然形・連用形・終止形・連体形・已然形・命令形」**

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
読む	ま	み	む	む	め	め

（例）次の傍線部の活用形は？

読み終わる

※活用形を考える時は「　　」を見る。

〔　　　〕⇐ 読み終わる

●〔　（＝　　・　　・　　）〕の上は「　　形」！

〔　　　〕⇐ 読む人

●〔　（＝　　）〕の上は「　　形」！

活用形	下の語
未然形	**ず**（＝ない）
連用形	**用言・けり・たり**（完了）**・て・、**
終止形	**。・」**・引用の「**と**」
連体形	**体言**
已然形	**ど・ども**
命令形	**。・」**・引用の「**と**」

（例）

読まず。

読みけり。

読むと言ふ。

読みけれども…

問三　次の傍線部の活用形をそれぞれ答えよ。

①　聞きしかど…

②　まうけられたりけり。

③　黄金ある竹を…

④　竹取の翁と[a]いふ者[b]ありけり。

a ＝

b ＝

⑤　「旅の心をよめ」と言ひければ…

★係り結びの法則

〈係助詞〉

ぞ
なむ
や
か
～「　　　形」。

こそ　～「　　　形」。

（例）

名をば、さかきの造となむいひ**ける**。

あざ笑ひてこそ立てり**けれ**。

※まとめ

活用形を考えるときは「　　　　　」を見る。ただし、「。」や「**カッコとじ**」の場合は、ざっと「　　　　　」を確認して「　・　・　・　・　」があるかどうかを確認する。

あれば、**係り結びの法則**に気を付ける！　なければ、「終止形」か「命令形」。

問四　次の傍線部の活用形をそれぞれ答えよ。

① いとどこそむつからめ。

② 塩尻のやうになむありける。

③ 足ずりをして泣けども、かひなし。

④ 恋ひつつぞ経る。

⑤ 夜更くるまで寝ず。

第2講　PART2　確認問題

①「呼ぶ者あり」の傍線部の活用形として、正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形
エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

②「思はずして」の傍線部の活用形として、正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形
エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

③「帝のおはしければ」の傍線部の活用形として、正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形
エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

④「男ありと言ふ」の傍線部の活用形として、正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形
エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

⑤「川の流れこそはやけれ」の傍線部の活用形として、正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形
エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

第3講　動詞

PART1　活用の種類／仕方・一段活用の動詞

動詞

基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
読む						
見る						
咲く						
着る						

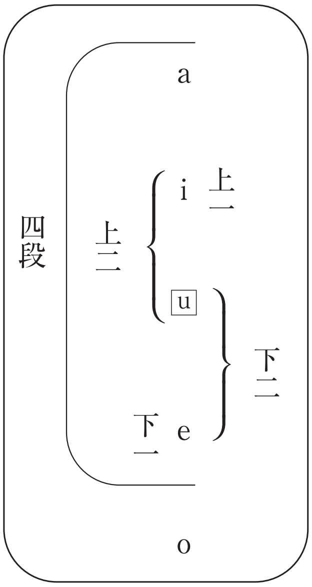
★活用の種類

四段活用・上一段活用・上二段活用・下一段活用・下二段活用

カ行変格活用・サ行変格活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用

★活用の仕方　その①

活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
四段活用	a	i	u	u	e	e
上一段活用	i	i	iる	iる	iれ	iよ
下一段活用	け	け	ける	ける	けれ	けよ
上二段活用	i	i	u	uる	uれ	iよ
下二段活用	e	e	u	uる	uれ	eよ



上一→下一＝i→け
上二→下二＝i→e

★活用の仕方　その②

活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
カ行変格活用	こ	き	く	くる	くれ	こ(よ)
サ行変格活用	せ	し	す	する	すれ	せよ
ナ行変格活用	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね
ラ行変格活用	ら	り	り	る	れ	れ

★活用の種類の見分け方　その①「覚えておくべきもの」

上一段活用＝「**干(ひ)る**」〔ハ行〕「**射る**」「**鋳(い)る**」〔　行〕「**着(き)る**」〔カ行〕「**似(に)る**」「**煮(に)る**」〔ナ行〕「**見(み)る**」〔マ行〕「**居る**」「**率る**」〔　行〕

※**上一**番の子ばかり「　＋　」

（「率**ゐる**」「顧**みる**」などもある。）

下一段活用＝「**蹴る**」

〈Memo〉

第３講　PART1　確認問題

① 「書く」という動詞は四段活用である。その活用の仕方として適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　書か／書き／書く／書く／書け／書け
イ　書き／書き／書く／書くる／書くれ／書きよ
ウ　書け／書け／書く／書くる／書くれ／書けよ
エ　書き／書き／書きる／書きる／書きれ／書きよ

② 文章の空所には、「いぬ（往ぬ）」という動詞が入る。活用形として適切なものを、次の中から一つ選べ。

「かふちへ［　　］顔にて見れば、…」

ア　いぬ　　イ　いな　　ウ　いぬる　　エ　いぬれ　　オ　いに　　カ　いね

③ 傍線部の動詞について、活用の種類として適切なものを、次の中から一つ選べ。

「かの典薬の助は蹴られたりしを…」

ア　四段活用　　イ　下一段活用　　ウ　上二段活用　　エ　カ行変格活用

④　傍線部と活用の種類が同じ動詞を、次の中から一つ選べ。

「やうやう夜も明けゆくに見れば率(ゐ)て来(こ)し女もなし。」

ア　咲く　　イ　来　　ウ　おはす　　エ　居る

⑤　傍線部の動詞について、活用の種類が四段活用でないものを、次の中から一つ選べ。

ア　立蔀(たてじとみ)、透垣(すいがい)などの乱れたるに、…。

イ　「むべ山風を」など言ひたるも、…。

ウ　人にも語らず、「習はむ。」とも思ひかけず、…。

エ　おぼろげの紙はえ張るまじければ、…。

PART2　変格活用の動詞・公式で見分ける動詞・行の考え方

カ行変格活用＝「**来**（く）」・「**〜来**」（→「まうで来」など。）

サ行変格活用＝「**す**」「**おはす**」「**ものす**」

※それ以外のサ変

● 「**〜す**」の「す」が「**する**」と訳せるもの
（例）「旅す」など

● 「**漢字一字の音読み＋す**」
（例）「奏（そう）す」「具（ぐ）す」など

● 「**〜んず**」の形＝サ変が多い
（例）「信ず」「案ず」「論ず」など

ナ行変格活用＝「**死ぬ**」「**往**（い）**ぬ**」「**去**（い）**ぬ**」

ラ行変格活用＝「**あり**」「**居**（を）**り**」「**侍**（はべ）**り**」「**いまそかり**」
（「いまそがり・いますかり・いますがり」などもラ変。）

問一　「居る」の活用の種類を答えよ。

問二　動詞ａ・ｂの活用の種類と活用形として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

すでに死なんとす。(a: 死な)
「射る事なかれ」(b: 射る)

〔活用の種類〕
①　ナ行四段　②　ナ行上二段　③　ナ行変格
④　ラ行四段　⑤　ヤ行上一段　⑥　ワ行上一段

〔活用形〕
ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

a＝　　・
b＝　　・

問三　傍線部と活用の種類が同じ動詞を、次の中から一つ選べ。

いかにあらまほしく思し召し候ふこと侍るとも、…

ア　漏れ聞き候ふべく候ふ。
イ　嫌(もど)き誹(そし)りぬべからむこと、…
ウ　心のうちも推し測らるるものにて候ふ。
エ　また、知る人、すずろに…
オ　花のやうに春ある人は、一盛り映えあるやうに…

問四　「そこになむ市の立ちけるに［　　］。」の空欄に入る言葉として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ア　侍り　　イ　あり　　ウ　侍る　　エ　侍れ　　オ　あれ

★活用の種類の見分け方　その②「覚えておくべきもの以外」

「**ず**（＝ない）」をつけて、**上の音で判断**する。

a＋ず→「　**段**」活用　（例）「咲く」→「咲**か**ず（咲**か**ない）」
i＋ず→「　**段**」活用　（例）「起く」→「起**き**ず（起**き**ない）」
e＋ず→「　**段**」活用　（例）「答ふ」→「答**へ**ず（答**へ**ない）」

★何行？

・**一段**活用は基本形の「**る**」の「**上**」の文字の行

（例）「**見**る」＝　行上一段活用
　　　「**蹴**る」＝　行下一段活用

・一段活用以外は基本形の「**最後**」の文字の行

（例）「咲**く**」＝　行四段活用

問五　傍線部ａ・ｂの、１　活用の行　２　活用の種類は何か。次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

いと多く ａ死にけるは。
君となりて ｂ過ぎむ…

１　ア　ガ行　イ　サ行　ウ　タ行　エ　ダ行　オ　ナ行　カ　ラ行

２　ア　四段活用　イ　上一段活用　ウ　上二段活用
　　エ　下一段活用　オ　下二段活用　カ　変格活用

ａ　１＝　　２＝

ｂ　１＝　　２＝

問六　傍線部ａ・ｂの、１　活用の行　２　活用の種類　３　活用形は何か。次の中からそれぞれ選べ（重複使用可）。

人も　見ず。（ａ＝見）
うち　笑みて、…（ｂ＝笑み）

１　ア　ア行　　イ　ハ行　　ウ　マ行　　エ　ヤ行　　オ　ラ行　　カ　ワ行

２　ア　四段活用　　イ　上一段活用　　ウ　上二段活用
　　エ　下一段活用　　オ　下二段活用　　カ　変格活用

３　ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

ａ　１＝　　２＝　　３＝

ｂ　１＝　　２＝　　３＝

第３講　PART２　確認問題

①　傍線部の動詞について、活用の種類・活用形の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選べ。

「いもがしらといふ物を好みて、多く食ひけり。」

ア　ナ行四段活用・連体形　　イ　マ行四段活用・連用形
ウ　マ行上一段活用・連用形　　エ　カ行変格活用・終止形

②　傍線部の動詞について、活用形として適切なものを、次の中から一つ選べ。

「按察使（あぜち）の大納言のいで給へるほどにおはして、…」

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

③　「取り分かつべくも侍らず」の「侍ら」と同じ活用をする動詞として、適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　天皇の所に奏す。　　イ　やがて引き結びてたてまつる。
ウ　君まさに死なむとす。　　エ　つれづれとこもり居りけり。

④　傍線部を現代語訳したものとして、適切なものを次の中から一つ選べ。なお、「てふ」とは「と言ふ」が変化したものである。

「<u>恋すてふ</u>　わが名はまだき　立ちにけり　人知れずこそ　思ひそめしか」

ア　恋であったと言う　　イ　恋になったと言う　　ウ　恋をしていると言う　　エ　恋しいと言う

⑤　「帝に、かくなむありつると<u>奏しけれ</u>ば…」の傍線部について、活用の種類として適切なものを、次の中から一つ選べ。

ア　サ行変格活用　　イ　サ行四段活用　　ウ　サ行上二段活用　　エ　サ行下二段活用

⑥　「人の田を［　　］者、…」の空欄に入るものとして、適切なものを次の中から一つ選べ。

ア　論ず　　イ　論じる　　ウ　論ずる　　エ　論ずれ

第4講　動詞の活用表と応用編

PART1　よく似た動詞（見る・見す・見ゆ）

〔例題一〕 次の傍線部の活用の種類と活用形を答えよ。

目に見ゆる物も、…

★よく似た動詞

見る＝　　行　　活用
見す＝　　行　　活用
見ゆ＝　　行　　活用

〔例題二〕 次の傍線部の活用の種類と活用形を答えよ。

① 鎧着て、…

② 竹の中におはするにて、…

③　鳶(とび)ゐさせじとて…

問七　次の傍線部の活用の種類と活用形を答えよ。

①　京童部(きやうわらんべ)どもといさかひをしけり。

②　聞き[a]　はべる[b]に、…

a＝

b＝

③　やすらかなるこそ、心にくしと見ゆれ。

④　露の落つるに、…

⑤　人を遣りて見するに、…

⑥ かくまうで来[き]たるなり。

⑦ 率[a]て出で[b]ていぬ[c]。

a＝

b＝

c＝

⑧ それを見れ[a]ば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうて居[b]たり。

a＝

b＝

〈Memo〉

第4講　PART1　確認問題

①　傍線部の活用の種類と活用形として適切なものを、次の中から選べ。

「月のいみじう明き夜、端に居て見るほどに、…」

ア　上二段活用・終止形　　イ　上二段活用・連体形
ウ　上一段活用・終止形　　エ　上一段活用・連体形

②　傍線部と同じ活用をする動詞を、次の中から選べ。

「かぐや姫に見せたてまつりたまへ」

ア　射る　　イ　与ふ　　ウ　待つ　　エ　恥づ

③　傍線部と活用の行と種類が同じ動詞を、次の中から選べ。

「この国に見えぬ玉の枝なり。…」

ア　似る　　イ　心得　　ウ　燃ゆ　　エ　報ゆ

④　活用の種類が他の三つと異なる動詞を、次の中から選べ。

ア　植う（う）　イ　居る　ウ　射る　エ　率る

⑤　傍線部の活用の行・種類・活用形として適切なものを、次の中から選べ。

「萱草（くわんざう）の袴（はかま）など着たるもをかしき姿なり」

ア　カ行四段活用・終止形
イ　カ行上一段活用・連用形
ウ　カ行上二段活用・已然形
エ　カ行変格活用・連用形

PART2 活用表の書き方・終止形が一文字の動詞

★「基本形」と「語幹」

①基本形	②語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
咲く	咲	か	き	く	く	け	け	カ行四段活用
見る	○	み	み	みる	みる	みれ	みよ	マ行上一段活用

①「基本形」＝「ない」をつけて、**「ない」の上の音をU段**にする。（「上一段」と「ラ変」以外。）

(例)　現代語では「受ける」。古語で「基本形」は？

②「語幹」＝「基本形」―「終止形」の文字

(例)　「咲く」―「く」＝「咲」が語幹
「見る」―「みる」＝語幹なし

★終止形が一文字の動詞

来＝　行　活用

す＝　行　活用

得＝　行　活用

寝＝　行　活用

経＝　行　活用

問一　次の傍線部の漢字の振りがなの中に、不適切なものが一つある。その記号を示して、正しい振りがなを書け。

年ごろ経(へ)[ア]るほどに、…
君があたり見つつを居(を)[イ]らむ生駒山…
かの山の中に居(ゐ)[ウ]て、言ひいでて…

問二　傍線部の動詞の活用の種類として、最も適当なものを次の中から一つずつ選べ。

百年、千年を経[a]て見れども、…
いみじくあはれなるはあれ[b]。
末の世にとどまるばかりのふしを書きとどむ[c]べき、とはおぼゆる。
いまだ宮仕へもせ[d]で里にはべりける折、…
「〜」などこそ見え[e]てはべれ。

ア　ア行四段活用　　イ　マ行四段活用　　ウ　ラ行四段活用　　エ　カ行上一段活用
オ　タ行上二段活用　　カ　マ行下二段活用　　キ　ハ行下二段活用　　ク　ヤ行下二段活用
ケ　サ行変格活用　　コ　ラ行変格活用

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

〈Memo〉

第4講　PART2　確認問題

① 傍線部の活用の種類と活用形として適当なものを次の中から選べ。

「心を悩ますことは、…」

ア　サ行四段活用・終止形　　イ　サ行四段活用・連体形
ウ　サ行下二段活用・終止形　　エ　サ行下二段活用・連体形

② 傍線部の読みとして適当なものを、次の中から選べ。

「やはらかに寝る夜はなくて、…」

ア　に　　イ　ぬ　　ウ　ね　　エ　いぬ

③ 傍線部の語幹として適当なものを、次の中から選べ。

「後(うしろ)かげの見ゆるまではと見送るなるべし」

ア　見　　イ　見ゆ　　ウ　見ゆる　　エ　語幹なし

④　□に入れる言葉として最も適当なものを次の中から選べ。

「世に伝ふ事も□し」

ア　侍ら　　イ　侍り　　ウ　侍る　　エ　侍れ

⑤　傍線部の活用の種類として最も適当なものを次の中から選べ。

「昔人は、かくいちはやきみやびをなむ<u>し</u>ける」

ア　サ行四段活用　　イ　サ行上一段活用

ウ　サ行変格活用　　エ　サ行下二段活用

PART3　活用の行を覚えておくべき動詞

★「活用の行」を覚えておくべき動詞九個

●射る・鋳る＝　　行上一段活用
●**得**(う)・心**得**(こころう)・所**得**(ところう)＝　　行下二段活用
●植(う)う・飢(う)う・据(す)う＝　　行下二段活用
●老(お)ゆ・悔(く)ゆ・報(むく)ゆ＝　**ヤ行**上二段活用

植うず

老いず

問三　傍線部a・b・c・d・eの動詞の活用の種類として最も適切なものを、次の中から一つずつ選べ。

事あらむ人は、<u>植う</u>[a]べからぬ草なり。
一人<u>ゐ</u>[b]て、物を食ひ…
あちこちねぢむきて、人に<u>見え</u>[c]けり。
よき味方を<u>得</u>[d]たり。
「<u>射る</u>[e]事なかれ」

ア　ア行四段活用　　イ　ア行上二段活用　　ウ　ア行下二段活用　　エ　ハ行四段活用
オ　マ行上一段活用　　カ　マ行下二段活用　　キ　ヤ行上一段活用　　ク　ヤ行下二段活用
ケ　ワ行上一段活用　　コ　ワ行下二段活用

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝

問四　「この事を悔いて、死にたる…」の傍線部の活用の種類を答えよ。

問五　空欄 a ～ c は現代語では、ａは「据える」、ｂは「出る」、ｃは「老いる」に相当する。それぞれ最も適当なひらがな一字で答えよ。（歴史的仮名遣いに注意すること。）

われをおとなにしす a て、
立ち出 b るほどのここち、
日ぐらし、父の老 c おとろへて、

ａ＝　　　　ｂ＝　　　　ｃ＝

〈Memo〉

第4講　PART3　確認問題

①　傍線部の活用の行として最も適当なものを、次の中から選べ。

「心得ず思(おぼ)しめされつらめども、…」

ア　ア行　　イ　ハ行　　ウ　ヤ行　　エ　ワ行

②　傍線部の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

「さやうにこそ悔いたまふをりをりありしか。」

ア　ア行上一段活用　　イ　ア行下二段活用

ウ　ヤ行上一段活用　　エ　ヤ行上二段活用

③　「むかし、男、人の前栽に菊植□けるに、…」の□に入るひらがな一文字を次の中から選べ。

ア　ゐ　　イ　え　　ウ　へ　　エ　ゑ

④　傍線部の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

「心さかしき者、念じて射んとすれども、…」

ア　ヤ行上一段活用　　イ　ヤ行上二段活用

ウ　ワ行上一段活用　　エ　ワ行上二段活用

⑤　傍線部と活用の行が同じものを、次の中から選べ。

「あななひにあげ据ゑられたり」

ア　所得（ところう）　　イ　笑む

ウ　率る　　エ　居り

PART4　四段と下二段の活用がある動詞

★活用の種類が「四段」と「下二段」の二種類ある動詞→「訳し方の違い」がある。

四段＝そのまま訳す
下二段＝四段の意味＋「　　」

（例）

「入る」
四段＝中にはいる
下二段＝（中にはいらせる→）中に入れる

「立つ」
四段＝
下二段＝

「慰む」
四段＝心が晴れる
下二段＝（心を晴れさせる→）慰める

※特に大事な「二種類ある動詞」

「被く（かづく）」
四段＝かぶる・褒美をいただく
下二段＝かぶせる・褒美を与える

「頼む」
四段＝頼みにする・あてにする
下二段＝頼みに思わせる・あてにさせる

問六　「女房の装束一襲（かさね）かづけ給ひけり。」の傍線部の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　お与えになった　イ　奪いなさった　ウ　お作りになった
エ　奉納なさった　オ　保管なさった

問七　「頼めて」の意味として最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

ア　頼りにして　イ　期待させておいて　ウ　なんとかして　エ　ひたすらお願いして

第4講　PART4　確認問題

① 傍線部の活用の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

「箱にいれ給ひて、ものの枝につけて、…」

ア　四段活用　　イ　上一段活用　　ウ　下一段活用　　エ　下二段活用

② 傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「御物の怪などの、これも、人の御心乱らんとて、…」

ア　乱れるだろうといって　　イ　乱そうとして
ウ　乱さないといって　　エ　乱れまいとして

③ 「黒いものをかぶって」という意味になるように、［　］に入る言葉を次の中から選べ。

「黒きものを［　］て」

ア　かづか　　イ　かづき　　ウ　かづく　　エ　かづけ

④　「頼めたまふめり」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　頼みに思わせなさるようである
イ　頼みとしていらっしゃるようである
ウ　お便りをくださるようである
エ　信頼できる人なのであろう

⑤　傍線部の活用の種類と活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

「東向きに椅子立てて」

ア　四段活用・已然形　　イ　四段活用・命令形
ウ　下二段活用・未然形　　エ　下二段活用・連用形

第5講　形容詞・形容動詞・音便

PART 1　形容詞

形容詞

性質や**状態**を表し、終止形が「～　　」となる。

★活用の種類

「ク活用・シク活用」

※見分け方＝「**なる**」をつける。「～**く**なる」＝**ク**活用、「～**しく**なる」＝**シク**活用。

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
活用	白し	白						
			から	かり	○	かる	○	かれ
活用	をかし	をか	しく	しく	し	しき	しけれ	○
			しから	しかり	○	しかる	○	しかれ

※「　　　　」には、基本**下に助動詞**がつく。

問八　次の傍線部の活用の種類と活用形を答えよ。

①　ましてやすからず。

②　はかばかしき後見しなければ、…

a＝

b＝

③　散ればこそいとど桜はめでたけれ。

④　この妻の心憂きこと多くて、…

⑤　いかばかりあやしかりけむを、…

⑥　いみじく心もとなきままに、…

a＝

b＝

問九　次の空欄Ａ、Ｂそれぞれに、形容詞「いみじ」を最も適当な形にして入れよ。

「［Ａ］牛の力かな」

「［Ｂ］求めさせ給へば、…」

Ａ＝

Ｂ＝

★形容詞の語幹用法→「訳し方」を覚える

●**和歌中**　A（**を**）B**み**　＝「**AがBなので**」

（例）瀬をはやみ＝川瀬の流れが速いので

●**あな**（「**あら**」もしくは「**単独**」）、語幹。＝「**ああ、～。**」

（例）あな、かま。＝（ああ、やかましい。↓）しぃっ、静かに。

※形容詞「かまし」（ク活用）はシク活用説もありますが、本講座では「あなかま」の「かま」はク活用の語幹説で説明しております。
　二つある説ですから、ここでは「かまし」の活用の種類よりは、重要な「あなかま」の訳し方をおさえましょう。
　そのときに、「かま」＝「かまし」がわかると、訳が思い出せるはずなので便利です。

●語幹＋の＋体言（や）。＝「～の体言だなぁ。」

（例）をかしの御髪（みぐし）や。＝美しい御髪だなぁ。

問一　「空寒み花にまがへて散る雪に…」の傍線部を現代語訳せよ。

問二　「あな幼や。」を現代語訳せよ。

第5講　PART1　確認問題

①　空欄には、「はかなし」が入る。適切な形にしたものを、次の中から一つ選べ。

「末までと契りおくこそ［　　］。」

ア　はかなし　イ　はかなき　ウ　はかなかる　エ　はかなかり　オ　はかなけれ

②　傍線部について、活用の種類・活用形の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選べ。

「せむ方なかりければ、…。」（傍線部：なかり）

ア　ク活用・連用形　イ　ク活用・已然形　ウ　シク活用・終止形　エ　シク活用・連用形

③　空欄には、「悲し」が入る。適切な形にしたものを、次の中から一つ選べ。

「起き別れなむことぞ［　　］。」

ア　かなし　イ　かなしき　ウ　かなしかる　エ　かなしかり　オ　かなしけれ

④　傍線部の現代語訳として、適切なものを次の中から一つ選べ。

「秋の田の　かりほの庵の　苫をあらみ　わが衣手は　露にぬれつつ」

ア　苫があらい　　イ　苫があらいだろう　　ウ　苫があらいので　　エ　苫があらくなる

⑤　空欄には、「めでたし」という形容詞が入る。「ああ、すばらしいことだ。」という現代語訳になるよう、適切な形にしたものを、次の中から一つ選べ。

「あな［　　］や。この獅子の立ちやう、…。」

ア　めでたく　　イ　めでたき　　ウ　めでた　　エ　めでたし

PART2　形容動詞・音便

形容動詞

性質や状態を表し、終止形が「～　　」「～　　」となる。

★活用の種類

「ナリ活用・タリ活用」

活用の種類	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ナリ活用	静かなり		なら	なり ┊	なり	なる	なれ	なれ
タリ活用	堂々たり			┊				

※連用形「　　・　　」には、基本**下に助動詞**がつく。

問三　次の傍線部の活用の種類と活用形を答えよ。

①　うつくしげなるかたちなり。

②　前栽どもいと心苦しげなり。

③　いみじく泣くを見給ふも、すずろに悲し。

④　漫々たる海上を遠見して…

⑤　日もいと長きに、つれづれなれば、夕暮の…

⑥　契り深くあはれならめ。

⑦　佳景（かけい）〔＝素晴らしい景色〕寂寞（じゃくまく）と〔＝静まり返っている様子〕して…

「音便」

発音しやすいように、別の音に変化する現象のこと。

（例）書**き**て→書**い**て　＝「**イ**音便」という。

【動詞】

●イ音便「き・ぎ・し」→「い」

●ウ音便「ひ・び・み」→「う」（例）買**ひ**て→買**う**て

●**促音**便「ひ・ち・り」→「**つ**」（例）買**ひ**て→買**つ**て

●**撥音**便「に・み・び」→「**ん**」（例）飛**び**て→飛**ん**で

ラ行変格活用連体形活用語尾「**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）あ**る**なり→あ**ん**なり→あなり

【形容詞】

●イ音便　「き」→「い」（例）白**き**花→白**い**花

●ウ音便　「く」→「う」（例）苦し**く**て→苦し**う**て

●撥音便　「か＋ラ変」の連体形活用語尾「か**る**・しか**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）

→「か**ん**・しか**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）白か**る**なり→白か**ん**なり→白かなり

【形容動詞】

●撥音便　連体形活用語尾「な**る**」＋**推定**の助動詞（「なり・めり」など）→「な**ん**」

※この「ん」は省略されやすい。

（例）静かな**る**めり→静かな**ん**めり→静かなめり

第５講　PART２　確認問題

①　傍線部の形容動詞には誤りがある。適切な形にしたものを、次の中から一つ選べ。

「風しんしんと曾根崎の森にぞたどり着きにける。」

ア　しんしんたる　　イ　しんしんたら　　ウ　しんしんたり　　エ　しんしんたれ

②　傍線部について、活用の種類・活用形の組み合わせとして適切なものを、次の中から一つ選べ。

「ある小家のあやしげなるに立ち寄りて、…。」

ア　シク活用・命令形　　イ　ラ行四段活用・未然形　　ウ　タリ活用・連用形　　エ　ナリ活用・連体形

③　傍線部は、音便が用いられている。その名称として適切なものを、次の中から一つ選べ。

「野分のまたの日こそ、いみじうあはれに、をかしけれ。」

ア　イ音便　　イ　ウ音便　　ウ　撥音便　　エ　促音便

④「心苦しげなんめり」の傍線部と音便が同じものを、次の中から一つ選べ。

ア　白い雪なり
イ　よっぴいて、ひゃうど放つ
ウ　「あなや」と思って
エ　忍んで入りたるに

⑤　傍線部と活用の種類が同じものを、次の中から一つ選べ。

「夏虫、いとをかしう、らうたげなり。」

ア　人知れずいみじう思し嘆かせ給へど、…。
イ　昔の山里よりは水の音もなごやかなり。
ウ　いづくにいかにしておはすらむ。
エ　いとあはれになつかしうをかし。

第６講　助動詞（活用）

PART１　助動詞

★助動詞とは？

用言や体言などに付いて、意味を加える語

（現代語）		（古文）	
読まない。	➡	読み**ず**。	〔打消〕
読んだ。	➡	読み**けり**。	〔過去〕
今、読んでいるだろう。	➡	読む**らむ**。	〔現在推量〕
猫である。	➡	猫**なり**。	〔断定〕

※助動詞を勉強する際の３つのポイント＝**「活用」「接続」「意味」**

〈Memo〉

第6講 PART1 確認問題

① 助動詞についての説明として正しいものを、次の中から選べ。

ア　単独で主語になることができる
イ　物事の動作や状態などを表す
ウ　用言や体言に付いて意味を加える
エ　用言を修飾する

② 「書かない」を古文で表すと「書か［　　］」となる。空欄に入る語として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ず　　イ　た　　ウ　なり　　エ　て

③ 「今、書いているだろう」を古文で表すと「書くら<u>む</u>」となる。傍線部の意味として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　打消　　イ　過去　　ウ　現在推量　　エ　断定

④ 「よき事なり。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　よいことだなあ。
イ　よいことである。
ウ　よいことだった。
エ　よいことだろう。

⑤ 次の傍線部ア〜エから助動詞を一つ選べ。

「いまは昔、竹取の翁（おきな）と　いふ（ア）　もの（イ）　あり（ウ）　けり（エ）。」

PART2　助動詞の活用

★【活用】

下二段型	**る・らる・す・さす・しむ・つ**
ラ変型	**けり**・たり・なり・めり・**り**　**※断定**の「なり」・「たり」は**形容動詞型**
無変化型	じ・らし
形容詞型	まほ**し**・たし・べし・まじ・ごとし　（※「**じ・らし・まし**」**以外の**「**〜し・〜じ**」）
（四段型）	**む・らむ・けむ**
サ変型	むず
ナ変型	**ぬ**
特殊型	**ず**・**き**・**まし**

（例）

助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
る						
けり	けら	○	けり	ける	けれ	○
じ	○	○	じ	じ	じ	○

★特殊型の助動詞の活用表

助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
まほし	まほしく まほしから	まほしく まほしかり	まほし ○	まほしき まほしかる	まほしけれ ○	○ ○
む	○	○	む	む	め	○
むず	○	○	むず	むずる	むずれ	○

助動詞	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
ず	 ざら	 ざり	 ○	 ざる	 ざれ	 ざれ
き						
まし						

↓下に「　　」がつく

問四　次のカッコ内の語を文法的に正しく活用させ、記せ。

（例）　名をば、さかきの造となむいひ（けり）。

①　こたへやはせ（ず）。

②　寝入りたまひ（ぬ）けり。

③　子になりたまふ（べし）人なめり。

④　先々も申さむと思ひ（き）ども、…

⑤　月も入ら（じ）を。

⑥　われこそすすみ仕（つか）うまつら（まし）。

〈Memo〉

第6講　PART2　確認問題

①　助動詞「る」と同じ活用型の助動詞を、次の中から選べ。

ア　つ　イ　り　ウ　まほし　エ　けり

②　「窓をへだててかくぞいひ[　　]。」の空所にあてはまる助動詞として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　き　イ　しか　ウ　たり　エ　ける　オ　けれ

③　「子持ちてこそ、親の心ざしは思ひ知る[　　]。」の空所にあてはまる助動詞として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　なり　イ　らむ　ウ　なれ　エ　べし

④　助動詞「き」の已然形を、次の中から選べ。

ア　き　イ　し　ウ　しか　エ　せ

⑤「人の家まださだまら（ず）ける。」の（　）内の語を文法的に正しく活用させたものを、次の中から選べ。

ア　ぬ　　イ　ね　　ウ　ざる　　エ　ざり

PART1　助動詞の接続

★【接続】（＝何形にくっつくか。＝上が何形か。）

（例）次のカッコ内の語を文法的に正しく活用させ、記しなさい。

（答ふ）べし。

（例）次の傍線部の活用形は何形？

読むべし。

（例）次の現代語訳は？

くるべきものなり。

接続	助動詞
未然形	る・らる・す・さす・しむ・む・ず・むず・じ・まし・まほし
連用形	けり・き・つ・たり（完了）・ぬ・けむ・たし
終止形 ※ラ変型＝連体形	めり・らむ・らし・まじ・なり（伝聞推定）・べし
サ変**未**然形 **四段已**然形	り
体言・連体形	なり（断定）
体言	たり（断定）
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし

第７講　PART１　確認問題

①　助動詞「たり」について説明した文の空欄Ａ・Ｂに入る語として、最も適当なものの組み合わせを次の中から一つ選べ。

助動詞「たり」は、連用形に接続する場合は［Ａ］の意味を表し、体言に接続する場合は［Ｂ］の意味を表す。

ア　推量・断定　　イ　推量・願望　　ウ　完了・使役　　エ　完了・断定　　オ　願望・使役
カ　願望・完了

②　「さらに来じ」の傍線部の読みとして、正しいものを次の中から選べ。

ア　こ　　イ　き　　ウ　く　　エ　くる　　オ　くれ

③　「たち代はりて参り来べきを、…」の傍線部の、活用の行・活用の種類・活用形　は何か。最も適当なものの組み合わせを次の中からそれぞれ選べ。

ア　マ行・四段活用・終止形　　イ　カ行・変格活用・終止形　　ウ　マ行・変格活用・連体形
エ　カ行・四段活用・連体形

④「いづくに作れるにか（あり）らむ。」の（　）内の語を文法的に正しく活用させたものを、次の中から選べ。

ア　あら　　イ　あり　　ウ　ある　　エ　あれ

⑤「垣を吹きはらひて隣と一つになせり。」の傍線部の文法的な説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行四段活用動詞の未然形

イ　サ行四段活用動詞の已然形

ウ　サ行変格活用動詞の未然形

エ　サ行変格活用動詞の已然形

PART2　接続の例題・練習問題

〈例題〉

①　次の「なり」の意味をそれぞれ答えよ。

男もすなる[a]日記といふものを、女もしてみむとて、するなり[b]。

a＝

b＝

②　次の傍線部の意味と活用形を答えよ。

御妻（みめ）たりき。

問一　次のカッコ内の語を文法的に正しく活用させ、記しなさい。

①　御契りや（深し）けむ、…

②　人知れず、うち泣か（る）ぬ。

③　映ら（ず）まし。

④　世を思し召されける（なり）べし。

⑤　いと口惜しと（思ふ）り。

⑥　さるべきにこそ（あり）め。

⑦　これより（過ぐ）させおはしますめり。

問二　傍線部ａ・ｂの「来」の読みとして、正しいものを次の中から選べ。

「ここに参り来べかりければこそと、…」
「参り来むことのわりなかるべきこと」

ア　こ　　イ　き　　ウ　く　　エ　くる　　オ　くれ

ａ＝　　ｂ＝

問三　「深く心得べきなり」の傍線部の文法的な説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ア行下二段活用動詞の連体形　　イ　ア行下二段活用動詞の終止形
ウ　ハ行下二段活用動詞の連体形　　エ　ハ行下二段活用動詞の終止形
オ　ワ行下二段活用動詞の連体形　　カ　ワ行下二段活用動詞の終止形

問四　「夫人の見けむ目のやうにはあらずとも…」の傍線部の活用の行・活用の種類・活用形をそれぞれ書け。

問五　「山籠もりにて［　　］むを聞かむのみぞうれしかるべき。」の空欄に入る「おはす」の正しい活用形を、次の中から選べ。

ア　おはさ　　イ　おはし　　ウ　おはす　　エ　おはすれ　　オ　おはせ

問六　「大輔［　　］ましかば、恥がましかりける事かなとぞ、仰せられける。」の空欄には、「なし」の活用語が入る。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　なし　　イ　なから　　ウ　なかり　　エ　なかる　　オ　なかれ

第7講　PART2　確認問題

①「かねてより物見車(ものみぐるま)心づかひし［　　］。」の空所にあてはまる助動詞として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　なり　　イ　けり　　ウ　めり　　エ　り

②「ただ今これより過ぎさせおはしますめり。」の傍線部の活用形として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

③「つゆまどろまれず、…」の傍線部の説明として正しいものを、次の中から選べ。

ア　助動詞「り」の已然形
イ　助動詞「り」の命令形
ウ　助動詞「る」の未然形
エ　助動詞「る」の連用形

④「息も絶えつつ、［　］まほしげなることはありげなれど、…」の空所には「聞こゆ」の活用語が入る。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　聞こえ　イ　聞こゆ　ウ　聞こゆる　エ　聞こゆれ　オ　聞こえよ

⑤「われまたかく［　］ごとし。」の空所にあてはまる語として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　の　イ　に　ウ　と　エ　は

第８講　ず・き・けり

PART1　ず

ず

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	ず							特殊型 ＋　型

【意味】

①　打消（〜ない）

問七　「なかなか止まるべきにあらざれば、…」の傍線部の終止形を答えなさい。

問八　「忘れ［A］けり」の空欄Aにあてはまる「ず」の助動詞を、適切な活用形にして書きなさい。

問九　次の空欄［A］・［B］には助動詞「ず」が入る。それぞれにふさわしい形を後の中から選べ。

「秀郷も後ろをかへりみ［A］、はるかに行き隔たりぬ。」
「夢も結ば［B］仮寝の枕、…」

ア　ず　　イ　ざり　　ウ　ぬ　　エ　ざれ　　オ　ね

A＝　　B＝

問十　「心も又ひとしきものにあら［A］。」の空欄Aにあてはまる打ち消しの助動詞「ず」の活用形として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ず　　イ　じ　　ウ　ざり　　エ　ざらむ　　オ　ざる

第8講　PART1　確認問題

①「思ひとけば、ものなむはづかしからぬ。」の傍線部の口語訳として正しいものを、次の中から選べ。

ア　はずかしくないつもりだ
イ　はずかしくないだろう
ウ　はずかしくない
エ　はずかしくはあるまい

②「漂泊の思ひやまず、…」の傍線部の活用形として正しいものを、次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

③「風はげしく吹きて、静かならざりし夜、…」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものとその活用形として正しいものの組み合わせを、次の中から選べ。

ア　打消・連用形　イ　過去推量・已然形　ウ　存続・連体形　エ　意志・已然形　オ　推量・未然形
カ　打消・連体形　キ　過去推量・連用形　ク　存続・未然形　ケ　意志・終止形　コ　推量・終止形

④「あたりを離れ［a］君達（きんだち）、…」の空欄aにあてはまる助動詞「ず」の活用形として正しいものを次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

⑤「長々しき状までもいるべから［a］、これを持ちて近衛殿へ捧げよ」の空欄aには助動詞「ず」が入る。正しく活用させた語を次の中から選べ。

ア　ざら　　イ　ず　　ウ　ざり　　エ　ぬ　　オ　ね

き・けり

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	き							特殊型
形	けり		○				○	型

※「き」の接続＝　形。ただし、「き」の連体形「　」と已然形「　」は、**カ変・サ変**の**未然形**にも接続する。

	未然形	連用形
カ変動詞	**こ**（し／しか）	き（し／しか）
サ変動詞	**せ**（し／しか）	（し―き）

【意味】

●「き」　①「　　」**過去**（〜た）→「　　」の経験

●「けり」①「　　」**過去**（〜た・〜たそうだ）→「　　」の経験

②**詠嘆**（〜よ・〜なあ）

★「き」と「けり」の使い分け例

後徳大寺(ごとくだいじ)の大臣(おとど)の、寝殿に鳶(とび)ゐさせじとて縄を張られたり**ける**を、西行が見て、「〜」とて、その後(のち)は参らざり**ける**と聞きはべるに、綾小路(あやのこうぢ)の宮のおはします小坂殿(こさかどの)の棟に、いつぞや縄を引かれたり**しか**ば、かの例(ためし)思ひ出(い)でられはべり**し**に、まことや、「〜」と人の語り**し**こそ、「〜」とおぼえ**しか**。

★**詠嘆の「けり」**

1　「　中」の「けり」

（例）見わたせば花も紅葉もなかり**けり**浦の苫屋（とまや）の秋の夕暮

2　「**けり**」の「**けり**」

（例）（騙されていたことに気づき）「朕（われ）をば謀（はか）るなり**けり**。」

3　「べかり**けり**」の「**けり**」

（例）（星も出ていない暗い夜に）「（月の明るい夜はかえって良くなく）まばゆかりぬべかり**けり**。」

4　**会話文**中の「けり」（↓文脈判断。**まず詠嘆**で訳す。おかしければ過去。）

（例）（叔母の家に行ったところ、叔母からの言葉）「いとうつくしう、生ひなりに**けり**。」

問一 「合はせ［ a ］ども、…」の［ a ］に助動詞「き」を正しく活用させて入れよ。

問二 「いみじうおそろしうこそ侍り［　］。」の空欄に、助動詞「き」を適切な活用形にして入れよ。

問三 「みづから浮世坊とぞ付きに［ A ］。」の空欄Aに該当する過去の助動詞の活用形をひらがな二文字で記しなさい。

問四 次の傍線部の中から「過去」の意味のものを一つ選べ。

ア 畢(は)てにければ　イ 聞こしめしてければ　ウ 来ざらむ所にて
エ 孫を見むと　オ まかり返りね

問五 （薄情な人にむかって）「いみじうつらき御心なりけり」の傍線部「けり」の助動詞の意味は何か答えよ。

問六　傍線部の文中での意味および活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

事の子細を尋ねければ、「さることはべりき。…」

ア　過去・未然形　　イ　過去・已然形　　ウ　詠嘆・未然形　　エ　詠嘆・已然形

問七　傍線部の文法的な説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

秋やくるつゆやまがふと思ふまであるは涙のふるにぞありける

ア　過去の助動詞の連用形　　イ　詠嘆の助動詞の終止形
ウ　詠嘆の助動詞の連体形　　エ　過去の助動詞の已然形

〈Memo〉

第8講　PART2　確認問題

① 「あはれに同じやうなるもののさまかなと見侍り<u>し</u>に、…」の傍線部の活用形として正しいものを、次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

② 次の各傍線部の中から、過去の助動詞を一つ選べ。

「いかで都へと便り求め<u>し</u>(ア)もことわりなり。中にもこの関は三関(さんくわん)の一(いつ)に<u>して</u>(イ)、風騒(ふうさう)の人(ひと)心をとどむ。秋風を耳に残<u>し</u>(ウ)、紅葉(もみぢ)を俤(おもかげ)に<u>して</u>(エ)、青葉の梢(こずゑ)なほあはれなり。」

ア　求めし　イ　三関の一にして　ウ　耳に残し　エ　俤にして

③ 「仰せ合せ<u>しか</u>ば、人の亡び失せし事、…」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　尊敬　イ　完了　ウ　自発　エ　使役　オ　過去

④「(虎が) 鰐に食ひ切られたるなりけりと見る程に、…」の傍線部「けり」と同じ意味・用法の「けり」が使われている文を、次の中から選べ。

ア　身をえうなき物に思ひなして、京にはあらじ、東の方に住むべき国もとめにとて行きけり。
イ　八重葎しげれる宿のさびしきに人こそ見えね秋は来にけり
ウ　野山にまじりて竹を取りつつよろづの事に使ひけり。
エ　いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めき給ふありけり。

⑤「主は二十五、六ばかりのをのこにてこそはいませしか。」の傍線部「しか」と同じ活用形のものを、次の中から選べ。

ア　「夏山となむ申す」と申ししを、…
イ　「姓(しやう)はなにとかいふ」と問ひ侍りければ、…
ウ　しかのごとくに、入道殿の御栄えを申さむと思ふほどに、…
エ　文徳天皇と申す帝(みかど)おはしましき。

第9講　つ・ぬ・たり・り

PART1　つ・ぬの説明

つ・ぬ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	つ							型
形	ぬ							型

【意味】

① **完了**（～た）

② **強意**（きっと～・必ず～）（＝確述用法）

③ 並立（～たり～たり）

※終止形を重ねて用いる

（例）白波の上に漂ひ、浮き**ぬ**沈み**ぬ**ゆられければ、…

（例）「風吹きぬべし。」の現代語訳として正しいものを次の中から選べ。

ア　風が吹いただろう。

イ　風がきっと吹くだろう。

ウ　風がきっと吹いただろう。

★〈「完了」と「強意」の見分け方〉＝「　　　　　　」を見る

強意になるとき

つ　　ぬ　＋「　　　　」（系）

※次ページ参照

むむ
（てん）
（なん）
まし
まし
けむ
けむ
べし
べし
らむ
らむ

（例）次の傍線部の助動詞の意味は？

日暮れになりぬ。

月も隠れなむ。

〔例題〕「風吹きぬべし。」の現代語訳として正しいものを次の中から選べ。

ア　風が吹いただろう。
イ　風がきっと吹くだろう。
ウ　風がきっと吹いただろう。

問八　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　この使ひを失ひつらむ心憂さよ。
②　いふかひなくて、ともに帰りぬ。
③　こはいかなる物を食はせつるぞ。
④　今は世の花も、盛り過ぎぬらむ。
⑤　涙も落ちぬべければ、…

問九　「置きて逃げて来ぬ。」の傍線部の読みを答えよ。

問十　次の傍線部のうち、助動詞「ぬ」はどれか。適切なものを選べ。

ア　いたう罪な作り給ひそ。

イ　まめまめしきものは、まさなかりなむ。

ウ　春を忘るな。

問十一　傍線部ａ・ｂの意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

とてもかくても過ぎなん[a]。

恩所あれども生を変へぬれ[b]ば、…

ア　過去　　イ　完了　　ウ　強意　　エ　存続　　オ　打消推量

a＝　　　b＝

問十二　傍線部ａ・ｂの意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

横笛も様をかへたるよし聞こえ[a]しかば、滝口入道一首の歌を送りけり。

遂にはかなくなり[b]にけり。

ア　過去　イ　完了　ウ　強意　エ　存続　オ　過去推量

ａ＝　　ｂ＝

問十三　傍線部ａ・ｂの説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

山野に迷はせたまはむことこそ悲し[a]けれ。

入道死に[b]なば、各々…

ア　過去　イ　詠嘆　ウ　完了　エ　強意　オ　存続

カ　動詞の活用語尾　キ　形容詞の活用語尾　ク　形容動詞の活用語尾

ａ＝　　ｂ＝

第9講　PART1　確認問題

①「あまた年経ぬれば、…」の傍線部の活用の種類と活用形として正しいものを、次の中から選べ。

ア　四段活用・未然形
イ　四段活用・連用形
ウ　下二段活用・未然形
エ　下二段活用・連用形
オ　ラ行変格活用・未然形

②「あはれなり［ａ］こと、忍びやかに奏す。」の空欄ａには助動詞「つ」が入る。正しく活用させた語を次の中から選べ。

ア　て　イ　つ　ウ　つる　エ　つれ　オ　てよ

③「うせさせ給ひぬるやうなる。」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　過去　イ　断定　ウ　完了　エ　存続　オ　強意

④「つひにほろびぬべしとて、…」の傍線部の口語訳として正しいものを、次の中から選べ。

ア　きっと破滅してしまう
イ　おそらく破滅しただろう
ウ　やがて破滅するだろう
エ　ついに破滅してしまった

⑤「草加といふ宿（しゆく）にたどり着きにけり。」の傍線部と同じ活用形のものを、次の中から選べ。

ア　われ、物握りたり。いまは下ろしてよ。
イ　馬を返しぬ。
ウ　身もほろびなむ。
エ　親王おほとのごもらであかし給うてけり。

PART2　たり・り

たり・り

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	たり							型
	り							型

【意味】

① **完了**（〜た）

② **存続**（〜ている・〜てある）

★〈「完了」と「存続」の見分け方〉

まず「　　　」で訳す。→おかしければ「　　　」。

（例）

あやしがりて寄りて見るに、筒の中光り**たり**。

それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐ**たり**。

〜〜（かぐや姫が成長し、月に帰らなければいけないことを翁に打ち明ける。）
（翁）「（私があなたを）竹の中より見つけきこえ**たり**しかど、…」
『竹取物語』より

問十四　傍線部ａ・ｂの助動詞の意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

さすがに仏法を学びし（ａ）故に、論議問答するなり。
口惜しき道に入れり（ｂ）。

ア　過去　　イ　尊敬　　ウ　自発　　エ　完了　　オ　強意

ａ＝　　　ｂ＝

問十五　「いかなるすき者の居たるならん」の傍線部の助動詞の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　受身　　イ　尊敬　　ウ　自発
エ　断定　　オ　使役　　カ　完了（存続）

第9講　PART2　確認問題

①「童(わらは)べの踏みあけたる築地(ついひぢ)のくづれより通ひけり。」の傍線部の活用の種類と活用形として正しいものを、次の中から選べ。

ア　四段活用・未然形
イ　四段活用・連用形
ウ　下二段活用・未然形
エ　下二段活用・連用形
オ　カ行変格活用・未然形

②「御子(みこ)もいとあはれなる句を作り［ a ］るを、…」の空欄aには補助動詞「たまふ」が入る。正しく活用させた語を、次の中から選べ。

ア　たまは　　イ　たまひ　　ウ　たまふ　　エ　たまへ

③「痩骨(そうこつ)の肩にかかれる物先(ま)づ苦しむ。」の傍線部の口語訳として正しいものを、次の中から選べ。

ア　かけられた物　　イ　かかってしまった物
ウ　かかっている物　　エ　かけさせる物

④ 「さりがたき餞（はなむけ）などし<u>たる</u>はさすがに打ち捨てがたくて、…」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　受身　　イ　尊敬　　ウ　断定
エ　使役　　オ　完了　　カ　存続

⑤ 「いといたく思ひあがり、はかなくし出で（い）<u>たる</u>[a]ことわざもゆゑなからず見え<u>たら</u>[b]む、…」の傍線部の語の活用形の組み合わせとして、最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　a＝未然形　　b＝連用形
イ　a＝未然形　　b＝連体形
ウ　a＝連体形　　b＝連用形
エ　a＝連体形　　b＝未然形
オ　a＝連用形　　b＝連体形
カ　a＝連用形　　b＝未然形

PART1　ぬ・ねの識別（基本編）

★「識別」とは？

認**識**して区**別**する。見分けること。

（例）

勉強す**なり**。

勉強する**なり**。

「ぬ・ね」の識別

【識別対象】

1 「　　」の助動詞「ず」
2 「　　」「　　」の助動詞「ぬ」
3 ナ変動詞「　・　」の活用語尾
4 ナ行下二段動詞「**寝**（ぬ）」の一部

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	ず							特殊型
		ざら	ざり	○	ざる	ざれ	ざれ	ざ＋ラ変型
形	ぬ							型

3 **ナ変動詞**の活用語尾

ね　**ぬ**　＋

（例）雪のうへまで往**ぬ**べくは…

4 ナ行下二段動詞「**寝**（ぬ）」の一部 ⬇「　　」と訳せる

（例）一人**ぬ**る夜、…

〔例題〕 次の現代語訳は？

風吹きぬ。

★〈「打消」と「完了」の見分け方〉その①

「　　」（＝接続）確認

1 **未然**形＋ **ね　ぬ** ＝「　　　」

（例）深くはあら**ね**ど、…

2 **連用**形＋ **ね　ぬ** ＝「　　　」

（例）日暮れになり**ぬ**。

問一　次の傍線部の文法上の意味をそれぞれ答えよ。

①　時知らぬ山は…

②　駿河の国に至りぬ。

③　めづらしからぬ事のままに…

④　ことに思はねど、行けば…

⑤　とみなることにて、とどめはべりぬ。

⑥　もとの御かたちとなり給ひね。

⑦　我が心とせぬことにてはあれど、…

問二　「老い心地に惑ひたまひぬ。」の傍線部の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　完了　　イ　打消　　ウ　断定　　エ　存在　　オ　過去

問三　傍線部の説明として最も適当と思われるものを、次の中から選べ。

「今は帰りね」といひければ、帰りにけり。

ア　助動詞「ず」の已然形　　イ　助動詞「ず」の命令形

ウ　終助詞　　エ　助動詞「ぬ」の已然形

オ　助動詞「ぬ」の命令形

問四　「あしかりぬべし」の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　「あしかり」は形容詞、「ぬ」は完了の助動詞、「べし」は推量の助動詞である。

イ　「あしかり」は形容詞、「ぬ」は打消の助動詞、「べし」は推量の助動詞である。

ウ　「あしかり」は形容詞、「ぬ」は伝聞推定の助動詞、「べし」は推量の助動詞である。

エ　「あし」は形容詞、「かり」は動詞、「ぬ」は断定の助動詞、「べし」は推量の助動詞である。

オ　「あし」は形容詞、「かり」は動詞、「ぬ」は打消の助動詞、「べし」は推量の助動詞である。

第10講　PART1　確認問題

① 傍線部ａ・ｂの文法的説明の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から選べ。

「枕引きよせてねたる[a]に、…」
「おのが行かまほしき所へいぬ[b]」

ア　ａ　ナ変動詞の活用語尾　ｂ　打消の助動詞
イ　ａ　完了の助動詞　ｂ　ナ行下二段活用動詞「寝」
ウ　ａ　打消の助動詞　ｂ　完了の助動詞
エ　ａ　ナ行下二段活用動詞「寝」　ｂ　ナ変動詞の活用語尾

② 文は、「おのれ死に侍りぬとも、…」の「ぬ」の識別について説明したものである。空欄ａ・ｂに当てはまる語の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から選べ。

直前の語が「侍り」でラ行変格活用の［ａ］形、もしくは直後が「とも」で上にも係助詞がないことから終止形の「ぬ」。よって、［ｂ］の助動詞である。

ア　ａ　未然　ｂ　過去
イ　ａ　未然　ｂ　断定
ウ　ａ　連用　ｂ　完了
エ　ａ　連用　ｂ　打消

③「心にかなはぬことあらば、…」の傍線部の動詞の活用の種類・活用形の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　ハ行四段活用・未然形　　イ　ハ行四段活用・已然形
ウ　ハ行上二段活用・連用形　　エ　ハ行上二段活用・連体形

④「はや馬ゐて参りね」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　助動詞「ぬ」の已然形　　イ　助動詞「ず」の已然形　　ウ　助動詞「ぬ」の命令形　　エ　終助詞

⑤ア〜エの傍線部「ぬ」はいずれも助動詞である。一つだけ種類の異なるものを、次の中から選べ。

ア　よからぬことどもうち続きて、…
イ　筆をさし置きぬ。
ウ　まだ何事も語らはぬにかへりにけり。
エ　な歩きそとやはのたまはぬ。

PART2　ぬ・ねの識別（打消・完了の見分け方）

★〈「打消」と「完了」の見分け方〉その②

「　　」（＝活用形）確認

●『ぬ』

1　～ぬ＋連体形接続の語

→**連体**形＝「　　　」

「　　」→ぬ＋体言

（例）まだ見**ぬ**物語の一を見て、…

2

〜ぬ＋｛　　　｝。
　　　終止形接続の語

終止形──→「　　　」

終止形＝「　　　」

※ただし、文末の「ぬ」の時、**係助詞**と**疑問副詞**に注意！

文中に **係助詞「ぞ・なむ・や・か」** **疑問副詞（「いか系」「な系」）** がある→文末の「ぬ」は「　　　」形→「　　　」

（例）

同じ所にゐ**ぬ**めり。

腰なむ動かれ**ぬ**。

●『ね』

1 ～ね＋已然形接続の語

→ **已然形**＝「　　　」

ねば **ね**ど（も） こそ～**ね**	**打消**「ず」の已然形

（例）多く聞こえ**ね**ば、…

2

〜ね＋「　　」。
（命令形接続の語）

命令形 → ね

命令形＝「　　」

※ただし、文末の「ね」の時、**係助詞「こそ」**に注意！

（例）

絶えなば絶え**ね**。

さらにこそ信ぜられ**ね**。

問五　次の傍線部の文法上の意味をそれぞれ答えよ。

① 午の時の下がりまで見えねば、…

② 「心も得ぬことかな」

③ 日ごろは何ともおぼえぬ鎧が、…

④ 秋来[a]ぬと目にはさやかに見え[b]ねども…

a ＝

b ＝

★確認は「上」からでも「下」からでも、わかる方からでOK！

（例）左記に**「問一・問五」**からいくつか抜粋しましたので、確認してみましょう。

①　時知ら〔四段・(未)〕ぬ山は…

②　駿河の国に至り〔四段・(用)〕ぬ。

③　ことに思は〔四段・(未)〕ねど、行けば…

④　午の時の下がりまで見え〔下二段〕ねば、…

⑤　「心も得〔下二段〕ぬことかな」

問六　次の傍線部ア・イの「ね」について、例にならって文法的に説明せよ。

（例）　尊敬の助動詞「る」の連体形

「とくとく帰りね（ア）」

ア＝

「君がすみかをそこと知らねば（イ）…」

イ＝

問七　「都の内とも見えぬ所のさまなり」の傍線部の動詞の活用の種類・活用形を答えよ。

問八　次の傍線部「ぬ」はいずれも助動詞であるが、一つだけ種類の異なるものを選べ。

ア　秋になりぬ。

イ　打松おどろおどろしからぬほどに置きて、…

ウ　うちとけぬさまにものをつつましと思したる気色、…

エ　恋の煙こそ世には絶えせぬほのほなりけれ

オ　酔泣きのついでに、忍ばぬこともこそ

問九　次の傍線部の中で、意味の異なるものを一つ選べ。

ア　覚え侍らねども　　イ　侍らぬ程に　　ウ　思はざるに
エ　失せ給ひぬ　　オ　変はらずぞ

問十　傍線部「ね」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選べ。

「下りね」と、しひてのたまへば、…

ア　打消助動詞「ず」の已然形
イ　ナ変動詞「往ぬ」の連体形
ウ　念押しの終助詞「ね」
エ　完了助動詞「ぬ」の命令形
オ　希望を表す終助詞「ね」

問十一　傍線部の説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

①　「取りて参らむ」とて立ちぬ。

②　いま一声呼ばれていらへむと、念じて（＝我慢して）ねたるほどに、…

③　衣着（きぬ）ぬ妻子なども、さながら内にありけり。

④　させる能もおはせねば、ものをも惜しみたまへ。

⑤　頼まぬものの恋ひつつぞ経る。

⑥　ののしるうちに、夜更けぬ。

⑦　あはれ今年の秋もいぬめり。

⑧　強からぬは女の歌なればなるべし。

⑨　吹き入れたるこそ、荒かりつる風のしわざとはおぼえね。

⑩　足音もせぬに、田畑は…

ア　打消の助動詞「ず」
イ　完了の助動詞「ぬ」
ウ　ナ行変格活用動詞の活用語尾
エ　ナ行下二段活用動詞「寝」

第10講　PART2　確認問題

①「二百七十六年ばかりにやなりぬらむ」の傍線部の活用形を、次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

②「京には見えぬ鳥なれば、…」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　完了の助動詞　イ　動詞の活用語尾　ウ　動詞　エ　打消の助動詞

③「たれとこそ知らね」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　誰なのかわからない　イ　誰なのかわからないだろうか、いやわかる

ウ　誰なのかわかっていた　エ　誰なのかわかるはずだ

④　傍線部a～eのうち、文法上同じ意味を持つ助動詞の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から選べ。

何がしといふものの方（かた）に行きぬ。（a）
たやすく改まるべくもあらねば、（b）…
「かなしき妻子（めこ）の顔をも見で死ぬべきこと」（c）
「一人一人にあひたてまつり給ひね」（d）
起きもせずねもせで夜をあかしては…（e）

ア　a―d　　イ　a―e　　ウ　b―c　　エ　b―d

⑤　「われは皇子に負けぬべしと、…」の傍線部の文法的意味と活用形の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　完了―連用形　　イ　強意―終止形　　ウ　過去―已然形　　エ　打消―連体形

PART1　る・らる

る・らる

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
「　・　・　」の形	る							型
それ以外の形	らる							型

(例)　読ま ＜ る／らる

　　　受け ＜ る／らる

※「　・　・　」の未然形＝「　」段＋る

　それ以外の未然形＝「　」段＋らる

問一　次の二つのグループ（Ⅰ群、Ⅱ群）のうち、Ⅰ群からは、二重傍線部が助動詞「る」では**ない**もの、Ⅱ群からは、波線部が助動詞「らる」では**ない**ものを、それぞれア〜エから一つ選べ。

Ⅰ　ア　たまへる　　イ　騒がれむ　　ウ　けしきどらるる　　エ　急がるる

Ⅱ　ア　ながめのみせられて　　イ　仰せられき
　　ウ　心もとながられ　　エ　仰せらるれど

【意味】

① **受身**（〜れる・〜られる）
② **可能**（〜できる）
③ **自発**（自然と〜される）
④ **尊敬**（〜なさる・お〜になる）

（例）　住みなれし故里（ふるさと）限りなく思ひ出で**らる**

★〈意味の見分け方〉

①　受身＝「〜に」がある。もしくは補える。

（例）　ある人に誘は**れ**たてまつりて、…

②　可能＝る・らる＋「　　」

（例）　湯水飲ま**れ**ず、同じ心に嘆かしがりけり。

③　自発＝「　　」動詞（＝　　・　　など）又は「　　」動詞（＝　　・　　など）＋る・らる

（例）　常に心づかいせ**らるる**もをかしきに…

中世以降
冬はいかなる所にも住まる。『徒然草』

④　尊敬＝**主語が貴人**〜＋る・らる

（例）　帝、「読め」と仰せ**られ**たりければ、…

★覚えておくべきこと

●〜（ら）れ 給ふ（尊敬語）＝「　　」

●仰せ らる ＝「　　」

問二　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　涙のみすすみてよよと泣かる。

②　さこそあらめなど、仰せらるれど、…

③　なかなかにいも寝られず、「これは夢か」とのみ…

④　人に知られたる聖ありき。

問三　傍線部ａ・ｂの文法上の意味は何か。最も適当なものを次の中からそれぞれ選べ。

この者どもに養はれ[a]て行きけるほどに、…
故なく心細く思ひ続けられ[b]て、…

ア　受身　　イ　可能　　ウ　完了　　エ　尊敬　　オ　自発

a＝　　　　b＝

問四　傍線部の助動詞の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「いかなるすき者の居たるならん」とうち微笑まれ給ひて、…

ア　受身　　イ　尊敬　　ウ　自発　　エ　断定　　オ　使役　　カ　完了（存続）

問五　「児のここにてなにとありしはやなど思ひ出でられて、いみじうかなしかりければ、…」の傍線部の文法的意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　受身　　イ　尊敬　　ウ　可能　　エ　自発

問六　「人のありさま、伝へ承るこそ、心も言葉も及ばれね。」の傍線部の文法上の意味を、次の中から選べ。

ア　受身　　イ　尊敬　　ウ　自発　　エ　可能　　オ　完了

第11講　PART1　確認問題

① a～eの動詞について、Ⅰ「る」が接続するものとⅡ「らる」が接続するものにグループ分けした場合、最も適切なものを、次の中から選べ。

a 蹴る　b 答ふ　c 思ひやる　d 御覧ず　e 死ぬ

ア Ⅰ a・c Ⅱ b・d・e　　イ Ⅰ a・d・e Ⅱ b・c

ウ Ⅰ c・e Ⅱ a・b・d　　エ Ⅰ b・c・d Ⅱ a・e

② 文の空欄aには、助動詞「る」「らる」のいずれかが、活用した形で入る。最も適切なものを、次の中から選べ。

「こは何ぞ」と仰せ［ a ］ば、…

ア れ　イ るれ　ウ らるる　エ られ

③ 「かの例(ためし)思ひ出で<u>られ</u>侍りしに、…」の傍線部の文法的意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア 完了　イ 自発　ウ 可能　エ 尊敬

④　傍線部ａ・ｂの文法的意味の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から選べ。

片雲の風に誘は[a]れて、…

「さらにこそ信ぜ[b]られね。」

ア　ａ　受身　　ｂ　可能　　　イ　ａ　自発　　ｂ　受身

ウ　ａ　完了　　ｂ　尊敬　　　エ　ａ　可能　　ｂ　自発

⑤　「人に思はれんばかり、めでたき事はあらじ」の「れ」と文法的意味が同じものはどれか。最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　なほこそ国の方（かた）は見やらるれ、

イ　御胸のみつとふたがりて、つゆまどろまれず、…

ウ　国の守（かみ）にからめられにけり

エ　四条大納言撰（えら）ばれたる物を、…

PART2　る・れの識別

「る・れ」の識別

【識別対象】

1　「　　」「　　」「　　」の助動詞「る」
2　「　　」「　　」の助動詞「り」
3　活用語の一部

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	る							型
	り							型

（例）読める

●四段・ナ変・ラ変の㊍

●サ変㊍・四段㊁

★〈「る・れ」の見分け方〉＝「　　」の「　　」

1　「　　」＋る・れ↓助動詞「る」
（※「る・れ」の上が動詞になっているか要注意！）

（例）
いづくよりや帰ら**れ**たりけん、…
あやしきさまな**る**衣を着て、…

2　「　」＋る・れ↓助動詞「り」

（※「る・れ」の上が動詞になっているか要注意！）

〔例〕 外に渡せ**る**ふみ見れば、…

生まれてはべ**れ**ば、…

3　「　」＋る・れ↓活用語の一部

〔例〕 ゆかしくおぼゆ**る**ままに、…

〔練習〕 次の傍線部の「る」はそれぞれ何？

飲まる

飲める

受くる

書ける

書きける

書きたる

問七　「口惜しき道に入れり」の傍線部の助動詞の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　過去　　イ　完了　　ウ　受身　　エ　自発　　オ　可能

問八　次の傍線部ａ・ｂの助動詞について、その終止形をそれぞれ答えよ。

弟殿には人柄・世おぼえの劣り給へ[a]ればにや、…
「そこは申さ[b]れぬか」とのたまはせければ…

ａ＝　　　　ｂ＝

問九　傍線部ａ・ｂの文法的説明として最も適切なものを、次の中からそれぞれ選べ（重複使用可）。

昔より、とく詠め[a]るにかしこき事なし。
ただにすぐ[b]るやうやあると、…

ア　動詞の活用語尾の一部
イ　受身の助動詞
ウ　自発の助動詞
エ　可能の助動詞
オ　完了の助動詞

ａ＝　　　　ｂ＝

問十　次の傍線部のうち、活用形の相違を除き、文法的性格が異なるものはどれか。最も適切なものを選べ。

「とよかげ」となのらせたまへ<u>り</u>（ア）。
なに事もあまりすぐれさせたまへ<u>れ</u>（イ）ば、…
わかれの歌よませ給へ<u>る</u>（ウ）、…
たちいりてみ給ふ<u>れ</u>（エ）ば、…

問十一　「思へ<u>れ</u>ど」の傍線部「れ」と同じ意味を持つものを、次の中から一つ選べ。

ア　食は<u>れ</u>じ　　イ　たまは<u>る</u>　　ウ　聞き入る<u>る</u>
エ　申した<u>れ</u>　　オ　たまへ<u>れ</u>

問十二　「文字みな消えてかたばかり見ゆ<u>る</u>を、…」の傍線部の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　受身の助動詞　　イ　自発の助動詞　　ウ　可能の助動詞
エ　完了の助動詞　　オ　動詞の活用語尾の一部

問十三　傍線部の助動詞の意味は何か。次の中からそれぞれ選べ。

抱きたてまつりてゐたまへ[a]れば、…

「まろも大将に抱か[b]れむ」

ア　受身　イ　可能　ウ　完了　エ　自発　オ　推量　カ　尊敬

a＝　b＝

問十四　「心の苦しみを知れれば、…」の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　受身　イ　自発　ウ　可能　エ　存続　オ　推量

問十五　「木の枯れて朽ち残れるが立てる下に、…」の傍線「る」の文法的意味・用法と同じものを、次の中から選べ。

ア　うらうらに照れる春日にひばりあがり心悲しもひとりし思へば

イ　うつくしきもの、瓜にかきたるちごの顔

ウ　いかめしき御堂ども建てて、多くの人なむ造り営み侍るめる

エ　家の造りやうは夏をむねとすべし、冬はいかなる所にも住まる

オ　明けぬれば暮るるものとは知りながらなほうらめしきあさぼらけかな

問十六　傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選べ。

心とりどりに言ひあへ[a]るも、いとをかしければ、…

残るところなくはるかに思ひやら[b]るることは、…

ア　受身の助動詞　　イ　尊敬の助動詞　　ウ　自発の助動詞
エ　存続の助動詞　　オ　動詞の活用語尾

a＝　　　b＝

第11講 PART2 確認問題

① 傍線部の「る」のうち、文法的意味が異なるものはどれか。最も適切なものを次の中から選べ。

ア 住める
イ 知れる
ウ おぼしめさる
エ まされる

② 「雨しきりに降りて、臥(ふ)せる上よりもり、…」の傍線部の文法的意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア 自発　イ 受身　ウ 可能　エ 完了

③ 傍線部ａ・ｂの文法的意味の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から選べ。

やがて面影は推しはから(a)るる心地するを、…
この殿のわたらせ給へ(b)ればば、…

ア ａ 自発　ｂ 完了　イ ａ 自発　ｂ 尊敬
ウ ａ 尊敬　ｂ 完了　エ ａ 尊敬　ｂ 尊敬

④「いづれのときにか忘るる」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　自発の助動詞
イ　動詞の活用語尾の一部
ウ　完了の助動詞
エ　可能の助動詞

⑤「知らぬ人の中にうち臥(ふ)して、つゆまどろまれず。」の傍線部「れ」の文法的意味・用法と同じものを、次の中から選べ。

ア　鶯の関を過ぎて湯尾峠(ゆのをたうげ)を越ゆれば、…
イ　おもひのほかなる人のいへれば、人々あやしがる。
ウ　物はすこし覚ゆれども、腰なん動かれぬ。
エ　後徳大寺(ごとくだいじ)大臣の、寝殿に鳶(とび)ゐさせじとて縄をはられたりけるを、…

第12講 「す・さす・しむ」と「せ」の識別

PART1 す・さす・しむ

す・さす・しむ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
「　・　・　」の形	す							型
それ以外の　形	さす							型
形	しむ							型

※「四段・ナ変・ラ変」の未然形＝「　」段＋す
それ以外の未然形＝「　」段＋さす

問一 「歌よみてやら［　］たまふ。」の空欄には助動詞「す」を活用させた語形が入る。最も適切なものを、次の中から選べ。

ア す　イ する　ウ せよ　エ すれ　オ せ

【意味】

① **使役**（〜せる・〜させる）

② **尊敬**（〜なさる・お〜になる）

★**〈意味の見分け方〉**＝「　　」を見る。

「　」＝ す／さす／しむ ＋「　」（給ふ／＝おはす（おはします）／らる）

「　」＝ す・さす・しむ ⇦ ない

「　又は　」 ⇦ ある

（例）

たよりごとに、ものも絶えず得**させ**たり。

（袖口から）さし出で**させ**給へる御手のはつかに見ゆるが、…

※真下に尊敬語がある場合→「　　」を確認

「人に」
「人をやりて」
「人を召して」
「人に命じて」
「人して（＝に命じて）」

} がある→「　　」

「人に」が補える→「　　」

（例）随身に持た**せ**給ふ。

問二　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① 書きたるを御覧ありて、大いに笑はせおはしまして、…

② それを、張らせてまゐらせむとするを、…

③ 御供なる右近大夫を召して、点しつけさせたまふ。

④ 皇后宮聞かせ給ひて、いみじう喜ばせ給ふを、…

⑤ 心にくき限りの女房、四五人ばかり候はせ給ひて…
※候ふ＝お仕えする

★地の文（＝~~会話文~~）で**二重尊敬**の主語＝「　　　　」

問三　「御随身に取らせて帰るを…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　受身　　イ　尊敬　　ウ　自発　　エ　断定　　オ　使役　　カ　完了（存続）

問四　「竟宴（きやうえん）といふこと、春日殿（かすがどの）にて行はせたまふ。」の傍線部の助動詞の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

※春日殿…場所の名。

ア　可能　　イ　受身　　ウ　完了　　エ　使役　　オ　尊敬　　カ　自発

問五　「言ひもよほして、せさするならむ」の傍線部の助動詞の意味、終止形、活用形をそれぞれ答えよ。

問六　「これはいかにせしめたまふぞ」の傍線部の文法的説明として適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞「せしむ」の連用形＋尊敬の補助動詞「たまふ」の連体形
イ　サ変動詞「す」の連用形＋尊敬の助動詞「しむ」の未然形＋尊敬の補助動詞「たまふ」の連体形
ウ　サ変動詞「す」の連用形＋使役の助動詞「しむ」の連用形＋謙譲の補助動詞「たまふ」の終止形
エ　サ変動詞「す」の未然形＋尊敬の助動詞「しむ」の連用形＋尊敬の補助動詞「たまふ」の連体形
オ　サ変動詞「す」の未然形＋使役の助動詞「しむ」の未然形＋謙譲の補助動詞「たまふ」の終止形

〈Memo〉

第12講 PART1 確認問題

① 「世間（せけん）の作法したため［　　］給ひしかど、…」の空欄には助動詞「さす」が入る。正しく活用させた語を次の中から選べ。

ア させ　イ さす　ウ さする　エ さすれ

② 「さらにえ忍びあへさせたまはず」の傍線部の活用形として正しいものを、次の中から選べ。

ア 未然形　イ 連用形　ウ 終止形　エ 連体形　オ 已然形　カ 命令形

③ 「わが岡の龗（おかみ）に言ひて降らしめし雪の摧（くだ）けし其処（そこ）に散りけむ」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア 尊敬　イ 完了　ウ 自発　エ 使役　オ 可能　カ 過去

④ 「伊勢・貫之（つらゆき）に詠ませたまへる、大和（やまと）言の葉をも、…」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア 尊敬　イ 完了　ウ 自発　エ 使役　オ 可能　カ 過去

⑤ a〜c の傍線部の文法上の意味の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から選べ。

a 妻（め）の女（をうな）にあづけて養はす。
b 人に聞かせじとし給ひけれど、…
c 夕月夜（ゆふづくよ）のをかしきほどに、出だし立てさせたまひて、…

ア a＝尊敬　b＝尊敬　c＝使役
イ a＝使役　b＝尊敬　c＝使役
ウ a＝尊敬　b＝使役　c＝尊敬
エ a＝使役　b＝使役　c＝尊敬

PART2 「せ」の識別

「せ」の識別

【識別対象】

1 使役・尊敬の助動詞「す」の「　　形」か「　　形」
2 「　　」の助動詞「き」の「　　形」
3 サ変動詞「す」の「　　形」

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	す	**せ**	**せ**	す	する	すれ	せよ	下二型
形	き							特殊型
	動詞「す」							

〈見分け方〉

1 上が「　　形」（「　　」段）＝助動詞「す」

（例）この大臣の作ら**せ**給ひける詩を、…

２「（「　形」＋）**せ**　〜　」の「**せ**」＝助動詞「き」

（例）世の中にたえて桜のなかり**せ**ば春の心はのどけからまし

３「　」と訳せる「せ」＝サ変

（例）音**せ**ぬ暁に…

問七　傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次の選択肢の中からそれぞれ選べ（重複使用可）。

①　いかさまにせむと沈み臥したまへるに…

②　とらへてよませける。

③　夢と知りせば覚めざらましを

④　源氏の物語、人に読ませ給ひつつ…

ア　使役の助動詞「す」
イ　尊敬の助動詞「す」
ウ　過去の助動詞「き」
エ　サ行変格活用動詞「す」

①＝　②＝　③＝　④＝

問八　「思ふこと心にかなふ身なりせば秋の別れを深く知らまし」の傍線部の終止形を答えよ。

問九　傍線部の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

清水寺の法師に養はせけり。

ア　動詞
イ　使役の助動詞
ウ　尊敬の助動詞
エ　過去の助動詞
オ　動詞の活用語尾

〈Memo〉

第12講　PART2　確認問題

① 傍線部のうち、使役の助動詞「す」の未然形であるものを次の中から選べ。

ア　声高にものもいはせず。

イ　「いかがはせん。」とて、…

ウ　「かくなむ」とおほせらるれば、…

エ　いとほしがらせ給ふもをかし。

② 「夜うちふくるほどに、題出(いだ)して、女房にも歌よませたまふ。」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　尊敬の助動詞「す」の連用形

イ　使役の助動詞「す」の未然形

ウ　使役の助動詞「す」の連用形

エ　動詞の活用語尾

③「朝餉（あさがれひ）の御前に、上おはしますに、御覧じていみじう驚かせたまふ。」の傍線部の文法上の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　過去　イ　尊敬　ウ　使役　エ　受身

④「わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろかにせんと思はんや。」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　使役の助動詞「す」
イ　尊敬の助動詞「す」
ウ　過去の助動詞「き」
エ　サ行変格活用動詞「す」

⑤「思ふこと心にかなふ身なりせば秋の別れを深く知らまし」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　使役の助動詞「す」
イ　尊敬の助動詞「す」
ウ　過去の助動詞「き」
エ　サ行変格活用動詞「す」

第13講　まし・む・むず

PART1　まし

まし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	まし							特殊型

【意味】

① **反実仮想**（もしAならばBだろうに）
② **ためらいの意志**（～ようかしら・～たらよいだろう）
③ 仮想（～ならよかった）
④ 推量（～だろう）

★〈意味の見分け方〉

① **反実仮想**

A｛**せ**／「　　」／「　　」／「　　形」｝ば　B　**まし**

※「～**せ**ば～まし」の「**せ**」は「　　　」の助動詞「　　」の「　　」形

（例）「やがてかけこもら**ましか**ば、口惜しから**まし**。」
（すぐに掛け金をかけて部屋の中にこもった　　　、残念だった　　　。）

★事実は？「　　　　　」⇐

② **ためらいの意志**

「　　」＋～**まし**

（例）これになにを書か**まし**。

③ 仮想

（例）見る人もなき山里の桜花ほかの散りなむ後ぞ咲か**まし**

④ 推量

（例）花やこよひの主（あるじ）なら**まし**

問十「見し人の松の千年に見〔まし〕ば遠く悲しき別れせましや」の〔まし〕部分を適切な形に活用させよ。

問十一「いかにせまし。」を現代語訳せよ。

問十二　「名残なく燃ゆと知りせば皮衣思ひのほかにおきて見ましを」の傍線部の文法的意味を答えよ。

問十三　「居まし」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ア行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞
イ　ア行上一段活用の動詞＋意志の助動詞
ウ　ワ行上一段活用の動詞＋反実仮想の助動詞
エ　ワ行上一段活用の動詞＋意志の助動詞

問十四　空欄に入る語として最も適当なものを、次の中から選べ。

「我、来ざらましかば、尼君の臨終はかくはなから［　　］。」

ア　む　　イ　ず　　ウ　じ　　エ　まし　　オ　ざり

問十五　「例の寸法にて立ちたらましかば、早く負けなまし。」の傍線部の文法的説明を答えよ。活用のある場合は、品詞、終止形、問題文中での活用形名、意味の順に記せ。

第13講　PART1　確認問題

①「わづらはしげに思ひまとはす気色(けしき)見えましかば、…」の傍線部の動詞の活用の種類と活用形の組み合わせとして正しいものを次の中から選べ。

ア　マ行上一段活用・連用形　　イ　マ行上一段活用・未然形
ウ　ヤ行下二段活用・未然形　　エ　ヤ行下二段活用・連体形

②「おほけなき心のなからましかば、ましてめでたく見えましと…」の傍線部の口語訳として正しいものを、次の中から選べ。

ア　分不相応な心がなかったので、いっそうすばらしく見え
イ　分不相応な心がなかったならば、いっそうすばらしく見えただろうに
ウ　分不相応な心がなかったので、いっそうすばらしく見えたのだろう
エ　分不相応な心がなかったならば、いっそうすばらしく見えたにちがいなく

③「これになにを書かまし。」の傍線部と同じ意味で口語訳できるものを次の中から選べ。

ア　わが身一つならば、安らかならましを、…

イ　あはれ、かれもいづちやらまし。

ウ　鏡に色・形あらましかば、うつらざらまし。

エ　行き暮れて木(こ)の下陰を宿とせば花や今宵(こよひ)のあるじならまし

④「思ふこと心にかなふ身なり(a)きば秋の別れを深く知ら(b)まし」の傍線部a・bを反実仮想の意味になるように適切な形に直したものの組み合わせを、次の中からそれぞれ選べ。

ア　a　する　b　ましか　　イ　a　し　b　ましか　　ウ　a　す　b　まし

エ　a　せ　b　まし　　オ　a　すれ　b　ましか　　カ　a　せよ　b　まし

⑤「かなたの庭に、大きなる柑子(かうじ)の木の、枝もたわわになりたるが、まはりをきびしく囲ひたりしこそ、少しことさめて、この木なからましかば［ a ］と覚えしか。」の空欄aに省略されている語を補うとしたら、どのようになるか。次の中から選べ。

ア　よし　　イ　よけれ　　ウ　よからまし　　エ　よかりけり

PART2　む・むず（基本編）

む・むず（＝「　・　ず」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	む							（四段型）
形	むず							型

問一　「いとどこそむつからめ」の傍線部の終止形、ここでの活用形を答えよ。

問二　「さて鷹飼はではいかがしたまはむずる。」の傍線部分を例にならって品詞分解せよ。

（例）

カ行四段活用・連用形	助動詞「き」・連体形	名詞
書き	し	文

【意味】＝**「スイカかえて」**

①**推量**（〜だろう）
②**意志**（〜よう）
③**勧誘**（〜ませんか）
④**仮定**（〜としたら）
⑤**婉曲**（〜ような）
⑥**適当**（〜するのがよい）

★〈意味の見分け方〉＝「　　　　」か「　　　　」に分ける。

●「　　　　」＝「仮定」・「婉曲」

（例）恋しから**む**ことの堪へがたく、…

●「　　　　」＝「推量」・「意志」・「勧誘・適当」

（例）「取りて参ら**ん**。」

この女をほかへ追いやら**む**とす。

★「文中」の「む」の意味

●～む＋**体言**→「　　　　　」

（例）恋しから**む**ことの堪へがたく、…

●～む＋助詞→「　　　　　」

（例）ただ一度に答（いら）へ**む**も、…

★「文末」の「む」の意味→文脈判断。目安として**主語**確認。

●**一**人称→「　　　　　」

（例）「我こそ死な**め**。」

●**二**人称→「　　　　　」

（例）（ホトトギスに向かって）「今こそ鳴か**め**」

●三人称→「　　　　」

（例）何人か迎へきこえ**む**。

第13講　PART2　確認問題

① 「当たらんずる」を品詞ごとに区切ったものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　当た・らん・ずる　　イ　当たら・ん・ず・る　　ウ　当たら・んずる

エ　当たら・んず・る　　オ　当たら・ん・ずる

② 「男もすなる日記といふものを、女もしてみんとてするなり。」の傍線部の活用形として適切なものを、次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

③ 「もろこしからのことばにて、長きことなど物語りするをわきより見たらむは、この国のことばにてこの国の人と物語りするに、違ひはなからむと思ふなめれど、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　意志　　イ　推量　　ウ　命令　　エ　仮定　　オ　勧誘

④ 「我が行ひを五つ、六つ重ねたらんほどに行ふ者ありけり。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　婉曲　　イ　意志　　ウ　尊敬　　エ　打消　　オ　存続

⑤ 傍線部のうち、他と意味が異なるものを次の中から選べ。

ア　少納言よ、香炉峯（かうろほう）の雪いかならむ。

イ　逢ふことも涙にうかぶ我身には死なぬくすりも何にかはせむ

ウ　かのもとの国より、迎へに人々まうで来んず。

エ　たどたどしきを聞きつけたらむは、なに心地かせむ。

PART3　む・むず（補足）

※「**勧誘・適当**」の「む」の主語＝必ず「　　　」になる。

※「　　」**の上の「む」**→「　　　　」が多い。

（例）翁の、孫を見**む**と思ひけむは理なり。

「こそ～**め**」の「**め**」
※「て**む**」の「**む**」　→「　　・　　」が多い。
「な**む**」の「**む**」

（例）「花を見てこそ帰り給は**め**。」

問三　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①「我もいかで、腰折れたらん雀見つけて、飼はん」と思ひて、…

②海ならずたたへる水の底までもきよき心は月ぞ照らさむ

③人の上に立たむこと、月を越ゆべからず。

④「誰（たれ）ならむ」と言ふに、…

⑤かまどなどは、歌に詠まむには卑しき詞なれど、…

⑥「とくこそ試みさせ給はめ。」

問四　「我またよくその矢を取り得たらんには、何をか給はり候ふぞ」の傍線部の意味を、次の中から選べ。

ア　打消　　イ　推量　　ウ　意志

エ　仮定　　オ　婉曲

問五　「かかることにてこそあらめ。」の傍線部と文法的意味が同じものを、次の中から選べ。

ア　世の人の思はんことも候ふなれば…

イ　さあらんには、尊き僧たちの…

ウ　悩ませ給ふらんこそ心得られね。

エ　名告りをせんほどのしるしはありなん。

問六　「心澄まさむ人は見ぬべきさまなる」の傍線部の意味を答えよ。

問七　「われ修復せんといへば、…」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　推量の助動詞
イ　意志の助動詞
ウ　適当の助動詞
エ　勧誘の助動詞
オ　仮定の助動詞

問八　傍線部のうち、助動詞「む」の婉曲用法と考えられるものはどれか。正しいものを次の中から選べ。

女君は、かくなむ[a]とたしかに知らせたてまつり給はざりけるを、…
「二三日ははべりなむ[b]」と聞こえ給ふ。
若君を見給ふもいかが浅く思されむ[c]。
何も、書きたらむ[d]ものは、読みてむや。
いと里離れて渡らむ[e]ことも難きを、…

ア　aとb　　イ　bとc　　ウ　cとd
エ　dとe　　オ　aとe

第13講　PART3　確認問題

① 「宇津の山にいたりて、わが入らむとする道は、…」の傍線部の意味と活用形の組み合わせとして最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　推量・連体形　　イ　意志・連体形　　ウ　推量・終止形　　エ　意志・終止形

② 「『そこらの燕、子産まざらむやは。さてこそ取らし給はめ』と申す。」の傍線部の口語訳として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　そこで取らせなさるつもりでしょう
イ　そこで取らせなさるのがよいでしょう
ウ　そこで取らせなさるのでしょう
エ　そこで取らせなさるようでしょう

③ 「とまれかうまれ、とく破り（や）てん。」の傍線部の口語訳として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア 早く破ろう　イ 早く破るほうがよい　ウ 早く破ってしまおう　エ 早く破るだろう

④ 「『いつも、和殿（わどの）ばらは、重忠（しげただ）がやうなる者にこそ助けられ［　　］。』と言ふままに、…」の空欄には助動詞「んず」が入る。正しく活用させた語を次の中から選べ。

ア ん　イ んず　ウ んずる　エ んずれ

⑤ 傍線部のうち、婉曲の意味であるものの組み合わせを次の中から選べ。

「さしあたりてをかしともあはれとも、心に入ら<u>む</u>(a)人の、たのもしげなき疑ひあらむこそ大事なるべけれ。わが心あやまちなくて見過ぐさば、さし直してもなどか見ざら<u>む</u>(b)とおぼえたれど、それさしもあらじ。ともかくもたがふべきふしあら<u>む</u>(c)をのどやかに見忍ば<u>む</u>(d)よりほかに、ますことあるまじかりけり。」

ア aとb　イ cとd　ウ bとc　エ aとd

第14講　らむ・けむ

PART1　らむ・けむ

らむ・けむ（＝「ら　・け　」）

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	らむ							（四段型）
形	けむ							（四段型）

問九　「作りごとせんずらん、…」の傍線部を単語ごとに分けるとすると、どのように分けられるか。最も適切なものを次の中から選べ。（「／」は区切りを示す）

ア　せんず／らん　　イ　せん／ずらん
ウ　せ／んずらん　　エ　せ／んず／らん
オ　せ／ん／ずらん　　カ　せ／ん／ずら／ん

【意味】

〈違い〉＝「時制」

「らむ」＝「　　　」
「けむ」＝「　　　」

〈共通〉
①推量（～だろう）
②原因推量（どうして～だろう）
③伝聞（～とかいう）
④婉曲（～ような）

※〈共通〉の意味の上にそれぞれ「時制」を全て付け足す。訳もそれぞれ時制を加えて訳すこと。

★〈意味の見分け方〉＝「　　　」か「　　　」に分ける。

●「　　　」＝時制＋「推量」・「原因推量」
●「　　　」＝時制＋「伝聞」・「婉曲」

★「　　　」の意味の見分け方

●「　　　」→推量

（例）また異所（ことどころ）にかぐや姫と申す人ぞおはしますら**む**。

●「　　　　　　」→原因推量

（例）桜の花の散るを見て詠める。
久方の光のどけき春の日にしづ心なく花の散る**らむ**

※あくまで目安で、文脈判断が必要。

（例）老いたる母など、（頭に鼎をかぶり抜けなくなった者の）枕上に寄りゐて泣き悲しめども、聞く**らむ**ともおぼえず。

●文中に、**「どうして～」と訳せる疑問語、係助詞「や」・「か」**がある場合→「　　　　　　」が多い。

（例）「我に、などかいささかのたまふ（おっしゃる）ことのなかり**けむ**」

問十　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　涙さへなどとまらざるらむ

②　駒並べていざ見に行かむ古里は雪とのみこそ花は散るらめ

③　人違へにてぞあるらむ。

④　見渡せば山もとかすむ水無瀬川夕べは秋と何思ひけむ

問十一　「あらざりけん」の傍線部の助動詞の意味として正しいものを、次の中から選べ。

ア　現在の推量　　イ　過去の推量　　ウ　適当
エ　断定　　オ　伝聞推定

問十二「この翁、年は八、九十にもなりぬらんと見えて、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　打消推量　　イ　現在推量　　ウ　過去推量　　エ　存続　　オ　過去

問十三「年月をいかでわが身に送りけむ昨日見し人今日はなき世に」の傍線部の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　過去にあったことを詠嘆を込めて述べる時に用いる助動詞
イ　過去のことを推量する時に用いる助動詞
ウ　過去に体験したことを述べる時に用いる助動詞
エ　詠嘆をあらわす間投助詞
オ　助動詞「けり」の連体形の音便

問十四「抑（そもそも）いかなる御事にて、かく親しくなりまゐらせつらむ」の傍線部と同じ意味を表しているものを、次の中から選べ。

ア　御前に候ふ人々も、をこがましく思ふらん
イ　鸚鵡いとあはれなり。人の言ふらんことをまねぶらんよ
ウ　などや苦しきめを見るらむ
エ　おぼすらむこと、何事ぞ
オ　これや我が求むる山ならむと思ひて

問十五　次の空欄A、Bには助動詞「らむ」または「けむ」が入る。それぞれに合う助動詞を適切な形にして、記せ。

「かかる所にながめたまふ［A］心の中のあはれに、…」

一つ橋危がりて帰り来たり［B］者のやうに、わびしくおぼゆ。

A＝

B＝

第14講　PART1　確認問題

① 「一方ならぬ哀れさも、誰ゆゑとこそ思ひ<u>けめ</u>」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　婉曲　　イ　過去　　ウ　過去推量　　エ　強意　　オ　推量

② 「さて都にも心安くておはす<u>らん</u>と思はば、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　可能　　イ　自発　　ウ　打消推量　　エ　過去推量　　オ　現在推量

③ 空欄には、助動詞「らむ」が入る。その活用形として、最も適当なものを次の中から選べ。

「思ひやる　心は海を　渡れども　ふみしなければ　知らずやある［　　］」

ア　らむ　　イ　らめ　　ウ　らぬ

④　空欄には、助動詞「けむ」が入る。その活用形として、最も適当なものを次の中から選べ。

「いで給ふまじきにや有り[　　]、…。」

ア　けめ　　イ　けむ　　ウ　ける　　エ　けり

⑤　傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

「吹くからに　秋の草木の　しをるれば　むべ山風を　嵐といふらむ」

ア　嵐になるかもしれない　　イ　嵐と言うらしい　　ウ　嵐と言うのであろう　　エ　嵐のようである

PART2　らむの識別

「らむ」の識別

【識別対象】
1 「　　　」の助動詞「らむ」
2 「　　　」の助動詞「り」の「　　　形」＋推量の助動詞「む」
3 「〜ら」となる活用語の未然形＋推量の助動詞「む」

★〈見分け方〉＝「　　　」の「　　　」

1　上が「　　　」段＝現在推量「らむ」
（例）読む**らむ**

2　上が「　　　」段＝完了「り」＋推量「む」
（例）読め**らむ**

3　上が「　　」段＝活用語の未然形＋推量「む」

（例）　深き故あ**らむ**

※「はべらむ」や「けづらむ」などの例外にも注意！

はべらむ

けづらむ

たてまつらむ

問一　傍線部「らむ」の文法的説明として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選べ。

①　ふるさとの見ざらむ人に…

②　人をまつらむ。

③　何をかたてまつらむ。

④　「～思ひはべらむこと」とわびたまへば…

⑤　なほその境に至らで詠めらむは無念なりとて、…

ア　助動詞「らむ」

イ　助動詞「り」＋助動詞「む」

ウ　活用語の未然形の活用語尾＋助動詞「む」

問二　「流れのままに十余町もや行くらむ。」の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　現在推量の助動詞「らむ」の終止形
イ　現在推量の助動詞「らむ」の連体形
ウ　完了の助動詞「り」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形
エ　完了の助動詞「り」の未然形＋推量の助動詞「む」の連体形

問三　「いかがなりぬらん。」の傍線部と文法的に同じものを、次の中から選べ。

ア　心あてに折らばや折らん初霜の置きまどはせる白菊の花
イ　吹くからに秋の草木のしをるればむべ山風をあらしといふらん
ウ　あらざらんこの世のほかの思ひ出にいまひとたびの逢ふこともがな
エ　ながからん心も知らず黒髪の乱れてけさはものをこそ思へ

問四　「いかでかその由を知らざらむ」の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　動詞の未然形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋推量の助動詞「む」の連体形
イ　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の連用形＋推量の助動詞「む」の終止形
ウ　動詞の未然形＋打ち消しの助動詞「ず」の連用形＋推量の助動詞「らむ」の連体形
エ　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋推量の助動詞「らむ」の終止形
オ　動詞の連用形＋打ち消しの助動詞「ず」の未然形＋詠嘆の助動詞「む」の終止形

問五　傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

「ここにありし人はまだやながむ（a）らむ。」
「人違へしてはをこな（b）らむ」

ア　現在推量の助動詞　　イ　形容詞の一部＋推量の助動詞
ウ　完了の助動詞＋推量の助動詞　　エ　形容動詞の一部＋推量の助動詞

a＝　　　b＝

問六　「いかなる事をせんずらん」の傍線部の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形
イ　動詞「す」の未然形＋助動詞「むず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形
ウ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形
エ　動詞「す」の未然形＋助動詞「む」の終止形＋助動詞「ず」の終止形＋助動詞「り」の未然形＋助動詞「む」の終止形
オ　動詞「せんず」の終止形＋助動詞「らむ」の終止形

〈Memo〉

第14講　PART2　確認問題

① 「戒(いまし)められむずらむ」を単語に分けた場合、どのような分け方になるか。最適なものを次の中から選べ。

ア　戒め／られ／むず／ら／む
イ　戒めら／れ／む／ず／らむ
ウ　戒め／られ／むず／らむ
エ　戒め／られ／む／ず／らむ

② 「侍るらむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　四段動詞＋助動詞
イ　四段動詞＋助動詞＋助動詞
ウ　ラ変動詞＋助動詞
エ　ラ変動詞＋助動詞＋助動詞

③ 「敷けらむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　四段動詞＋助動詞
イ　四段動詞＋助動詞＋助動詞
ウ　下二段動詞＋助動詞
エ　下二段動詞＋助動詞＋助動詞

④ 「男どもあるらむを、…」の傍線部と、文法的説明が同じものはどれか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　さりとも、いましばしならん。
イ　いづくにいかにしておはすらむ。
ウ　人二十人ばかりあるを、乗らむとする舟の、…
エ　おのがさかしからむ時こそ、…

⑤ 文法的説明が助動詞「らむ」ではないものはどれか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　たづぬべき　人もなぎさの　住の江に　たれ松風の　たえず吹くらむ
イ　心あらむと見ゆるに、…
ウ　悲しくや留まりて思ふらむ、…
エ　姑や食ふらむ。かへらや。

第15講 じ・べし・まじ・まほし・たし・ごとし

PART1 じ・べし・まじ

じ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	じ	○	○				○	型

【意味】＝「　」の打消

①　打消推量（～ないだろう）

②　打消意志（～ないつもりだ）

★〈意味の見分け方〉＝主語確認

●一人称　→「　　　　」

（例）我は申さ**じ**。

●それ以外↓「　　　　　」

（例）人の心にはつゆをかしから**じ**。

問七「これ程の事はよもあらじとて…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　推量　　イ　自発　　ウ　打消推量

エ　可能　　オ　現在推量

べし・まじ

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	べし			○		○	○　○	型
	まじ			○		○	○　○	型

【「べし」の意味】＝「スイカとめて」

① **推量**（～だろう）
② **意志**（～よう）
③ **可能**（～できる）
④ **当然**（当然～はずだ）
⑤ **命令**（～せよ）
⑥ **適当**（～するのがよい）

【「まじ」の意味】＝「　　」の打消

① 打消推量（～ないだろう）
② 打消意志（～ないつもりだ）
③ 不可能（～できない）
④ 打消当然（～はずがない）
⑤ 禁止（～するな）
⑥ 不適当（～ないほうがよい）

★**〈「べし」の意味の見分け方〉**＝**文脈判断**。目安として**主語**確認。

●**一**人称→「　　　」

●**二**人称→「　　・　　」

●**三**人称→「　　　」

※**打消・反語**の文脈→「　　　」

※**比較・選択**の文脈→「　　　」

（例）家の作りやうは、夏を旨とす**べし**。

※「**べき由**（よし）」の「べき」→「　　　」

問八　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

① この人々の深き心ざしは、この海にも劣らざるべし。

② 東の方に住むべき国求めにとて行きけり。

③ わが身は女（をうな）なりとも、敵の手にはかかるまじ。

④ 藤波の咲き行く見ればほととぎす鳴くべき時に近づきにけり

⑤「人に聞かすな。人に漏らすまじ」と口固めけり。

⑥ 二条殿へきと参るべきよし、仰せごととて、…

問九　「この人にまさるべからず。」の傍線部の助動詞の文法上の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　受身　イ　可能　ウ　尊敬　エ　打消
オ　存続　カ　意志　キ　婉曲　ク　命令

問十　「因果の道理、違(たが)ふべからず、慎むべし、慎むべし。」の傍線部の助動詞の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　過去　イ　完了　ウ　受身　エ　自発
オ　可能　カ　尊敬　キ　使役　ク　当然

問十一　傍線部ａ・ｂの文法的説明として適当なものを、次の中から選べ。

何事もせむに、いと便なかるべ[a]ければ、…
「やみなむと思ふこそ、いみじ[b]けれ」

ア　ａは推量の助動詞の一部で、ｂは過去の助動詞
イ　ａは形容詞の一部で、ｂは過去の助動詞
ウ　ａは過去の助動詞で、ｂは形容詞の一部
エ　ａは推量の助動詞の一部で、ｂは形容詞の一部
オ　ａは形容詞の一部で、ｂは推量の助動詞の一部

第15講　PART1　確認問題

①「死後なほあしくは報い候はじ」の傍線部の助動詞の意味について、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　打消推量　イ　完了　ウ　命令　エ　仮定　オ　受身

②傍線部の活用形として、最も適切なものを次の中から選べ。

「え止(とど)むまじければ、ただざし仰ぎて泣きをり。」

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

③傍線部について、文法的意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

「(帝は勅使に)駿河(するが)の国にあなる山の頂にもてつくべきよし仰せ給ふ。」

ア　推量　イ　意志　ウ　可能　エ　当然　オ　命令　カ　適当

④　傍線部を現代語訳したものとして、最も適切なものを次の中から選べ。

「羽なければ、空をも飛ぶべからず。」

ア　飛ぶことができない　イ　飛ばないだろう　ウ　当然飛ぶに違いない　エ　飛ばないのが良い

⑤　傍線部を現代語訳したものとして、最も適切なものを次の中から選べ。

「(退屈を紛らわすのに良い本はないか、と尋ねられた場面の後)紫式部を召して、『何をか参らすべき』と仰せられけり。」

ア　「何を差し上げることができるか」

イ　「何を差し上げるだろうか」

ウ　「何を差し上げたらよいか」

エ　「何を差し上げたいか」

PART2　まほし・たし・ごとし

まほし・たし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
形	まほし			○		○	○　○	型
形	たし			○		○	○　○	型

【意味】

①　希望（〜たい）

（例）

下り**まほしう**なりにたらむ。

家にあり**たき**木は、松・桜。

問十二　「またまたも見まほしきに、ありもつかぬ…」の傍線部の活用の種類と活用形を答えよ。

問十三　「なほ童（わらは）にてあらせまほしきさまを、…」の傍線部の文法的意味として適当なものを、次の中から選べ。

ア　反実仮想の助動詞　　イ　断定の助動詞　　ウ　伝聞の助動詞
エ　現在推量の助動詞　　オ　希望の助動詞　　カ　願望の終助詞

ごとし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
体言・連体形 助詞「の・が」	ごとし	**ごとく**	ごとく	ごとし	ごとき	○	○	形容詞型

※助詞「の・が」に付く場合

●体言＋の＋**ごとし**

（例）ただ春の夜の夢の**ごとし**。

●連体形＋が＋**ごとし**

（例）過ぎたるは猶及ばざるが**ごとし**。

【**意味**】

① 比況（〜**ようだ**）

② 例示（〜**ようだ**）

（例）

扇を広げたるが**ごとく**末広になりぬ。

和歌・管弦・往生要集**ごとき**の抄物を入れたり。

〈Memo〉

第15講　PART2　確認問題

①　傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

「かぐや姫を見まほしうて物も食はず思ひつつ、…」

ア　見せたくて　　イ　見てみたくて　　ウ　見るに違いなくて　　エ　見ることができたので

②　傍線部には誤りがある。活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

「すこしのことにも、先達（せんだつ）はあらまほし事なり。」

ア　まほしき　　イ　まほしかり　　ウ　まほしかれ　　エ　まほしく

③　文章の空欄に当てはまる助動詞として、最も適当なものを次の中から選べ。

「いよいよくし□覚えてたしなみけるほどに、…」

ア　たし　　イ　たき　　ウ　たけれ　　エ　たく

④　傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

「わが食ひたき時、夜中にも暁にも食ひて、…」

ア　食べようとしている時
イ　食べさせたい時
ウ　食べたい時
エ　食べることができる時

⑤　「吹ききられたるほのほ飛ぶがごとくして、」の傍線部について、その活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

解答

第1講　PART1　解答

問一　①　におう　②　ひとこえ　③　おかし　④　ふさわし　⑤　とのい

問二　①　ユー　②　オーサカ　③　チョーチョー　④　ショージ

第２講　PART２　解答

問三　①　已然形　②　連用形　③　連体形
④　a　連体形　b　連用形　⑤　命令形

問四　①　已然形　②　連体形　③　已然形
④　連体形　⑤　未然形

第３講　PART２　解答

問一　ワ行上一段活用

問二　ａ　③・ア
　　　　ｂ　⑤・エ

問三　オ

問四　ウ

問五　ａ　１　オ　　２　カ
　　　　ｂ　１　ア　　２　ウ

問六　ａ　１　ウ　　２　イ　　３　ア
　　　　ｂ　１　ウ　　２　ア　　３　イ

第4講　PART1　解答

〔例題一〕 ヤ行下二段活用・連体形

〔例題二〕 ①　カ行上一段活用・連用形
②　サ行変格活用・連体形
③　ワ行上一段活用・（未然形）

問七
①　サ行変格活用・連用形
②　a　カ行四段活用・連用形　b　ラ行変格活用・連体形
③　ヤ行下二段活用・已然形
④　タ行上二段活用・連体形
⑤　サ行下二段活用・連体形
⑥　カ行変格活用・連用形
⑦　a　ワ行上一段活用・連用形　b　ダ行下二段活用・連用形　c　ナ行変格活用・終止形
⑧　a　マ行上一段活用・已然形　b　ワ行上一段活用・連用形

第4講　PART2　解答

問一　ア／ふ（る）

問二　a キ　b コ　c カ　d ケ　e ク

第4講　PART3　解答

問三　a　コ　b　ケ　c　ク　d　ウ　e　キ

問四　ヤ行上二段活用

問五　a　ゐ　b　づ　c　い

第４講　PART４　解答

問六　ア
問七　イ

第５講　ＰＡＲＴ１　解答

問八　①　ク活用・未然形　②　ａ　シク活用・連体形　ｂ　ク活用・已然形
③　ク活用・已然形　④　ク活用・連体形　⑤　シク活用・連用形
⑥　ａ　シク活用・連用形　ｂ　ク活用・連体形

問九　Ａ　いみじき　Ｂ　いみじく

問一　空が寒いので

問二　ああ、幼いなあ。

第５講　PART2　解答

問三
① ナリ活用・連体形
② ナリ活用・終止形
③ ナリ活用・連用形
④ タリ活用・連体形
⑤ ナリ活用・已然形
⑥ ナリ活用・未然形
⑦ タリ活用・連用形

第６講　PART２　解答

問四　①　ぬ　②　に　③　べき　④　しか　⑤　じ　⑥　ましか

第7講　PART2　解答

〔例題〕　①　a　伝聞推定　　b　断定　　②　断定・連用形

問一　①　深かり　②　れ　③　ざら　④　なる
⑤　思へ　⑥　あら　⑦　過ぎ

問二　a　ウ　b　ア

問三　イ

問四　マ行・上一段活用・連用形

問五　オ

問六　イ

第8講　PART1　解答

問七　ず

問八　ざり

問九　A　ア　B　ウ

問十　ア

第8講　PART2　解答

問一　しか
問二　しか
問三　ける
問四　ア
問五　詠嘆
問六　イ
問七　ウ

第９講　ＰＡＲＴ１　解答

〔例題〕イ

問八　①　強意　②　完了　③　完了　④　強意　⑤　強意

問九　き

問十　イ

問十一　a　ウ　b　イ

問十二　a　ア　b　イ

問十三　a　キ　b　ウ

第９講　ＰＡＲＴ２　解答

問十四　ａ　ア　　ｂ　エ
問十五　カ

第10講　PART1　解答

〔例題〕　風が吹いた。

問一　①　打消　②　完了　③　打消　④　打消
⑤　完了　⑥　完了　⑦　打消

問二　ア

問三　オ

問四　ア

第10講　PART2　解答

問五　① 打消　② 打消　③ 打消　④ a 完了　b 打消

問六　ア 完了の助動詞「ぬ」の命令形
イ 打消の助動詞「ず」の已然形

問七　ヤ行下二段活用・未然形

問八　ア

問九　エ

問十　エ

問十一　① イ　② エ　③ ア　④ ア　⑤ ア
⑥ イ　⑦ ウ　⑧ ア　⑨ ア　⑩ ア

第11講 PART1 解答

問一 Ⅰ ア　Ⅱ ウ
問二 ① 自発　② 尊敬　③ 可能　④ 受身
問三 a ア　b オ
問四 ウ
問五 エ
問六 エ

第11講　PART2　解答

問七　イ
問八　a　り　b　る
問九　a　オ　b　ア
問十　エ
問十一　オ
問十二　オ
問十三　a　ウ　b　ア
問十四　エ
問十五　ア
問十六　a　エ　b　ウ

第12講　PART1　解答

問一　オ

問二　①　尊敬　②　使役　③　使役　④　尊敬　⑤　使役

問三　オ

問四　オ

問五　使役・さす・連体形

問六　エ

第12講　PART2　解答

問七　①　エ　②　ア　③　ウ　④　ア

問八　き

問九　イ

第13講　PART1　解答

問十　ましか　※文法的には「ませ」でも間違いではありませんが、和歌の音の数で「ましか」を正答とします。
問十一　どのようにしようかしら〔どのようにしたらよいだろう〕。
問十二　反実仮想
問十三　ウ
問十四　エ
問十五　助動詞・まし・未然形・反実仮想

第13講　PART2　解答

問一　む・已然形

問二

サ行変格活用・連用形	ハ行四段活用・未然形	助動詞「むず」・連体形
し	たまは	むずる

第13講　PART3　解答

問三　①　意志　②　推量　③　婉曲　④　推量　⑤　仮定　⑥　適当（勧誘）
問四　エ
問五　エ
問六　婉曲
問七　イ
問八　エ

第14講　PART1　解答

問九　エ

問十　①　現在原因推量　②　現在推量　③　現在推量　④　過去原因推量

問十一　イ

問十二　イ

問十三　イ

問十四　ウ

問十五　A　らむ　B　けむ

第14講　PART2　解答

問一　①ウ　②ア　③ウ　④ウ　⑤イ
問二　イ
問三　イ
問四　ア
問五　a ア　b エ
問六　イ

第15講　PART1　解答

問七　ウ

問八　①　推量　②　適当　③　打消意志　④　当然　⑤　禁止　⑥　命令

問九　イ

問十　ク

問十一　エ

第15講　PART2　解答

問十二　マ行上一段活用・未然形

問十三　オ

確認問題　解答

第1講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 現代語の拗音「ゃ・ゅ・ょ」は、古文では「や・ゆ・よ」と表記される。

② 歴史的仮名づかいにおけるハ行の言葉は、語頭以外の場合ワ行に、「ゐ・ゑ・を」は「い・え・お」に直して読む。

③ 現代語の促音「っ」は古文では「つ」と表記される。また、「くわ・ぐわ」は「か・が」に直して読む。

④ 母音と母音が重なる場合は長音に直して読む。「a＋う」は「オー」、「i＋う」は「ユー」となる。ハ行の「ふ」を「う」と直してから、「にう」を「にゅう」と直すこと。

⑤ 「e＋う」は「ヨー」と直して読む。まず、ハ行の「ふ」を「う」と直してから、「てう」を「ちょう」と直すこと。

〔解答〕

① イ　② ア　③ ウ　④ エ　⑤ イ

第1講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「ゐ・ゑ・を」はワ行の文字であり、「ゑざうし」は「えぞうし（絵草子）」と読む。

② 「ゐ・ゑ・を」はワ行の文字であり、現代仮名づかいでは「い・え・お」と直す。

③ 「を」はワ行の文字である。助詞として使用されている場合以外、「を」は「お」と直して読む。

④ 「ゐ」はワ行の文字である。他にも、「ゐなか（田舎）」、「とのゐ（宿直）」「ゐのしし（猪）」など、名詞にも使用される。

⑤ 終止形は「老ゆ」となり、ヤ行の文字であることが分かる。ヤ行の「い・え」は単独では判別が難しく、活用語尾から考える必要があるので、注意する。

〔解答〕

① エ　② エ　③ エ　④ エ　⑤ ウ

第2講 PART1 確認問題 解答

〔解説〕

① 体言＝名詞。副詞・連体詞・感動詞は活用しない自立語である。

② 用言＝動詞・形容詞・形容動詞。助動詞は用言ではないので、正解はイとなる。

③ 「ある」＝連体詞、「ところ」＝名詞、「あり」＝動詞、「けり」＝助動詞となる。

④ 「いと」＝副詞、「静かなる（静かなり）」＝形容動詞、「かの」＝連体詞、「なり」＝助動詞となる。

⑤ 「その」＝連体詞、「うつくしさ」＝名詞、「限りなし」＝形容詞、「思ひけり」＝動詞（「思ふ」）＋助動詞（「けり」）となる。

〔解答〕

① エ　② イ　③ ウ　④ イ　⑤ イ

第2講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 活用形を考える際は、用言に続く部分を確認する。用言に続く部分は「者」＝体言となるので、「連体形」である。

② 用言に続く部分は「ず」となるので、「未然形」である。

③ 用言に続く部分は「けれ（けり）」となるので、「連用形」である。

④ 用言に続く部分は引用の「と」となるので、「終止形」である。

⑤ 上の部分に、已然形で結ぶ係助詞「こそ」がある。「こそ」以外の係助詞は連体形で結ぶ。

〔解答〕

① エ　② ア　③ イ　④ ウ　⑤ オ

第3講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 四段活用の仕方は、「a／i／u／u／e／e」である。よって、正解はア。

② ナ行変格活用の動詞は、「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」である。空欄の下には体言が続くことから、連体形にする。よって、正解はウ。

③ 下一段活用の動詞は、「蹴る」のみである。よって、正解はイ。

④ 上一段活用の動詞は、「干る」・「射る」・「鋳る」・「着る」・「似る」・「煮る」・「見る」・「居る」・「率る」である。よって、正解はエ。

⑤ 「ず」をつけて考える。イ「言はず」、ウ「語らず」、エ「張らず」となるので四段活用である。ア「乱れず」となるので、下二段活用。よって、正解はア。

〔解答〕

① ア　② ウ　③ イ　④ エ　⑤ ア

第3講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「ず」をつけると、「好まず」となるのでマ行四段活用。下を見ると、接続助詞「て」があるので、活用形は連用形。ただし、接続助詞は未学習のため、四段活用の仕方で考えることも可能。

② サ行変格活用の動詞は、「す」・「おはす」・「ものす」。活用の仕方を考えると、「せ／し／す／する／すれ／せよ」になるので、正解はイ。

③ ラ行変格活用の動詞は、「あり」・「居（を）り」・「侍り」・「いまそかり」（「いまそがり・いますかり・いますがり」なども）である。よって、正解はエ。

④ 「恋す」は「恋」＋「す（サ変動詞）」で、「恋をする」と訳す。問題文を参考に、「てふ」は「と言う」と訳せばよいので、正解はウ。

⑤ 「漢字一字の音読み＋す」は、サ行変格活用の動詞になる。よって、正解はア。

⑥ 「〜んず」の形＝サ変が多い（例「信ず」・「案ず」・「論ず」など）ことを押さえる。空欄の下を見ると体言があるので、活用形は連体形。活用の仕方で考えると、「ぜ／じ／ず／ずる／ずれ／ぜよ」なので、正解はウ。

〔解答〕

① イ　② イ　③ エ　④ ウ　⑤ ア　⑥ ウ

第4講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「見る」はマ行上一段活用。下に体言があるので連体形。

② 「見せ」はサ行下二段活用動詞「見す」の連用形。「与ふ」はハ行下二段活用。

③ 「見え」はヤ行下二段活用動詞「見ゆ」の未然形。「燃ゆ」がヤ行下二段活用。「報ゆ」はヤ行上二段活用。

④ 「植(う)う」は下二段活用。他は上一段活用。

⑤ 「着る」はカ行上一段活用。下に「たる（『たり』の連体形）」がついているので連用形。

〔解答〕

① エ　② イ　③ ウ　④ ア　⑤ イ

第4講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「悩ます」はサ行四段活用。下に「こと」という体言があるので連体形。

② 「寝」はナ行下二段活用で、終止形が「寝」と一文字になり、「ね・ね・ぬ・ぬる・ぬれ・ねよ」と活用する。

③ 「見ゆる」の基本形は「見ゆ」。ヤ行下二段活用で、語幹は「見」である。

④ 「侍り」はラ行変格活用。下に「し」とあるので、連用形の「侍り」が入る。

⑤ 「し」はサ行変格活用動詞「す」の連用形。

〔解答〕

① イ　② イ　③ ア　④ イ　⑤ ウ

第4講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「心得」はア行下二段活用動詞。

② 「悔い」はヤ行上二段活用動詞「悔ゆ」の連用形。

③ 「植う」はワ行下二段活用。下に「けるに」と続くので、連用形の「植ゑ」となる。

④ 「射（ん）」はヤ行上一段活用動詞「射る」の未然形。

⑤ 「据う」と「率る（ゐる）」の活用の行はワ行。「所得」はア行、「笑む」はマ行、「居り」はラ行。

〔解答〕

① ア　② エ　③ エ　④ ア　⑤ ウ

第4講 PART4 確認問題 解答

〔解説〕

① 「いれ」はラ行下二段活用動詞「入る」の連用形。意味は「(中に)入れる」。四段活用の「入る」の連用形は「入り」。

② 「乱ら」はラ行四段活用動詞「乱る」の未然形。意味は「乱れるようにする」「乱す」。

③ 「〜をかぶる」という意味の「かづく(被く)」は四段活用なので、「〜て」に続く連用形の形は「かづき」となる。

④ 「頼め」はマ行下二段活用動詞「頼む」の連用形で、「頼みに思わせる」という意味。

⑤ 下に「〜て」とあることから「立て」の活用は連用形。したがって下二段活用である。

〔解答〕

① エ　② イ　③ イ　④ ア　⑤ エ

第5講　PART1　確認問題　解答

〈解説〉

① 文末なので、上を見て係助詞の有無を確認。**「こそ」があるので已然形**にする。よって、オが正解。

② 「ない」という状態で、現代語で「〜い」で終わるから形容詞。古語での基本形は「なし」。「なくなる」となるので、ク活用。「けれ」＝「けり」だが、未学習のため「活用の仕方」で考える。「〜かり」は連用形。

③ 文末なので、上を見て係助詞の有無を確認。**「ぞ」があるので連体形**にする。選択肢の中で連体形は、イかウ。下が助動詞ではないため、正解はイ。

④ 形容詞の語幹用法は「訳し方」を覚える。**「A（を）Bみ」＝「AがBなので」**と訳す。よって、ウが正解。

⑤ 形容詞の語幹用法は「訳し方」を覚える。**「あな（「あら」もしくは「単独」）、語幹。」＝「ああ、〜。」**と訳す。「めでたし」の語幹は「めでた」であるため、正解はウ。

〈解答〉

① オ　② ア　③ イ　④ ウ　⑤ ウ

第5講 PART2 確認問題 解答

〔解説〕

① 傍線部の下に、「曾根崎」という体言がある。活用形を連体形にするので、アが正解。

② 「あやしげなる」は様子を表し、「～なる」なのでナリ活用の形容動詞。活用の仕方から「～なる」は連体形。よって、エが正解。

③ 形容詞「いみじく」の活用語尾が、発音しやすいように別の音に変化している。「く」→「う」に変化しているので、正解はイ。

④ 形容動詞「心苦しげなる」の活用語尾が、推定の助動詞「めり」を伴って、「なる」→「なん」に変化している。同様に、撥音便であるのはエ。「忍びて」→「忍んで」に変化している。「なん」の「ん」は省略されやすいことに注意。

⑤ 「らうたげなる」は様子を表し、「～なり」なのでナリ活用の形容動詞。ナリ活用の形容動詞を探せばよいので、イが正解。

〔解答〕

①　ア　②　エ　③　イ　④　エ　⑤　イ

第6講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞とは「用言や体言などに付いて、意味を加える語」である。よって、ウが正解。

② 現代語の「〜ない」のように打消を表す古語は「ず」である。よって、アが正解。

③ 「らむ」は現在推量を表す助動詞である。よって、ウが正解。

④ 「なり」は断定を表す助動詞で、「〜である」と訳す。よって、イが正解。

⑤ 「いふ」と「あり」は動詞、「もの」は名詞、「けり」は過去を表す助動詞である。よって、エが正解。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ ウ　④ イ　⑤ エ

第6講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞「る」の活用型は下二段型である。選択肢の中で下二段型に活用するのは「つ」のみ。よって、アが正解。

② 文末の空所補充の問題は係助詞が絡んでいるものが多い。よって、上をざっと見て係助詞の有無を確認してみると「ぞ」がある。したがって、文末は連体形となる。選択肢の中で連体形になっているものはエのみ。よって、エが正解。

③ 上を確認すると、「こそ」があるので文末は已然形となる。選択肢の中で已然形はウのみ。よって、ウが正解。

④ 特殊型の助動詞「き」は、「(せ)・○・き・し・しか・○」と活用する。

⑤ 特殊型の助動詞「ず」は、下に助動詞がつく場合は「ざら・ざり・○・ざる・ざれ・ざれ」と活用する。助動詞「けり」は連用形に接続するので、正解はエ。

〔解答〕

① ア　② エ　③ ウ　④ ウ　⑤ エ

第7講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「たり」は連用形に接続する場合は完了、体言に接続する場合は断定の意味を表す。

② 「じ」の上は未然形。「来」はカ変動詞。カ変は「こ・き・く・くる・くれ・こ（よ）」と活用するので、正解はア。

③ 「〜来」はカ変動詞。傍線部下の「べき」＝「べし」で、「べし」の上は終止形である。

④ 「あり」はラ変動詞。傍線部下の「らむ」の上は基本的には終止形だが、ラ変型に活用する語の場合は連体形。「あり」の連体形は「ある」なので、正解はウ。

⑤ 「り」の上は、サ変動詞の未然形か四段活用動詞の已然形。「なす」はサ行四段活用動詞なので、正解はイ。

〔解答〕

① エ　② ア　③ イ　④ ウ　⑤ イ

第7講 PART2 確認問題 解答

〔解説〕

① 「し」はサ変動詞の連用形。選択肢の中で連用形に接続するのはイの「けり」。よって、イが正解。

② 「めり」の上は基本的には終止形で、ラ変型に活用する語の場合は連体形。「おはします」はサ行四段活用動詞なので、ここでは終止形。よって、ウが正解。

③ 「まどろま」はマ行四段活用動詞「まどろむ」の未然形。「り」「る」のうち、未然形に接続するのは「る」。また、傍線部下の「ず」の上は未然形。よって、ウが正解。

④ 「聞こゆ」はヤ行下二段活用動詞。「まほし」の上は未然形なので「聞こえ」となる。よって、アが正解。

⑤ 「ごとし」の上は体言・連体形、もしくは助詞「が・の」。選択肢の中で該当するのは「の」。よって、アが正解。

〔解答〕

① イ　② ウ　③ ウ　④ ア　⑤ ア

第8講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「ぬ」は打ち消しの助動詞「ず」の連体形。意味は「…ない」。

② 打消の助動詞「ず」は未然形に接続する。

③ 「ざり」は打消の助動詞「ず」の連用形。

④ 空欄ａの直後にある「君達」は名詞（体言）なので、連体形に活用させる。

⑤ 空欄ａの下が「、」なので連用形にする。選択肢の中で連用形はイかウ。下が助動詞ではないから、正解はイ。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ ア　④ エ　⑤ イ

第8講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 過去の助動詞「き」は連用形に接続する。

② 過去の助動詞「き」は連用形に接続するので、下二段活用「求む」の連用形に接続しているアが正しい。

③ 上が連用形で、「しか」と活用するのは、過去の助動詞「き」(已然形)。よって、オが正解。

④ 「けり」には過去に加え詠嘆の意味がある。意味が詠嘆となるのは、設問にあるような「なり＋けり」のとき、和歌や会話文中にあるときである。イが和歌であることから、正解とわかる。

⑤ 設問は係助詞「こそ」を受けているので、已然形。イの「ば」に連なる「けれ」が已然形である。ウは副詞。

〔解答〕

①イ　②ア　③オ　④イ　⑤イ

第9講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「経」は終止形が一文字のハ行下二段活用動詞。「ぬれ」は完了の助動詞「ぬ」の已然形で、連用形接続。よって、エが正解。

② 続く「こと」が体言なので、連体形に活用させる。

③ 連用形に接続し「ぬる」と活用するのは、助動詞「ぬ」（連体形）。続く「やうなる」が推量系ではないので、完了の意を表す。

④ 「ぬ」の下に推量の助動詞「べし」が接続していることから、完了ではなく「きっと……てしまう」と強意の意で訳す。

⑤ 四段動詞「着く」の連用形に接続しているので、「に」は完了の助動詞「ぬ」。「に」と変化するのは連用形である。同様に連用形であるのは、完了の助動詞「つ」の連用形「て」であるエ。本来であれば「給ひて」であるが、ウ音便化して「給うて」となっている。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ ウ　④ ア　⑤ エ

第９講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

①「踏みあけ」はカ行下二段活用動詞。「たる」は完了の助動詞「たり」の連体形で、連用形接続。よって、エが正解。

②「る」は完了の助動詞「り」の連体形。「り」は四段活用の已然形に接続することから、「たまふ」を已然形「たまへ」に活用させる。

③助動詞「る」には完了と存続の意味がある。まず存続（ウ）で訳し、不自然であれば完了（イ）の意でとる。ここでは「痩せて骨ばった肩に……」に自然につながる存続として訳す。

④「打ち捨てがた」いものであるので、ここでの「たる」は存続ではなく「餞別などしてくれた」と完了の意で訳す。

⑤ａもｂも動詞の連用形に接続しているので、完了の助動詞「たり」の活用したものである。体言「ことわざ」に連なるａは連体形、推量の助動詞「む」に連なるｂは未然形。したがってエが正しい。

〈解答〉

①エ　②エ　③ウ　④オ　⑤エ

第10講　PART1　確認問題　解答

〈解説〉

① a「ねたる」＝「寝た」。「寝る」と訳せる「ね」なので、ナ行下二段活用動詞。b「往ぬ」の一部分なので、ナ変動詞の活用語尾。よって、エが正解。

② aラ行変格活用動詞「侍り」の活用語尾は「ら・り・り・る・れ・れ」と活用する。文末ではないので、「侍り」は連用形。bは連用形に接続するのは、完了の助動詞「ぬ」。よって、ウが正解。

③「かなふ」は活用語尾が「は・ひ・ふ・ふ・へ・へ」と活用するハ行四段活用動詞。「ぬ」＝打消の助動詞「ず」の連体形。助動詞「ず」の接続は未然形なので、「かなは」は未然形。よって、正解はア。

④ 文末で、上に係助詞や疑問副詞がないので、終止形か命令形。直前が「参り」でラ行四段活用の連用形であることから、傍線部は完了の助動詞「ぬ」の命令形。よって、正解はウ。

⑤ 形容詞「よし」の未然形、ハ行四段活用「語らふ」の未然形、ハ行四段活用「のたまふ」の未然形に接続しているので、ア・ウ・エの「ぬ」は打消。カ行四段活用「置く」の連用形に接続しているので、イの「ぬ」は完了。よって、イが正解。

〈解答〉

① エ　② ウ　③ ア　④ ウ　⑤ イ

第10講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 上が「なり」でラ行四段活用の連用形なので、この「ぬ」は完了「ぬ」。完了「ぬ」は「な・に・ぬ・ぬる・ぬれ・ね」と活用するので、終止形。もしくは、下を確認し、終止形に接続する助動詞「らむ」があることからも傍線部は終止形。よって、ウが正解。

② 下が「鳥」と体言なので、この「ぬ」は連体形。したがって、打消の助動詞「ず」である。よって、エが正解。

③ 上に係助詞「こそ」があるので、この「ね」は已然形。したがって、打消の助動詞「ず」である。よって、正解はア。

④ aとdは文末で、上に係助詞や疑問副詞がないこと、直前が四段活用動詞の連用形であることから、完了。bは打消「ず」の已然形。cはナ変動詞「死ぬ」の一部。eはナ行下二段活用動詞「寝」。よって、正解はア。

⑤ 上が「負け」でカ行下二段活用のため、未然形か連用形かはここだけでは不明。よって、下を確認する。「べし」なので接続を考えると、この「ぬ」は終止形だとわかる。よって、完了の助動詞「ぬ」だが、さらに細かく意味を考えると、下に推量系「べし」がくっついているので、この「ぬ」は強意のほうがよい。選択肢を見ると強意があり、活用形との組み合わせも適切。よって、イが正解。

〔解答〕

① ウ　② エ　③ ア　④ ア　⑤ イ

第11講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① aカ行下一段活用。bハ行下二段活用。cラ行四段活用。dサ行変格活用。eナ行変格活用。助動詞「る」は四段活用・ナ行変格活用・ラ行変格活用の未然形に接続し、助動詞「らる」はそれ以外の未然形に接続する。よって、ウが正解。

② 上の「仰せ」はサ行下二段活用動詞。したがって、助動詞「らる」が接続する。下を確認すると「ば」なので、空欄aには已然形の「らるれ」が入る。よって、エが正解。

③ 上が「思ひ出で」で心情・知覚動詞なので自発。よって、正解はイ。

④ aは上に「〜に」があるので受身。bの下を確認すると「ね」で、上に係助詞「こそ」があるので、打消の助動詞「ず」の已然形である。打消の助動詞「ず」が続いていることから、bは可能。よって、正解はア。

⑤ 上に「〜に」があるので、設問の「れ」は受身。同じく「〜に」があるのはウのみ。アは自発。イは可能。エは尊敬。よって、正解はウ。

〔解答〕

① ウ　② エ　③ イ　④ ア　⑤ ウ

第11講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① ア、イ、エはそれぞれ上がエ段で、「住む」「知る」「まさる」という動詞の已然形なので、傍線部の「る」は完了の助動詞「り」。ウのみ上がア段の未然形なので助動詞「る」。よって、ウが正解。

② 上の「臥せ」はサ行四段活用動詞「臥す」の已然形。上がエ段で「臥す」という動詞なので、設問の「る」は完了の助動詞「り」。よって、エが正解。

③ aは助動詞「る」の連体形。上に「推しはかる（＝想像する）」と心情動詞があるので、自発。bは、上がエ段で「給ふ」という四段活用の補助動詞なので、完了の助動詞「り」。よって、正解はア。

④ 上がウ段なので、上からの一語（活用語尾）のはず。さらに上に係助詞「か」があるので、傍線部は連体形（の一部）。ラ行下二段活用動詞「忘る」の連体形は「忘るる」。よって、正解はイ。

⑤ 下に打消「ず」があるので、設問の「れ」は可能。同じく下に打消「ぬ（＝「ず」の連体形）」があるのはウ。アはヤ行下二段活用動詞「越ゆ」の已然形活用語尾。イは完了。エは尊敬。よって、正解はウ。

〔解答〕

① ウ　② エ　③ ア　④ イ　⑤ ウ

第12講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 空欄の直後にある「給ひ」は補助動詞（用言）なので、連用形に活用させる。よって、アが正解。

② 尊敬の助動詞「さす」は未然形に接続する。よって、アが正解。

③ 「竈（竜神）に言ひて降らしめし」とあるので、ここでは使役の意味。よって、エが正解。

④ 直後に「たまへ」という尊敬の補助動詞があるが、ここでは「伊勢」や「貫之」に（和歌を）詠ませる、という使役の意味で用いられている。よって、エが正解。

⑤ aは「（妻である）女」に養わせるという使役の意味。bは「人に」とあるので使役の意味。cは直後に「たまひ」があり、かつ「人に」にあたる言葉がなく、また補うこともできないので、尊敬の意味。よって、エが正解。

〔解答〕

① ア　② ア　③ エ　④ エ　⑤ エ

第12講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 使役の助動詞「す」は未然形接続なので、アかエ。エは下に尊敬の補助動詞「給ふ」があり、「人に」を補うことができないので、ここでは尊敬の意味。よって、アが正解。

② 四段動詞「よむ」の未然形に「せ」が接続した形。「女房」に「よませたまふ」という文脈なので、使役の意味。また「たまふ」に連なるので連用形である。よって、ウが正解。

③ 下に尊敬の補助動詞「たまふ」があり、「人に」を補うことができないので、ここでは尊敬の意味。主語は「上」（＝天皇）である。よって、イが正解。

④ 「おろかにする」のように「する」と訳せるので、サ行変格活用動詞「す」の未然形。よって、エが正解。

⑤ 「連用形＋せば〜まし」の「せ」は、過去の助動詞「き」の未然形。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② ウ　③ イ　④ エ　⑤ ウ

第13講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①「ましか」は活用語の未然形に接続する。未然形が「見え」となるのは、ヤ行下二段活用動詞の「見ゆ」である。よって、正解はウ。

②「AましかばBまし」の形は、反実仮想の用法。「もしAならばBだろうに」と訳す。よって、イが正解。

③反実仮想の形をとっていないイを選ぶ。ためらいの意志「…ようかしら」と訳す。よって、イが正解。

④反実仮想は「～せば～まし」の形。過去の助動詞「き」を未然形「せ」とし、末部の「まし」は終止形とする。よって、正解はエ。

⑤「この木なからましかばと覚えしか」は「もしこの木がなければと思った」と口語訳できる。反実仮想「もしAならばBだろうに」のB以降が省略された形なので、「AましかばBまし」の形にすることができる。よって、ウが正解。

〔解答〕

①ウ　②イ　③イ　④エ　⑤ウ

第13講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「ん」＝「む」で「当たらむずる」。「むず」は「む」と「ず」に切らない（助動詞「ず」の上は未然形だが、「む」は未然形ではない）。「むずる」の「る」は、「る」の識別の復習。「る」の上の音がｕ段なので、上からの一語と考えられる。したがって、「むずる」で一語である（助動詞「むず」の連体形）。「当たら」と四段活用の未然形に接続しているので、「当たら」＋「むずる」である。よって、正解はウ。

② 直後にある「とて」は引用を示す。「『…。』と言って…」と口語訳できるので、終止形。よって、ウが正解。

③ 文中の「む」＝「仮定」か「婉曲」。下が体言ではないので「仮定」から考える。選択肢に「婉曲」がないことからも「仮定」と判断できる。よって、エが正解。

④ 「ん」＝「む」。文中で下に体言があるので、婉曲の意味。よって、正解はア。

⑤ アは「香炉峯の雪」（三人称）が主語なので推量。イは「我」（一人称）が主語なので意志。ウは「人々」（三人称）が主語なので推量。エは「心地」（三人称）が主語なので推量。よって、正解はイ。

〔解答〕

① ウ　② ウ　③ エ　④ ア　⑤ イ

第13講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 主語が「わ」（一人称）なので「意志」の意味。また、引用の「と」の上にあるので終止形である。よって、エが正解。

② 「こそ〜め」の形は「勧誘」（〜ませんか）、もしくは「適当」（〜するのがよい）の意味になることが多い。ここでは「取らせなさるのがよい」という「適当」の意味。よって、イが正解。

③ 強意の助動詞「つ」の未然形「て」に、意志の助動詞「む」が連なり「てむ」となって、強い意志を表している。よって、ウが正解。

④ 係り結びになっている。「むず（んず）」の已然形は「むずれ（んずれ）」である。よって、エが正解。

⑤ 「婉曲」や「仮定」の意味である場合、直後に体言がある点に注意。「人」につながるa、「こと」が省略されており、「〜ような（こと）」と文脈から訳せるdが婉曲になるので、エが正解。

〔解答〕

① エ　② イ　③ ウ　④ エ　⑤ エ

第14講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「けめ」＝助動詞「けむ」の已然形（上が「思ひ」でハ行四段活用の連用形。文中に「こそ」があるので、文末は已然形）。よって、ウが正解。

② 「らん」＝助動詞「らむ」の終止形（上が「おはす」でサ変の終止形。「と」の上で係助詞もなく、傍線部は終止形か命令形。命令形の「らん」は存在しないため、終止形である）。よって、オが正解。

③ 空欄の前に「ぞ・なむ・や・か・こそ」の有無を確認すると「や」がある。係り結びの法則により、句末を連体形で結ぶ。よって、アが正解。

④ 空欄の前に「ぞ・なむ・や・か・こそ」の有無を確認すると「や」がある。係り結びの法則により、末尾を連体形で結ぶ。よって、イが正解。

⑤ 助動詞「らむ」が文末にきているので、現在の「推量」か「原因推量」であると判断する。また、上の句が「風が吹くと秋の草木が萎れるので、」と原因になる。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ウ　② オ　③ ア　④ イ　⑤ ウ

第14講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 「らむ」がウ段についているので「らむ」で一語の現在推量の助動詞。「むず」で一語か否かは、「ず」ならば上が未然形になるが、「む」に未然形は存在しないため「むず」で一語。よって、正解はウ。

② 「らむ」の上がウ段なので、「らむ」は現在推量の助動詞。「侍る」はラ変の連体形。よって、正解はウ。

③ 「らむ」の上がエ段なので、「らむ」は完了の助動詞「り」＋推量系の助動詞「む」。完了「り」の上にある「敷け」は接続を考えると、サ変か四段のどちらかで、「敷かない」と活用するので、四段活用である。よって、正解はイ。

④ 「らむ」の上がウ段なので、「らむ」は現在推量の助動詞。同様に探すと、ウ段になるのは「おはす」。「おはす」はサ変の終止形。よって、正解はイ。

⑤ 「らむ」の上がウ段でないものを探す。イの「らむ」は、ラ変動詞「あり」の一部に推量の助動詞「む」がついたものである。よって、正解はイ。

〈解答〉

① ウ　② ウ　③ イ　④ イ　⑤ イ

第15講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞「じ」の意味は、打消推量か打消意志。このうち、選択肢には打消推量しかない。よって、アが正解。

② 助動詞「まじ」の活用の仕方で考えることができる。「(まじく)／まじく／まじ／まじき／まじけれ／〇」。よって、正解はオ。

③ 傍線部の下には「よし」がある。「べきよし」の「べき」は命令である。よって、正解はオ。

④ 助動詞「べから」の下に打消の助動詞「ず」がある。打消・反語の文脈で用いられる「べき」の意味は可能。よって、正解はア。

⑤ 場面の補足に注目する。良い本はないか、と尋ねられた後の傍線部である。比較・選択の文脈で用いられる「べき」の意味は適当。よって、正解はウ。

〔解答〕

① ア　② オ　③ オ　④ ア　⑤ ウ

第15講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 助動詞「まほし」の意味は「希望（～たい）」である。よって、正解はイ。

② 傍線部の下には体言が続くので、連体形にする。助動詞「まほし」の活用形は「(まほしく)／まほしく／まほし／まほしき／まほしけれ／○」。よって、正解はア。

③ 空欄の下には、ヤ行下二段活用「覚ゆ」が続くので、連用形にする。助動詞「たし」の活用形は「(たく)／たく／たし／たき／たけれ／○」。よって、正解はエ。

④ 助動詞「たし」の意味は「希望（～たい）」である。よって、正解はウ。

⑤ 傍線部の下には、サ変動詞「す」が続くので連用形である。助動詞「ごとし」の活用形は「(ごとく)／ごとく／ごとし／ごとき／○／○」。よって、正解はイ。

〔解答〕

① イ　② ア　③ エ　④ ウ　⑤ イ

はじめに

「受験古文」の最終目標は、**「初見の古文の文章を辞書なしで読めて、問題が解けること」**です。

そのために必要な三つの要素は、**「文法・単語・読解のルール（古文常識・作品常識含む）」**です。

三つの要素のうち、「文法」と「単語」が古文の土台となるところです。

「古文ができない」、「読めない」という人のほとんどは、この「文法」と「単語」がきちんとできていません。

この講座は、その土台の一つである**「文法」をしっかり身に着けるための講座**です。

本講座は**「ベーシックレベル」**ですが、「基本だけ学ぶ」という意味ではありません。

基本から説明をして、実際の大学入試の文法問題も解けるように構成しています。

他レベルの『文法講座』との大きな違いは、

●**各チャプター時間が短時間**〔チャプターの途中で集中力が切れてしまわないように。〕

●**用例ごとの例文が豊富**〔なるべく有名な文章から取り上げました。学校の授業で見かける文もあるはず。〕

●**問題数が多い**〔同じような問題でも、たくさん実施することにより、より記憶に定着させるため。〕

●**大事なことは繰り返し説明**〔何度も同じことを聞くことにより、自然と復習していることになる。〕

●**丁寧にじっくり解説**〔わかる人には冗長に感じるかも。ですが、**「ゆっくりじっくり確実に！」**の姿勢で。〕

あとは、テキスト解説部分の文字も大きく読みやすくしています。

他の文法講座より講数が多いのは、前述（例文・問題数が多いが、じっくり解説）の理由からです。
よって、身に着く内容は「ベーシックレベル」でも、他の文法講座となんら違いはありません。
全30講をきちんと仕上げたとき、大学入試文法問題を解く力はもとより、
大学入試レベルの文章を読むための土台の力も、十分についています！

現時点で「古文なんて、何書いているのかさっぱりわからないから大嫌いだ」という人は、なんの問題もありません。
一番恐ろしい勘違いは、「古文なんて日本語なんだから、勉強しなくてもどうにかなる」と思ってしまうことです。
断言しておきますが、勉強しておかないと、絶対にどうにもなりません。
「古文＝日本語」だと思っている人がいるならば、**「古文＝外国語」**だというくらいイメージを変えましょう。
ただし、**コツさえつかめば**、外国語を学習するよりも**ずっと簡単に、ずっと楽に「点取り科目」にすることができる。**
それが、古文のオイシイところです。

本講座で文法のコツをしっかりとつかんで、是非、古文を得点源の科目にしましょう！

予復習・授業の受け方について

予習は一切不要です。
ノートも不要です。
テキストと筆記用具さえあれば大丈夫です。
テキストへの書き込みで授業をすすめていきます。

テキスト中に〔**例題**〕や「**問題**」がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。
特に**太字**や**空欄に自分で書き込んだところ**に重点を置いて、覚え込むまで何度も復習してください。

復習が終われば、各パートの後ろにある「**確認問題**」を解きましょう。
確認問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないようにしてください。
万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「確認問題」を解き直しましょう。
記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいネ！

目次

ベーシックレベル　古文＜文法編＞

第16講　2つの「なり」……p.6
第17講　なりの識別／めり・らし／推量・推定の助動詞まとめ……p.22
第18講　係助詞・間投助詞……p.44
第19講　接続助詞・「て」の識別……p.68
第20講　の・が（格助詞）……p.90
第21講　して・より・にて（格助詞）……p.108
第22講　終助詞・識別（ばや）……p.118
第23講　副助詞・識別（し）……p.130
第24講　識別（なむ）……p.146
第25講　識別（に）……p.158
第26講　呼応の副詞……p.178
第27講　敬語の種類・本動詞と補助動詞……p.196
第28講　補助動詞2つの給ふ……p.216
第29講　複数種類を持つ敬語……p.224
第30講　敬意の方向……p.236

〈Memo〉

PART1　断定・存在／伝聞・推定の「なり」

2つの「なり」

(例)　この男は王**なり**けり。

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	なり **(断定・存在)**							型
	なり **(伝聞・推定)**	○					○	型

★断定の接続に関して

●形容詞型に接続する場合

「〜**き**＋なり」となる。

（例）申すべき**なら**ねど、…

●一部の副詞や助詞にも接続する。

「ばかり**なり**」
「〜ば**なり**」
「かく**なり**」
「さ**なり**」
「しか**なり**」
の「**なり**」など。

（例）七里ばかり**なり**。　／　わざと**なら**ぬにほひ、…

★〈「存在・断定」の「なり」の語源と見分け方〉

語源＝「　　」＋あり

① **存在**（〜にある・〜にいる）

※「　　」**（方角）＋なり**

（例）

駿河**なる**宇津の山べの…

壺**なる**御薬…

② **断定**（〜である）

※①以外

（例）　行きかふ年もまた旅人**なり**。

★〈「伝聞・推定」の「なり」の語源と見分け方〉

語源＝「　　」＋あり

①　**伝聞**（～とかいうそうだ）

※人から聞いた噂などの場合

（例）　また聞けば、侍従の大納言の御娘なくなり給ひぬ**なり**。

②　**推定**（～ようだ）

※「音」に関わる言葉がある場合

（例）　松虫の声す**なり**。

問一　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

①　今年蔵司の小使にてまかり渡り候ひつるなり。

②　舟の内なる者ども、これが仕業を見るに、…

③　人々あまた声して来なり。

④　親の為思はぬなり。

問二　「仙人などもかくこそすなれ。」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞「なり」の連体形
イ　伝聞の助動詞「なり」の連用形
ウ　断定の助動詞「なり」の連用形
エ　伝聞の助動詞「なり」の已然形
オ　断定の助動詞「なり」の已然形

問三　「中ならん物はさながら取れ」の「なら」と同じ意味で用いられているものとして、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。（『竹取物語』）
イ　この西なる家はなに人の住むぞ、問ひ聞きたりや。（『源氏物語』）
ウ　三条の宮に、親族（しぞく）なる人の衛門の命婦とてさぶらひけるたづねて文やりたれば、（『更級日記』）
エ　都へと思ふをものの悲しきは帰らぬ人のあればなりけり（『土佐日記』）
オ　物思へば雲居に見ゆる雁（かりがね）の耳に近くも聞こゆなるかな（『和泉式部集』）

第16講　PART1　確認問題

①「若君、姫君とぞ聞こゆなる。」の傍線部の助動詞の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　現在推量　イ　過去推量　ウ　適当　エ　断定　オ　伝聞推定

②「しかしか、いと興ある事なり。」の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　完了　イ　推定　ウ　断定　エ　伝聞　オ　尊敬

③「京には見えぬ鳥なれば、…」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　伝聞の助動詞「なり」の未然形
イ　断定の助動詞「なり」の未然形
ウ　伝聞の助動詞「なり」の連用形
エ　断定の助動詞「なり」の已然形
オ　伝聞の助動詞「なり」の已然形

④　「裏見の滝と申し伝へはべるなり。」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞「なり」の連用形
イ　伝聞の助動詞「なり」の連用形
ウ　断定の助動詞「なり」の終止形
エ　伝聞の助動詞「なり」の已然形
オ　断定の助動詞「なり」の已然形

⑤　「近く寄れば、消え失せぬなり。」の傍線部の助動詞と同じ意味で用いられているものとして、最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　それは、侍りし時のなり。
イ　遠うては見ゆなり。
ウ　行きかふ年もまた旅人なり。
エ　後（うしろ）かげの見ゆるまではと見送るなるべし。

PART2　ラ変型／四段動詞につく「なり」

★ラ変型につく「なり」

（例）　ある**なり**

〔例題〕　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

「最期に口惜しと思ひし一念によりて、かくまうで来たるなり。」と言ひける。

★ラ変型「撥音便」につく「なり」

（例）あ［なり］↓［　　　］

（　　）［なり］↓「　　　」

（例）

物語といふもののあん**なる**を、…

「今は。」とて見えざ**なる**を、…

罪重か**なり**。

問四　傍線部の助動詞「なり」のうち、一つだけ他と意味の異なるものを次の中から選べ。

ア　祈るなり　　イ　所なり　　ウ　あなれ　　エ　来たるなり　　オ　親なり

★四段動詞につく「なり」

（例）しるしを示す**なり**けり。

***音声**動詞＋**なり**→［　　　　］

*言ふ
泣く
鳴く
打つ
叩く
…　など

問五　次の傍線部の文法的意味を答えよ。

夕されば野辺の秋風身にしみてうづら鳴く<u>なり</u>深草の里

問六　傍線部の助動詞の意味を、次の中からそれぞれ選べ。

①　冬の夜ならぬ真木の戸を…

②　まもらるるなりけり、と思ふにも…

③　くらげのななり。

④　道も恐ろしかんなるを…

⑤　袖湿(ひ)ぢてしぼるばかりなり。

⑥　寺に尊きわざすなる、見せたてまつらむ。

⑦　あひ思さぬなり。

⑧ 言ひ使ふ者にもあらざなり。

⑨ 端の方（かた）なりし畳〔＝敷き物〕をさし出でしものは、…

⑩ かひありとこそ鹿も鳴くなれ。

⑪ 人の程に合はねば、とがむるなり。

⑫ （簾の）内なる人、一人柱に少しゐ隠れて、…

ア　断定
イ　存在
ウ　伝聞推定

第16講 PART2 確認問題

① 傍線部の助動詞の意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

「この皮は、唐土（もろこし）にもなかりけるを、からうじて求め尋ねえたるなり。」

ア 存在　イ 伝聞　ウ 推定　エ 断定

② 傍線部について、文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

「物語に書きてあるところあんなりと聞くに、…」

ア 四段活用動詞・連体形＋断定の助動詞　イ ラ行変格活用動詞・連体形＋伝聞の助動詞
ウ 四段活用動詞・終止形＋伝聞の助動詞　エ ラ行変格活用動詞・終止形＋断定の助動詞

③ 「いづこなる者のかかることは言ふならん。」の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア 「言ふ」の終止形＋断定の助動詞「なり」の未然形　イ 「言ふ」の連体形＋断定の助動詞「なり」の未然形
ウ 「言ふ」の終止形＋伝聞の助動詞「なり」の未然形　エ 「言ふ」の連体形＋伝聞の助動詞「なり」の未然形

④　次の傍線部の助動詞「なり」のうち、意味が他とは異なるものを一つ選べ。

ア　するなり
イ　あなり
ウ　したなり
エ　限りなんなり

⑤　傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

「衣着せつる人は、心異になるなりといふ。」

ア　心を通わせられないということなのですか
イ　心は変わらないのだと言っているのです
ウ　心変わりをしないでほしいのです
エ　心が違ってしまうということです

第17講　なりの識別／めり・らし／推量・推定の助動詞まとめ

PART1　なりの識別

「なり」の識別

【識別対象】

1「　　　」・**存在の助動詞**「なり」

2「　　　・　　　」**の助動詞**「なり」

3「　　　」の「なる」

4「　　　」ナリ活用の活用語尾

★〈見分け方〉＝「　　　」

1「　　　」か「　　形」＋なり＝**断定・存在の助動詞**「なり」

（例）

今宵は十五夜**なり**けり。

成就する**なり**。

西のそこそこ**なる**家に…

2

「　　形」（ラ変型＝「　　形」）＋なり＝**伝聞・推定の助動詞**「なり」

（例）　もの思ひにあくがる**なる**魂は、…

※撥音便に付く「なり」

（　　）**なり**＝**伝聞・推定**

（例）　いとよきことにこそあ**なれ**。

絶えざ**なれ**ば…

※四段活用音声動詞に付く「なり」

（例）　世をうぢ山と人はいふ**なり**。

３

「　　」と訳せる＝ラ行四段活用**動詞**「なる」

「　　」「　　」「　　」「　　」「　　」に付くことが多い。

〜

なり＝動詞「なる」

（例）

九月（ながつき）ばかりに**なり**て、…

河内へも行かず**なり**にけり。

うとましう**なり**ぬ。

4　「　　・　　」＋なり＝**形容動詞**ナリ活用の活用語尾
「　」「　」「　」に付くことが多い。

「　　」＝
～　　なり
＝形容動詞

あはれなり
貴(あて)なり
優(いう)なり
つれづれなり

様子
※～か**なり**→**伝聞・推定**
(例)　読むべか**なり**

（例）

みやびやか**なる**を、あはれと思ひたまふ。

御心のうち、苦しげ**なり**。

この児のかたち、けうら**なる**こと世になく、…

定めたまふまじか**なる**を…

問一　傍線「なり」を文法的に分類した組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選べ。

はかなく①なりし人の領ずる所にて、…

ある聖の物に②なりてと聞きしを、…

さまざま思ひ出づることなど、言ふもなかなか③なり。

露消えし跡は野原と④なりはててありしにも似ず荒れはてにけり

ア　①と②③④　　イ　①②と③④

ウ　①②③と④　　エ　①②④と③

オ　①③④と②

問二　傍線部の中から品詞の異なるものを次の中から選べ。

ア　孝養の心なき者なり。

イ　その人の心になりて思へば、…

ウ　世をば行なはまほしきなり。

エ　不便のわざなり。

問三　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

須磨に[a]なりぬ。家どもの、物はかなげ[b]なるに、柴垣うちしつつ、…慌しく急ぎ過ぐる[c]なるべし。

ア　ラ行四段動詞

イ　形容動詞語尾

ウ　断定の助動詞

エ　伝聞の助動詞

a＝　　　b＝　　　c＝

問四　傍線部の文法的な説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

「事悪しく[a]なりなんかし」と思ふに、…
命も延びぬべき様し給へる人[b]なり。
聞き入れさせ給はざん[c]なりと承るを、…

ア　ラ行四段動詞　　イ　形容動詞語尾
ウ　断定の助動詞　　エ　伝聞の助動詞

a＝　　b＝　　c＝

問五　傍線部の文法的な説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

髪長くをかしげ[a]なれば、…
蔵人（くらうど）の少将の御方[b]なる小帯刀（こたちはき）とて、いとされたる者…
*わかうどほり腹[c]なりかし。

＊わかうどほり腹…皇族の女性から生まれてきたことをいう。

ア　動詞「成る」　　イ　形容動詞の活用語尾
ウ　断定の助動詞「なり」　　エ　伝聞推定の助動詞「なり」

a＝　　b＝　　c＝

〈Memo〉

第17講 PART1 確認問題

①「女もしてみむとてするなり」の「なり」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ラ行四段動詞　　イ　形容動詞語尾

ウ　断定の助動詞　　エ　伝聞の助動詞

②傍線部「なり」のうち、他と品詞が異なるものを次の中から選べ。

ア　めづらかなり

イ　そぞろなり

ウ　御前なり

エ　恥づかしげなり

③「かつみ刈るころもやや近うなれば、…」の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　形容動詞の活用語尾

イ　動詞「なる」の已然形

ウ　断定の助動詞「なり」の已然形

エ　伝聞の助動詞「なり」の已然形

④ 傍線部と文法的意味が同じ「なり」を用いているものを、次の中から選べ。

「翁にいはく、『いと心苦しく物思ふなるはまことか』と仰せ給ふ。」

ア 「ものしたまふなりといふことだに、…」

イ 「兵部卿の御妹の君の御腹なりけり。」

ウ 「三月（みつき）ばかりになる程に、…」

エ 「小さき子どものいとほしげなるを、…」

⑤ 傍線部のうち、他と文法的意味が異なるものを次の中から選べ。

「これ庄司（しやうじ）が旧館 ア なり。…
中にも、二人の嫁がしるし、先（ま）づあはれ イ なり。
女 ウ なれどもかひがひしき名の世に聞えつるものかなと…
五月朔日（さつきついたち）の事 エ なり。」

PART2　なりの識別補足事項

★補足事項

～ あ か ざ た な（ん）なり

～ざんなり

～ななり

※「ななり」「なめり」＝「　　」
（訳）「　　　　　　　　　　」

問六　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

「仏、あはれとおぼしめしたりける なめり(a)」とぞ人言ふ なる(b)。

ア　当然　イ　伝聞　ウ　完了　エ　回想
オ　詠嘆　カ　断定　キ　婉曲　ク　反実仮想

a＝　　b＝

問七　傍線部a・bと文法的に最も近いものを、次の中からそれぞれ選べ。

この里にすみふりし飛騨人（びと）〔＝大工〕 なり(a)。やや寒う なり(b)はべるには、…

ア　かたはらいたければ書かぬなり。
イ　「静まりぬなり。入りて、さらば、たばかれ」とのたまふ。
ウ　長押（なげし）の下（しも）に人々臥して答（いら）へすなり。
エ　「出でずなりぬ」と聞こえたまへば、慰みて起きたまへり。
オ　をかしき節もなくのみぞあなりし。

a＝　　b＝

問八 「みな人は花の衣になりぬなり。」の傍線部「なり」の文法的説明をそれぞれせよ。
(傍線部 a＝なり〔なりぬ〕、b＝なり〔なり。〕)

a＝

b＝

問九 「かしこにはしはべるなるに、…」の傍線部と文法的に同じ意味の「なる」「なり」を含む和歌を、次の中から一つ選べ。

ア　厚氷くだきし跡の見ゆるなり山下清水くむ人やたれ
イ　世の中のあはれなるには大空の雲も涙を惜しまざりけり
ウ　嘆けとて月やはものを思はするかこち顔なる我が涙かな
エ　世にふれば又もこえけり鈴鹿山昔の今になるにやあるらん
オ　あしびきの片山きぎすうちはぶき妻ごひすなり春のあけぼの

問十　傍線「なり」と文法的意味・用法が同じものを、次の中から一つ選べ。

船人の見るに、海のなかに浮きて漂ふ者あり。これを引き上げて見れば、縛られたる僧なり。船人、大きにあやしみて、「何人ぞ、かくは縛られたるは」と問へば、「われはしかじかの者なり。盗人にあひて縛られて落とし入れられたるなり」と答ふ。

（一部省略）

ア　太政大臣になりたまふ
イ　容体ほそやかにあてなりければ
ウ　おのづから宿世宿世に人となりたちぬれば
エ　侍従の大納言の御女、なくなりたまひぬなり
オ　またなくあはれなるものは、かかる所の秋なりけり

第17講 PART2 確認問題

① 「人の心ざし等しかん**なり**。」の傍線部「なり」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 断定　イ 詠嘆　ウ 完了　エ 伝聞推定

② 傍線部のうち、文法的意味が他と異なるものを次の中から選べ。

ア 「いかにぞとだに問ひ触れざ**なり**。」
イ 「いと悪しきわざ**なり**。」
ウ 「まだ渡らざ**なり**。」
エ 「寝こそ寝られざ**なれ**。」

③ 「いとよきこと**なり**となむ、おのれは思ふ。」の傍線部と、文法的意味が同じものを、次の中から選べ。

「『ありしところに女子生みた（ア）**なり**。さぞとなむ言ふ（イ）**なる**。さもあらむ。ここに取りてやはおきたらぬ』などのたまひし、それ（ウ）**な**（エ）**なり**。」

④「子となり給ふべき人なめり。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞
イ　伝聞推定の助動詞
ウ　動詞「なる」
エ　形容動詞の活用語尾

⑤「程なく罷（まか）りぬべきなめりと思ふが、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　行かなくてはならない
イ　行ってしまうのはいやだ
ウ　行かなくてはならないのであるようだ
エ　行ってしまうことになるそうだ

PART3　めり・らし／推量・推定の助動詞まとめ

めり・らし

接続	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の型
	めり	○					○	型
	らし	○	○				○	型

【「めり」の意味】

① （「　　」判断による）**推定**（**～ようだ**）

※語源＝「　　」＋あり

（例）人待つな**めり**と見るに、…

② **婉曲**（**～ような**）

（例）人ごとに言ふ**めれ**ど、…

【「らし」の意味】

① 推定（〜らしい）

（例）深山（みやま）には霰（あられ）降る**らし**外山（とやま）なるまさきのかづら色づきにけり

問十一　「言ふ<u>めれ</u>ば、…」の傍線部の文法的意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　完了　　イ　推定　　ウ　断定　　エ　伝聞　　オ　尊敬

問十二　「さなめり」を現代語訳せよ。

問十三　「あやしきさまにぞ言ふべか［X］。」の空欄Xに入る語として、最適なものを次の中から選べ。

ア　り　　イ　れ　　ウ　めり　　エ　める

★〈推量・推定の助動詞のまとめ〉

（　　）けむ

←（　　）らむ

←（　　）む（むず）　　じ

べし　　まじ

推定
- なり（　　）
- めり（　　）
- らし（和歌中）

〈Memo〉

第17講　PART3　確認問題

①「中将などはすきぬべかるめり。」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　適当　イ　伝聞　ウ　完了　エ　反実仮想　オ　推定　カ　打消

②「うるはしき皮なめり。」の傍線部の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　断定の助動詞「なり」の連体形＋推定の助動詞「めり」の終止形
イ　断定の助動詞「なり」の終止形＋推定の助動詞「めり」の連用形
ウ　伝聞推定の助動詞「なり」の連体形＋推定の助動詞「めり」の連用形
エ　伝聞推定の助動詞「なり」の終止形＋推定の助動詞「めり」の終止形

③　傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「泣くめれど、涙落つとも見えず。」

ア　泣くようだが　イ　泣くふりをしているが
ウ　泣いているのだが　エ　泣こうとしているが

④　傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「この川にもみぢ葉流る奥山の雪消の水ぞいままさるらし」

ア　増えたということだ
イ　増えるはずがない
ウ　増えるとよいのに
エ　増えているにちがいない

⑤　傍線部のうち、文法的意味が他とは異なるものを次の中から選べ。

ア　春過ぎて　夏来るらし　白たへの　衣干したり　天の香具山
イ　深う思ひよらぬなめりなど、ちぐさに思ひみだる。
ウ　たまさかに京なるほども、四五条のほど…
エ　いかなるにかあらむと思ふほどに、…

第18講　係助詞・間投助詞

PART1　係り結びの法則

係助詞（ぞ・なむ・や・か・こそ・は・も）

★係り結びの法則

●ぞ・なむ・や・か→「　　　　」形

●こそ→「　　　」形

※「結びの語」＝形を変える部分＝文末

⇩

係助詞の上を確認→「　　　　　　」又は「　　　　　　」の部分

その部分が複数の単語で構成されている場合は、

品詞分解をして活用する「　　　　　」の**一単語**のみ。

（例）

夜半（よは）にや君がひとり越ゆらむ

男はこの女をこそ得めと思ふ。

問一　傍線部の係助詞に対応する結びの語を抜き出し、その終止形を書け。

① さることやありし。

② ことば多からぬこそ、飽かず向かはまほしけれ。

③ 心なむまさりたりける。

④ 花こそ咲けれ。

問二　「かひ屋が下も蛙（かはづ）鳴くなり」の「『も』の字」とは何助詞か。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　格助詞
イ　間投助詞
ウ　係助詞
エ　接続助詞
オ　副助詞

問三　空欄ａ・ｂ・ｃには係助詞が入る。ａ・ｂ・ｃをうめる組合せとして最も適当なものを、次の中から選べ。

起きておさへたる［ａ］、少しやすまる心地する。
「今宵ばかりにて［ｂ］あれ。」
さもあることと［ｃ］思ひけむ。

ア　ａ　こそ　ｂ　や　ｃ　か
イ　ａ　こそ　ｂ　ぞ　ｃ　や
ウ　ａ　や　ｂ　ぞ　ｃ　こそ
エ　ａ　なむ　ｂ　こそ　ｃ　や
オ　ａ　なむ　ｂ　や　ｃ　か

問四　空欄［A］・［B］に入る語の組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選べ。

にほひ［A］少なかりし。

「ここにと［B］は書きたまはめ」

ア　A　ぞ　　B　や
イ　A　ぞ　　B　こそ
ウ　A　こそ　B　こそ
エ　A　こそ　B　や

問五　「これや夢ときの女のもと［A］。」の空欄Aに入る語として適当なものを、次の中から選べ。

ア　なら　イ　なり　ウ　に　エ　なる　オ　なれ

問六　「隆家こそいみじき骨を得て［A］。」の空欄Aに入る最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　はべら　イ　はべり　ウ　はべれ　エ　はべる　オ　はべろ

問七　「学文して花実ならび進まんこそよかる［A］」の空欄Aにふさわしいように、助動詞「べし」を正しい活用形にして記せ。

問八　次の空欄Aには「あり」、空欄Bには「む」を活用させた語が入る。それぞれ適切に活用させて、記せ。

清水に二千度参りたることのみなむ［A］。

「書きて渡さばこそ、受け取ら［B］」と…

A＝　　　　B＝

〈Memo〉

第18講　PART1　確認問題

①「あまたの年をへぬるになんあり［　　］」の空欄に入る語として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　けら　　イ　けり　　ウ　ける　　エ　けれ

②「徳大寺（とくだいじ）にもいかなるゆゑかはべりけん。」の傍線部の活用形として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

③ 傍線部の係助詞に対応する結びの語として、最も適当なものを次の中から選べ。

今はとて天（あま）の羽衣着るをりぞ君をあはれと思ひ出でける

ア　着る　　イ　あはれ　　ウ　思ひ出で　　エ　ける

④「唐土（もろこし）にも、かかることの起こりに［　　］、世も乱れあしかりけれ。」の空欄に入る係助詞として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ぞ　　イ　なむ　　ウ　や　　エ　か　　オ　こそ

⑤ 空欄A・B・Cに入る係助詞の組み合わせとして、最も適当なものを後の中から選べ。

家居（いへゐ）に［A］、ことざまは推しはからるれ。
いづれの山［B］天に近き。
白き花［C］咲きたる。

ア　A　か　　B　や　　C　こそ
イ　A　か　　B　こそ　C　や
ウ　A　こそ　B　か　　C　や
エ　A　こそ　B　こそ　C　や
オ　A　や　　B　や　　C　こそ

PART2　係助詞の意味

★「意味」

●ぞ・なむ・こそ→「　　　　」
※訳出不要

（例）鳥こそ鳴け。
〈訳〉「鳥　　　　」

●や・か→「　　　（＝～か）」もしくは、「　　　（＝～か、いや、～ない）」
※「疑問」か「反語」のどちらかは、**文脈判断**が必要。

（目安として、
後ろに答えが**有**＝「　　　」
後ろに答えが**無**＝「　　　」）

（例）（羽根という場所に来たときに、幼い子供が）「羽根といふ所は、鳥の羽のやうにやある。」と言ふ。
まだをさなき童の言なれば、人々笑ふ…

※「　・　」＝**反語**が多い。

（例）（かぐや姫が月に帰り、会えなくなってしまった帝が詠んだ和歌の下の句）
死なぬ薬も何にかはせむ

※「　語」＋「や・か」＝**反語**が多い。

（例）憂き世に何か久しかるべき。

※「～　」・「～　」＝**反語**。（**和歌**で多用）

（例）わが恋を人知るらめや。

問九　「春来てぞ人も訪ひける」の傍線部は助詞だが、その文法的意味として正しいものを次の中から選べ。

ア　断定　　イ　強意　　ウ　禁止　　エ　疑問　　オ　反語

問十　「いづこの御いらへかはあらむ」の現代語訳として正しいものを、次の中から選べ。

ア　どのように御返事申し上げようか
イ　どなたに御返事したらよいか
ウ　もちろん御返事などあるわけがない
エ　どうしてこんな御返事をなさるのだろう

問十一　「落とさせたまはんやは」とは、どのような意味か。最適なものを次の中から選べ。

ア　お落としになりそうだった
イ　お落としになるはずがあろうか
ウ　お落としにならないのであろうか
エ　お落としになるのはよくないことだ
オ　お落としになってもよかったのではないか

〈Memo〉

第18講　PART2　確認問題

① 係助詞のうち、文法的意味が他と異なるものとして最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ぞ　　イ　なむ　　ウ　や　　エ　こそ

② 「『こはいかに、かかるやうやはある。』とばかり言ひて、…」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　当然　　イ　強意　　ウ　疑問　　エ　反語

③ 「かへすがへす本意(ほい)なくこそおぼえはべれ。」の傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　疑問・反語の係助詞＋ヤ行下二段活用動詞の連用形＋ラ行変格活用動詞の命令形
イ　疑問・反語の係助詞＋ヤ行下二段活用動詞の連用形＋ラ行変格活用動詞の已然形
ウ　強意の係助詞＋ヤ行下二段活用動詞の連用形＋ラ行変格活用動詞の命令形
エ　強意の係助詞＋ヤ行下二段活用動詞の連用形＋ラ行変格活用動詞の已然形

④　「翁の申さん事は聞き給ひてむや」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　翁の申し上げる事をお聞きになって下さるでしょうか
イ　翁の申し上げる事をお聞きになって下さい
ウ　翁が申し上げる事をお聞きになってはいけません
エ　翁が申し上げる事をお聞き下さらないのですね

⑤　和歌の傍線部の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

雪間なき吉野（よしの）の山をたづねても<u>心のかよふ跡絶えめやは</u>

ア　私の心があなたへと通ってゆく跡は絶えてしまうのかもしれません
イ　私の心があなたへと通ってゆく跡は絶えるに違いないと思っているのですね
ウ　私の心があなたへと通ってゆく跡は絶えるでしょうか、いや、絶えません
エ　私の心があなたへと通ってゆく跡は絶えないでしょうか、いや、絶えてしまいます

PART3　結びの省略・結びの流れ・現代語訳に気をつける係助詞・間投助詞

★**「結びの省略」**→係助詞の「　　」の**一文字**確認

●**に**＋{ぞ／なむ}、。→「　　」を補う

●**に**＋{や／か}、。→「　　」を補う

●**に**＋こそ、。→「　　・　　」を補う

●**と**＋係助詞、。→「（　　）・（　　）」を補う

問十二　「参ればにや」の後に補う語句として最適なものを、次の中から選べ。

ア　あらむ　イ　あらめ　ウ　ありけり　エ　ありけれ

問十三　「いづくにか」の後に省略されているものを、次の中から選べ。

ア　来める　イ　あらん　ウ　参らばや　エ　あらじ　オ　多かりし

問十四　「昔の契りも深くこそ。」の後に語を補う場合、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あり　イ　ある　ウ　あらむ　エ　あらめ　オ　ありけり

★「結びの流れ（消失・消滅）」

本来結びとなる語に、接続助詞などが付いて、結びがなくなり先へ続いていくこと。

（例）たとひ耳鼻**こそ**切れ失すとも、命ばかりはなどて生きざらむ。

問十五　各傍線部「こそ」の説明として、最も適当と思われるものを、次の中からそれぞれ選べ。

「よろづのこと、さまに従ひて[1]こそめやすけれ。〈中略〉御声[2]こそ惜しみ給ふとも、少しけ近くだに[3]こそ」などいさめ聞こえ給へど…

ア　係りに対して正しく結ばれ、強調文として終止する。
イ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として逆接的に下に続く。
ウ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として反語の表現となる。
エ　係りに対して結びが流れ、強調文として終止する。
オ　係りに対して結びが流れ、強調文として逆接的に下に続く。
カ　係りに対して結びが流れ、強調文として反語の表現となる。
キ　係りだけで、その部分を強調提示する。
ク　係りだけで、言外に逆接的な意味を暗示する。

1＝

2＝

3＝

問十六　A～Dの傍線部「こそ」の結びの説明として、最も適当と思われるものを、次の中からそれぞれ選べ。同じ記号を複数回使ってもよい。

さしむかひたる歌ども取るこそ(A)、かへすがへすさまあしく候へ。
（当世の歌を〈まねて言葉を〉取るのは、本当にみっともないことです。）

ことばをやさしくとりなしてよめとこそ(B)候ひしを、口にまかせて、人まねうちして、…
（言葉を優美に取り扱って詠めとございましたのに、口にまかせて、人真似などをして、…）

歌のすがたもみな変り候ふにこそ(C)。
（歌の姿もみな変わっていくのです。）

やさしき心ことばをこそ(D)、今の世にも上手とおぼゆる人々は、このみよみあはれ候ふめれば、むかし今、かはるべきにもあらず。
（優雅な心や言葉を、現代でも歌の名人と思われる人々は、好んで詠みあっていらっしゃるようですので、昔も今も、変わるはずのものではない。）

ア　活用する語の終止形で終止している。
イ　活用する語の連体形で終止している。
ウ　活用する語の已然形で終止している。
エ　結びの語、あるいはそれを含む文節全体が、文中にあらわれていない（結びの省略）
オ　結びの語で文が終わらず、接続助詞を伴って続いているため、係り結びが成立していない（結びの流れ）

A＝　　B＝　　C＝　　D＝

★「逆接強調法」

「**文中**」の「こそ…已然形、〜」→ 訳出の時に「…　　　、〜」などの「　　　　」を補う。

（例）中垣**こそ**あれ、一つ家のやうなれば、…
（仕切りの垣根はある　　　　、一つの家のようであるので、…）

★「危惧の用法」

●もぞ
●もこそ
＝「〜したら　　　・　　　」と訳す

（例）雨も**ぞ**降る。
（　　　　　　　　　　　　）

問十七　「顕証にて出でひろめかばこそはあらめ、さるべきかくれ…」の傍線部の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

ア　人目に付くほど出歩いたりすることもあるだろうし
イ　人目に付くほど出歩いたりすれば差し障りがあろうが
ウ　人目に付くほど出歩いたりすれば困ったことになるので
エ　人目に付くほど出歩いたりすることはないだろうから

問十八　「人もこそ聞け」の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　人に聞かれたら困ったことだ
イ　人に聞かれてしまうかもしれない
ウ　人に聞かれることはあるまい
エ　人に聞かれてもかまうことはない
オ　人に聞かれるとどうしようもない

問十九　「けしからぬ者などはのぞきもぞする。」の傍線部の現代語訳として最もふさわしいものを、次の中から選べ。

ア　排除しかねます
イ　のぞくこともあります
ウ　排除などできるでしょうか
エ　のぞき見したら困る
オ　排除するでしょうか、いやしません

間投助詞（や・よ・を・**こそ**）

★「こそ」の意味

①　呼びかけ（〜さん）

「人物**こそ**。」

（例）「右近の君**こそ**、まづ物見給へ。」

★「や」・「よ」・「を」の意味

①　詠嘆（〜なあ）

②　強調（訳出不要）

③　呼びかけ（〜よ）

〈Memo〉

第18講　PART3　確認問題

①「袖をひろぐるわざをし侍るにこそとうち思ひて…」の傍線の係助詞「こそ」は結びが省略されている。補うべき語句として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あらめ　イ　あはれめ　ウ　つつめ　エ　ながめ

②「飼ひける犬の暗けれど主を知りて、飛びつきたりけるとぞ。」の傍線の係助詞「ぞ」は結びが省略されている。補うべき語句として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ある　イ　なる　ウ　いふ　エ　す

③「白き花咲きたるさまぞ、いとをかしけれど、…」の傍線の係助詞「ぞ」の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　係りに対して正しく結ばれ、強調文として終止する。
イ　係りに対して正しく結ばれ、強調文として下に続く。
ウ　係りに対して結びが流れ、強調文として下に続く。
エ　係りに対して結びが流れ、強調文として反語の表現となる。

④「烏（からす）などもこそ見つくれ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　烏などが見つけたら大変だ。
イ　烏などこそ見つけるだろう。
ウ　烏などが見つける事はあるまい。
エ　烏などにこそ見つけて貰いたい。

⑤「はじめこそ心にくくもつくりけれ、今はうちとけて、…」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　初めの頃に奥ゆかしく取り繕っていたとしたら
イ　初めの頃は奥ゆかしく取り繕っていたけれども
ウ　初めの頃に奥ゆかしく取り繕うことがなかったので
エ　初めの頃に奥ゆかしく取り繕おうとしていたため

第19講　接続助詞・「て」の識別

PART1　接続助詞の働き・ば

接続助詞（ば・とも・ど・ども・て・で・つつ・に・を・ながら・ものの・ものから・ものゆゑ・ものを・が・して）

★順接＝前に述べたことが、予想通りに後ろの内容に続いていく表現形式。

（例）熱がある**ので**、学校を休んだ。

★逆接＝前に述べたことに対して、予想外の結果がくる表現形式。

（例）熱がある**けれど**、学校に行く。

★確定条件＝既に成立していること。

「順接」＝～ので・～ところ・～といつも

「逆接」＝～けれど

★仮定条件＝「仮に成立したら」と決めて、後ろに続ける。

「順接」＝もし～ならば

「逆接」＝たとえ～としても

★「ば」の用法＝「　　接」

●「　　形」＋ば＝　　条件（　　～　　）

（例）出でていな**ば**誰(たれ)か別れの難(かた)からむ

●「　　形」＋ば＝　　条件
- 原因・理由＝（　　・　　）
- 偶然＝（　　・　　）
- 恒常＝（　　）

（例）時世(ときよ)経て久しくなりにけれ**ば**、その人の名忘れにけり。

天の原ふりさけ見れ**ば**春日なる三笠の山に出でし月かも

翁、心地あしく苦しき時も、この子を見れ**ば**苦しきこともやみぬ。

問一　「あればこそ」の文法的説明として適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞「あり」の未然形＋逆接確定を表す接続助詞「ば」＋詠嘆の間投助詞「こそ」

イ　動詞「あり」の未然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」

ウ　動詞「あり」の已然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」

エ　動詞「あり」の已然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」

オ　動詞「あり」の未然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の副助詞「こそ」

問二　「知らぬどちも、心静かに求(と)めゆかば、…」の傍線部の意味として、最適なものを次の中から選べ。

ア　知らない者同士であっても、心静かに互いを理解したので

イ　教養がない人たちでも、落ち着いて物事を考えたので

ウ　無知な人たちでも、もし冷静に道を求めてゆくならば

問三　「人げなくおぼえなどせしかば、いかにせましと思ふ折々もあれど」の解釈として、最適なものを次の中から選べ。

ア　もし自分が相手にされていなかったら、どうしようかと考えたことも時々ありましたが

イ　もし自分が相手にされていなかったとしても、何とかしたいと考えたことが時々ありましたが

ウ　自分が相手にされていないように思われたりしたので、どうしようかと考えたことも時々ありましたが

エ　自分が相手にされていないように思われたりして、何とかしなければと考えたことも時々ありましたが

問四　傍線部「ば」の文法的説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

「いづらやいづら」とてはしり出でて見給へば、藍摺（あゐずり）の直垂（ひたたれ）に折烏帽子（えぼし）着たる男、縁（えん）に寄りゐたる…

ア　確定条件で、「ば」の前後の事態が偶然の関係で結ばれている。
イ　仮定条件で、「ば」の前後の事態が偶然の関係で結ばれている。
ウ　確定条件で、「ば」の前後の事態が原因・理由と結果の関係で結ばれている。
エ　仮定条件で、「ば」の前後の事態が原因・理由と結果の関係で結ばれている。
オ　仮定条件で、「ば」の前後の事態が常にそうなる関係で結ばれている。

問五　傍線部「ば」と意味用法が同じものを、次の中から選べ。

大江山いくのの道の遠ければまだふみも見ず天の橋立

ア　柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺
イ　いと幼ければ籠に入れて養ふ
ウ　そのこと果てなばとく帰るべし
エ　名をばさぬきのみやつことなむ言ひける
オ　花咲かばうれしからまし

第19講　PART1　確認問題

① 接続助詞を次の中から一つ選べ。

ア　し　　イ　て　　ウ　の　　エ　や

② ア～オに含まれる「ば」の中で、他と異なる用法のものを次の中から選べ。

ア　のたまはすれば　　イ　明けぬれば　　ウ　近ければ　　エ　あらば　　オ　聞こゆれば

③ 「夜ごとに人をすゑてまもらせければ、いけどもえ逢はで帰りけり。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ので　　イ　としても　　ウ　ならば　　エ　けれども

④「まして龍を捕らへたらましかば、又ことなく、我は害せられなまし。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ハ行下二段活用動詞「捕らふ」の未然形＋完了の助動詞「たり」の未然形＋反実仮想の助動詞「まし」の已然形＋順接の仮定条件を表す接続助詞「ば」
イ　ハ行下二段活用動詞「捕らふ」の連用形＋完了の助動詞「たり」の未然形＋反実仮想の助動詞「まし」の未然形＋順接の確定条件を表す接続助詞「ば」
ウ　ハ行下二段活用動詞「捕らふ」の未然形＋完了の助動詞「たり」の未然形＋反実仮想の助動詞「まし」の已然形＋順接の確定条件を表す接続助詞「ば」
エ　ハ行下二段活用動詞「捕らふ」の連用形＋完了の助動詞「たり」の未然形＋反実仮想の助動詞「まし」の未然形＋順接の仮定条件を表す接続助詞「ば」

⑤「京には見えぬ鳥なれば、皆人見知らず。」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　都では見られない鳥であったとしても
イ　都では見られない鳥であったならば
ウ　都では見られない鳥であるので
エ　都では見られない鳥であったけれども

PART2　とも・ど・ども

★「とも」の用法＝「　　接」

「　　形」＋とも＝　　条件（　　〜　　）

（例）今は逃ぐ**とも**、よも逃がさじ。

★「ど・ども」の用法＝「　　接」

「　　形」＋ど・ども＝　　条件

（例）（男は、自分の両親が女を追い出すので）血の涙を流せ**ども**、とどむるよしなし。

問六　「尋ぬともあらじ」の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　ナ行下二段活用動詞の終止形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋過去推量の助動詞の終止形
イ　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消意志の助動詞の終止形
ウ　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋打消推量の助動詞の終止形
エ　ナ行下二段活用動詞の連体形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋禁止の助動詞の終止形
オ　ナ行下二段活用動詞の連体形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消当然の助動詞の終止形

問七　空欄A・Bには接続助詞が入る。A・Bをうめる組合せとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「大弐（だいに）の居所ははるかなれ［A］、楼の上の瓦などの、心にもあらず御覧じやられけるに、またいと近く観音寺といふ寺のありけれ［B］、鐘の声を聞こしめして、…」

ア　ども・ば
イ　ば・ども
ウ　ども・とも
エ　ば・とも
オ　とも・ば

第19講　PART2　確認問題

①「いみじきことありとも、かならずさぶらふべきものに、…」の傍線部の活用形として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

②「用ありて行きたりとも、その事はてなば、とく帰るべし。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　たとえ用事があって行ったとしても
イ　用事があって行ったけれども
ウ　もし用事があって行ったとしたら
エ　用事があって行ったので

③「船路（なり）ど*馬のはなむけす。」の（　）内の語を文法的に正しく活用させたものを、次の中から選べ。

注　馬のはなむけ…旅立つ人への贈り物や送別の宴のこと。古代に行われていた、旅に出る人が乗る馬の鼻を、行き先の方に向けて道中の安全を祈る習慣から転じたもの。

ア　なら　　イ　なり　　ウ　なる　　エ　なれ

④「今はと世を離れはべりにし身なれども、今日の御送りに仕うまつらぬこと。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞「なり」の命令形＋逆接の確定条件を表す接続助詞「ども」
イ　断定の助動詞「なり」の命令形＋逆接の仮定条件を表す接続助詞「ども」
ウ　断定の助動詞「なり」の已然形＋逆接の確定条件を表す接続助詞「ども」
エ　断定の助動詞「なり」の已然形＋逆接の仮定条件を表す接続助詞「ども」

⑤「足ずりをして泣けどもかひなし。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　足をばたつかせて泣くけれども
イ　足をばたつかせて泣くとしたら
ウ　足をばたつかせて泣いたので
エ　足をばたつかせて泣かないように

PART3　その他の接続助詞

★「て」の用法＝単純接続

「　　　形」＋て

★「で」の用法＝「　　　　」接続（〜　　　　）

「　　　形」＋で

（例）鬼ある所とも知らで、…

問八　傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

御心にも入らせ給はで、かの女のかたをしきりに御覧ずれば、…

ア　動詞の活用語尾　　イ　打消の助動詞　　ウ　打消の接続助詞

エ　順接の接続助詞　　オ　同格の格助詞

問九　「見せで」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　見せて　　イ　見せられて　　ウ　見えず
エ　見せないで　　オ　見えて

★「つつ」の用法＝①反復（〜ては）　②継続（〜し続けて）

「　　形」＋つつ

（例）女はこの男をと思ひ**つつ**、親のあはすれども、聞かでなむありける。
（親が他の人と結婚させる）

問十　「物入れつ、参らするを」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　何か物を入れては差し上げていますのに
イ　何か物を入れて召し上がっていますのに
ウ　何か物を入れながら参上なさいますのに
エ　何か物をお入れしながら伺わせますのに
オ　何か物をお入れ申し上げなさいますのに

★「に」・「を」の用法＝①**順接**（〜**ので・から**）
②**逆接**（〜**のに・けれど**）
③**単純接続**（〜**ところ・と**）

「　形」＋に・を

（例）
あやしがりて寄りて見る**に**、筒の中光りたり。
このことを嘆く**に**、ひげも白く、腰もかがまり…
人も手を触れぬ**に**、ふと上ざまへ上がりたるも、いみじうをかし。

★「ながら」の用法＝①逆接（〜**のに**）
②同時（〜**ながら**）
③**そのまま**
④**全部、〜中**　※「数量＋**ながら**」の形が多い

問十一　傍線部の訳を、次の中からそれぞれ選べ。

① 身はいやしながら、母なむ宮（＝皇族）なりける。

② すべて折につけつつ一年ながらをかし。

③ 涙にむせびながら申すやう…

④ 「こなたに入り給へ」と、御簾の内ながらのたまふ。

ア　～のに
イ　～ながら
ウ　～のまま
エ　全部、～中

①＝　　②＝　　③＝　　④＝

★［もの］系〈＝ものの・ものから・ものゆゑ・ものを〉＝「　　接」

「　　形」＋［もの］系

＊「ものの」以外は順接の働きもある。

＊「ものを」＝**文末**にあれば、**詠嘆の終助詞**として「**〜のになあ**」と訳す。

（例）

口惜しく心憂き**ものから**、すこしほほ笑まれて…

白玉か何ぞと人の問ひしとき露と答へて消えなまし**ものを**

（「真珠ですか、何ですか」とあの人が尋ねたときに、「露です」と答えて、消えて（＝死んで）しまったならばよかった　　　）

問十二　「木の皮、苔の衣を着て、<u>言ふばかりなきものから</u>、ただの人に見えず。」の傍線部の解釈として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　言葉で説明するまでもない簡素な装いだったので

イ　言葉にできないくらいひどい身なりであったが

ウ　言葉に表せないくらい高貴な雰囲気があったので

〈Memo〉

第19講　PART3　確認問題

①「ものも（言ふ）で帰りぬ。」の（　）内の語を文法的に正しく活用させたものを、次の中から選べ。

ア　言は　　イ　言ひ　　ウ　言ふ　　エ　言へ

②「かくうたふを聞きつつこぎ来る［　　］、…」の空所にあてはまる接続助詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ば　　イ　に　　ウ　と　　エ　で

③「（銀貨を）六つ<u>ながら</u>夫妻に給はりけり。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ずつ　　イ　ならば　　ウ　だとしても　　エ　すべて

④「野山にまじりて竹を取りつつ、よろづの事に使ひけり。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　竹を取っては
イ　竹を取るけれども
ウ　竹を取るならば
エ　竹を取るので

⑤「雀の子を、犬君(いぬき)が逃がしつる。伏籠(ふせご)のうちに籠(こ)めたりつるものを。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　かごの中に入れておいたのになあ
イ　かごの中に入れておこうかしら
ウ　かごの中に入れておかなかったから
エ　かごの中に入れておかなければいけないわ

PART4 「て」の識別

【識別対象】

1 接続助詞「て」
2 完了の助動詞「つ」の「　　形」か「　　形」

★ **〈見分け方〉** ＝「　　」に「　　」が**有る**か**無い**かを確認。
（＊**1**、**2**ともに、上は必ず「　　形」である）

1 「　　」＝接続助詞「て」

（例）置き**て**逃げ**て**来ぬ。

2

「　　」＝完了の助動詞「つ」

※例外　「てば」「てばや」の「て」は「　　　　　　　」

（例）

大井河にながし**て**けり。

信濃なる筑摩（ちぐま）の川の細石（さざれし）も君し踏み**て**ば玉と拾はむ

問十三　「御覧じてけり。」の品詞構成の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞＋助動詞＋助動詞　　イ　動詞＋助動詞＋助詞

ウ　動詞＋助詞＋助動詞　　エ　名詞＋動詞＋助動詞＋助動詞

オ　名詞＋動詞＋助詞＋助動詞　　カ　名詞＋動詞＋助動詞＋助詞

第19講　PART4　確認問題

①「春過ぎて夏きたるらし白たへの衣乾したり天の香具山」の傍線部の活用形として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

②「あるじゆるしてけり。」の傍線部の文法的意味として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　推量　イ　過去　ウ　使役　エ　完了

③「その沢のほとりの木の蔭に下りゐて、乾飯食ひけり。」の傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　下りて座ったまま
イ　下りて座りながら
ウ　下りて座って
エ　下りて座らずに

④「これ隆家が言にしてむ」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞「す」の連用形＋完了の助動詞「つ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形
イ　サ行変格活用動詞「す」の連用形＋単純接続を表す接続助詞「て」＋推量の助動詞「む」の終止形
ウ　過去の助動詞「き」の連体形＋完了の助動詞「つ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形
エ　過去の助動詞「き」の連体形＋単純接続を表す接続助詞「て」＋推量の助動詞「む」の終止形

⑤　傍線部から、他と異なるものを次の中から選べ。

ア　みそかに姉君をかたらひてむと思ひ…
イ　突き殺してば、いかがせまし。
ウ　へそのしもを突きてけり。
エ　うれしき心地して歩むに、…

第20講　の・が（格助詞）

PART1　格助詞とは

格助詞（が・の・を・に・へ・と・より・から・して・にて）

★接続

「　　」もしくは「　　形」に付く

★働き

格助詞が付いている語（上の語）が、他（下）の語とどんな関係になるかを示す。

〈Memo〉

第20講　PART1　確認問題

①　格助詞の働きとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　前の文節と後の文節をつなげるはたらきをもつ。
イ　述語と関係しあっている語に付き、強調や疑問、反語などの意味を示す。
ウ　種々の語に付いて限定や添加などの意味を添え、下の語を修飾したり限定したりする。
エ　文中や文末にあって、語調を整えたり、詠嘆や感動などの意味を添えたりする。
オ　文の終わりにあって、希望や詠嘆、禁止などの意味を添える。
カ　この助詞が付いている語と他の語が、文中でどのような関係であるかを示す。

②　格助詞が入る箇所として最も適当なものを、次の中から選べ。

おもしろく【ア】咲き【イ】たる桜【ウ】長く折りて、大きなる瓶（かめ）にさしたるこそをかしけれ【エ】。

③ 格助詞「に」の直前にある傍線部「たまふ」の活用形として最も適当なものを、次の中から選べ。

大進生昌（だいじんなりまさ）が家に、宮のいでさせたまふに、東（ひむがし）の門は四足（よつあし）になして、…

ア　未然形　　イ　連用形　　ウ　終止形　　エ　連体形　　オ　已然形　　カ　命令形

④ 傍線部の助動詞「らる」を正しく活用させたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

つかうまつるべきよし仰せらるに、…

ア　られ　　イ　らる　　ウ　らるる　　エ　らるれ　　オ　られよ

⑤ 傍線部の助詞のうちから格助詞でないものを、次の中から選べ。

神無月（かみなづき）の（ア）ころ、栗栖野（くるすの）と（イ）言ふ所を（ウ）過ぎて（エ）、…

PART2　の・が

★「の」の用法

① **主格**（＝～　　）

体言の…用言　（例）僧**の**言ふ。

② **連体（修飾）格**（＝～　　）

体言の…体言　（例）月**の**光、風**の**音、…

③ **同格**（＝～　　）

[体言]の……[　　形]～～～。

（例）白き花**の**小さきあり。

いと清げなる僧**の**、黄なる地の袈裟着たるが来て、…

④ **準体格**（＝〜　　　）

（例）四条大納言**の**はめでたく、…

⑤ **連用（修飾）格**（＝〜　　　）

●「　　　」中の「の」で「〜　　　」と訳せる。

（例）山鳥の尾のしだり尾**の**ながながし夜（よ）を…

●「　　　」の「の」　＊ただし、例の体言

（例）例**の**集まりぬ。

＊例の人

★「が」の用法

「の」と同じ。ただし、**「が」には「連用（修飾）格」の用法はない。**

（例）我**が**庵（いほ）は…

いかなれば、四条大納言のはめでたく、兼久**が**は悪かるべきぞ。

※同格の「が」

連体形**が**……連体形〜〜〜。 → 各連体形の下に**同じ体言**が補えて文意が通じる。

（例）いとやむごとなき際にはあらぬ**が**、すぐれて時めき給ふありけり。

〈Memo〉

第20講 PART2 確認問題

①「楝（あふち）の木に、法師の、登りて木のまたについゐて物見るあり。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　法師の登った木の枝にまたがって、見物している者があった。
イ　法師が、登って木の枝にまたがって見物していた。
ウ　法師で、登って木の枝にまたがって見物している者があった。
エ　法師のように登って、木の枝にまたがって見物している者がいた。

②　傍線部のうち、他と意味・用法が異なるものを次の中から選べ。

ア　三尺ばかりなる桜のつぼみ半ばひらけるあり。
イ　今一きは心も浮きたつものは、春のけしきにこそあめれ。
ウ　若葉の梢（こずゑ）涼しげに茂りゆくほどこそ、世のあはれも人の恋しさもまされ…
エ　萩の下葉色づくほど早稲田（わさだ）刈りほすなどとりあつめたる事は秋のみぞ多かる。

③　傍線部のうち、他と意味・用法が異なるものが一つある。その意味・用法を次の中から選べ。

さてはこのうちにこそと、門（かど）をたたけば、侘（わび）しげなる女の出でて、「いづくよりわたり給ふ道心（だうしん）の御坊（ごばう）にや。あるじはこのあたりの何がしといふものの方に行きぬ。もし用あらば尋ね給へ。」といふ。

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

④ 傍線部のうち、連体修飾格の意味で用いられているものの数を次の中から選べ。

・その弟桃翠（たうすゐ）などいふが、朝夕勤めとぶらひ、…
・これ庄司（しやうじ）が旧館なり。
・妙禅寺の死関（しくわん）、法雲法師の石室を見るがごとし。
・「別しては、わが国氏神正八幡」とちかひしも、…
・曾良（そら）がいはく、「この神は木（こ）の花さくや姫の神と申して、…

ア 一　イ 二　ウ 三　エ 四　オ 五

⑤ 傍線部a～cの「の」「が」の意味・用法の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

なりひさこと言ふ物を人の（a）得させたりければ、ある時、木の（b）枝にかけたりけるが（c）、風にふかれて鳴りけるを、かしかましとて捨てつ。

ア a 連用修飾格　b 同格　c 連体修飾格
イ a 連用修飾格　b 連体修飾格　c 連体修飾格
ウ a 主格　b 同格　c 連用修飾格
エ a 主格　b 連体修飾格　c 主格

PART3　練習問題（の・が）

問一　傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

①　草の花はなでしこ。唐（から）のはさらなり、大和のはいとめでたし。

②　いかなる人の御馬ぞ。

③　瀬をはやみ岩にせかるる滝川のわれても末に逢はむとぞ思ふ

④　人の描かする仏もおはしけり。

⑤　中頃、年高き尼の、さすがに人に知られて乞食（こつじき）しありくあり。

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

①＝　　②＝　　③＝　　④＝　　⑤＝

問二　「十六七ばかりなる小童（こわらは）のいとさかしきが侍りけり。」の傍線部と文法的に同じ用法のものを、次の中から選べ。

ア　男の着たりける狩衣（かりぎぬ）の裾（すそ）を切りて、歌を書きてやる。
イ　女の＊え得まじかりけるを、年をへて、夜這（よば）ひわたりける…
ウ　日暮るるほど、例の集まりぬ。
エ　業平の歌は、その心あまりて詞たらず。
オ　万葉集に入らぬ歌、みづからのをも奉らしめ給ひて、

注　え〜まじかり＝〜できない

問三　傍線部A〜Eの「の」の意味・用法として、最も適切なものを次の中から一つ選べ。

官めきたる女房（A）のおとなしきが所作するあり。
よに御輿（みこし）（B）のさま気高くて、宝前へ入らせおはします。
太政入道殿（C）の左衛門督など申ししころ（D）の面影も通ひ給ふ心地して…
「奈良（E）の方よりにてさぶらふ」と申す。

	A	B	C	D	E
ア	同格	連体修飾格	連体修飾格	主格	連体修飾格
イ	同格	連体修飾格	主格	連体修飾格	連体修飾格
ウ	連体修飾格	連体修飾格	主格	同格	主格
エ	同格	連体修飾格	連体修飾格	連体修飾格	主格
オ	連体修飾格	同格	主格	連体修飾格	連体修飾格

問四　傍線部と同じ用法として最も適当なものを、次の中から選べ。

かたくななる人の、その道知らぬは、そぞろに神のごとくに言へども、道知れる人は更に信もおこさず。

ア　おほくの工の心をつくしてみがきたて…
イ　老いたる尼の、行きつれたりけるが、道すがら「くさめくさめ」と言ひもてゆきければ…
ウ　此の国の博士どものかける物も、いにしへのあはれなる事おほかり。
エ　北の方の日ごろはそら知らずして、この夜中ばかり、「〜」とむつかり給ひつれば、…

問五　傍線部a〜cの「の」の用法として最も適当なものを、それぞれ次の中から一つずつ選べ。

こ[a]の歌また、万葉集の第十二巻の歌なり。「をかしくいはむとて、万葉集の歌[b]のさもありぬべきをいはせたるにもやあらむ」と…大納言なりける人[c]の帝に*奉らむとて*かしづきける女を、…

注　奉らむ…ここでは「差し上げよう」の意味。
　　かしづく…大切に育てる。

ア　主格　　イ　連体格　　ウ　同格　　エ　準体格　　オ　連用格

a＝　　b＝　　c＝

問六　傍線部「が」と同じ用法の「が」を含む文を、次の中から選べ。

*僧坊ども多し。かの室（しつ）へ入（い）りて、「ここにて法師が様（やう）見給へ」と云ふ。

注　僧坊…寺院に付属して建てられている、僧侶が住む建物。

ア　親、はらからの中にても、思はるる思はれぬがあるぞいとわびしきや。

イ　この歌はある人のいはく、大友の黒主がなり。

ウ　めでたくは書きて候ふが、難少々候ふ。

エ　わが庵（いほ）は都のたつみしかぞ住む世を宇治山と人はいふなり

オ　いとやむごとなき際（きは）にはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

第20講 PART3 確認問題

① 「よろづの虫の、恐ろしげなるを取り集めて、…」の傍線部の格助詞「の」と同じ用法の「の」を、次の中から選べ。

ア　この姫君ののたまふこと、…
イ　男の童の、ものおぢせず、いふかひなきを召し寄せて、…
ウ　箱の虫どもを取らせ、…
エ　よろづのもとどもをたづねて、…

② 傍線部の「の」の用法として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

a　怪（け）と人の申すことどもの、…
b　前（さき）の一条院の御即位の日、…
c　髪つきたるものの頭（かしら）の、血うちつきたるを見つけたりける、あさましく、…
d　かばかりのことを隠すべきかとて、…

ア　a主格―b連体格―c同格―d連体格
イ　a主格―b連用格―c準体格―d準体格
ウ　a同格―b連体格―c同格―d連体格
エ　a同格―b準体格―c同格―d連体格
オ　a連体格―b連体格―c準体格―d連用格

③　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

世をすてたる人のよろづに*するすみなるが、*ほだし多かる人の望みふかきを見て、むげに*思ひくたすは*ひがことなり。

注　するすみ…無一文の身。
　　ほだし多かる人…ここでは「家族が多い人」の意味。
　　思ひくたす…軽蔑する。
　　ひがこと…間違い。

ア　主格　　イ　同格　　ウ　連体修飾格　　エ　体言の代用

④　傍線部の用法として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

a　青き織物の衣を着て、錦を頭にもかづき、足にもはいたる僧の別当とおぼしきが寄り来て、…
b　女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれども聞かでなむありける。

ア　a主格―b同格　　イ　a主格―b連体修飾格　　ウ　a同格―b主格　　エ　a同格―b準体格

⑤　格助詞「が」について説明した文の空欄ａ・ｂにあてはまるものの組み合わせを、次の中から選べ。

いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

「が」の上にある「あらぬ」と、下にある「たまふ」の直後に同じ［ａ］を補うことができることから、「が」は［ｂ］の用法であると考えられる。

ア　主格―連用修飾格　　イ　主格―同格　　ウ　体言―連体修飾格　　エ　体言―同格

オ　準体格―同格

〈Memo〉

第21講　して・より・にて（格助詞）

PART1　して・より（訳に気をつける格助詞）

★「して」の重要な3つの訳

①　手段（＝〜　　　）

（例）　筆**して**書く。

②　共同（＝〜　　　）

（例）　友とする人、ひとりふたり**して**行きけり。

③　使役の対象（＝〜　　　）

（例）　人**して**、惟光召させて…

問一　傍線部の文法的意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

①　御使ひして申させ給ふ。

②　長き爪して眼をつかみつぶさむ。

③　むつまじき四五人ばかりして、まだ暁におはす。

ア　手段　　イ　共同　　ウ　使役の対象

①＝　　②＝　　③＝

★「より」の重要な3つの訳

①　経由（＝〜　　　）

起点（＝〜から）で訳せた時、注意！

（例）　木の間**より**洩り来る月の影

②　即時（＝〜　　　・〜　　　）

「　　形」＋より→「即時」から考える。

(例)　名を聞く**より**、やがて面影は推しはからるる心地するを…。

③　手段・方法（＝〜　　　）

「　　手段・　　手段」が多い。

※「かちより【　　　より】」（＝徒歩　　　）

(例)　ただ一人、かち**より**、詣でけり。

問二　「『切り殺さるるか』と思ふより、手足もなえてはふはふ逃げて…」の傍線部の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　思い始めると　　イ　思ったとたんに　　ウ　思うどころではなく　　エ　思いに増して

〈Memo〉

第21講　PART1　確認問題

① 「返りごとは、おとなしき人して書かせてあり。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　手段（〜で）
イ　共同（〜と共に）
ウ　使役の対象（〜に命じて）
エ　即時（〜とすぐに）

② 「徒歩（かち）よりまうでけり。」の傍線部と同じ用法のものを、次の中から選べ。

ア　神代より　吉野の宮に　あり通ひ
イ　つぎねふ　山城路を　人夫の　馬より行くに
ウ　我よりも　貧しき人の　父母は　飢ゑ寒ゆらむ
エ　家づとに　貝を拾ふと　沖辺より　寄せ来る波に　衣手ぬれぬ

③ 「西の御方より、内の御障子（みさうじ）ひき開（あ）けて渡りたまふ。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　経由（〜から）
イ　即時（〜とすぐに）
ウ　手段・方法（〜で）
エ　共同（〜と共に）

④ 「およびの血して書きつけける。」の傍線部と同じ用法のものを、次の中から選べ。

ア　おもしろしと見るにたへずして、…
イ　あるがなかに心地悪しみして、…
ウ　蔵人（くらうど）して、削りくづをつがはしてみよ。
エ　長き爪して、眼（まなこ）をつかみ潰（つぶ）さん。

⑤ 「命婦、かしこにまかで着きて、門（かど）ひき入るるより、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　門に引き入れないが
イ　門に引き入れるとすぐに
ウ　門に引き入れて
エ　門に引き入れないと

PART2　にて

★「にて」の用法

① 場所
② 時刻・年齢
③ 手段・方法
④ 原因・理由
⑤ 材料
⑥ **資格・状態（～として・～で）**

(例) ただ人**にて**おほやけの御後ろ見をするなむ、行くさきも頼もしげなること…

★「にて」の識別

「～であって」＝「～で」＋「あって」→断定「なり」(用)＋接続助詞「て」

体言・連体形＋にて＝「~~～であって~~」→格助詞「にて」

〈Memo〉

第21講 PART2 確認問題

① 格助詞「にて」の文法的意味でないものはどれか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　場所　　イ　時刻・年齢　　ウ　手段・方法　　エ　原因・理由
オ　材料　　カ　即時　　キ　資格・状態

② 「(梨の花は) 葉の色よりはじめて、あいなく見ゆるを、唐土(もろこし)には限りなきものにて、文にも作る、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　資格・状態　　イ　原因・理由　　ウ　即時　　エ　使役の対象

③ 「奥なる屋にて酒飲み、物食ひ、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　主格　　イ　同格　　ウ　場所　　エ　材料

④「天の河のほとりに至るを題にて、歌よみて杯はさせ。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　場所　　イ　資格・状態　　ウ　時刻・年齢　　エ　同格

⑤「京にてうまれたりし女児、国にてにはかに失せにしかば、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　京の誕生の女の子が
イ　京に着くや否や誕生した女の子が
ウ　京によって誕生した女の子が
エ　京で誕生した女の子が

PART1　終助詞

終助詞

【　　　】**ばや・てしがな・にしがな**／**なむ**／もが・**もがな**・がな
【　　　】**かし**
【　　　】**そ・な**
【　　　】**かも・かな**・か・も・な・は・**や**

★「願望」

〈　　　願望〉＝～たい

「　　　形」＋**ばや**

（例）ちと承ら**ばや**。

「　　形」＋ **てしがな** / **にしがな**

（例）かぐや姫を得**てしがな**、見**てしがな**。

〈　　願望（＝**あつらえ**）〉＝〜てほしい

「　　形」＋**なむ**

（例）雨も降ら**なむ**。

〈**状態**願望〉＝〜があればなあ・〜がいればなあ・〜であればなあ

種々の語＋ もが / **もがな** / がな

（例）心あらん友**もがな**。

問三　「はぎ取らばや」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　はぎ取ってやろう　　イ　はぎ取りたいものだ
ウ　はぎ取れるだろうか　　エ　はぎ取れるはずがない

問四　傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

すみぞめのくらまの山に入る人はたどるたどるも<u>かへり来ななむ</u>

ア　どうにかして帰ってこられないものでしょうか
イ　帰ってこないのが無性に悲しいのです
ウ　どうして帰ってこないのでしょうか
エ　ぜひ帰ってきてほしいのです
オ　なんとかして帰ってきなさい

問五　傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

「大納言殿に知らせたてまつらばや」と言ひかくれば…

ア　お知らせしたい
イ　お知らせしたら
ウ　知っていただきたい
エ　知らせて差し上げてよ
オ　知らせなさったとしたら

問六　「この人の御ために残しおく魂もがな。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　魂を留め置いてもなあ
イ　魂を留め置けたらなあ
ウ　魂を留め置いてやろうかなあ
エ　魂を留め置けるはずもないよなあ

★**「念押し」**＝「　・　」

※「**ぞかし**」（＝〜だよ・〜だね）の形で多く用いる。

（例）

いま一度起こせ**かし**。

なかりしぞ**かし**。

問七　「別なるぞかし」の傍線部の意味は何ですか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　同意　　イ　疑問　　ウ　念押し　　エ　反語　　オ　伝聞

★**「禁止」**＝〜するな

※「　　」〜**そ**（＝〜してくれるな）

（例）な起こし**そ**。

問八　「もの知らぬこと[x]のたまひ[y]」が禁止を意味するように、[x]と[y]に適切なひらがなを一字ずつ書け。

x＝　　　y＝

第22講 PART1 確認問題

① 傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

「妾（わらは）が兄弟どもを集めて搦（から）めばや。」とぞ申しける。

ア　捕らえたいものです
イ　捕らえられるものではありません
ウ　捕らえられないことがあります
エ　捕らえてほしいものです
オ　捕らえることはできませんか

② 「いつしか梅咲かなむ。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　早く梅の花が咲いてほしい
イ　いつになったら梅の花が咲くのだろうか
ウ　いつかはきっと梅の花が咲くだろう
エ　梅の花は毎年咲くに違いない

③「ひとことな落とし［　］。」の空欄には、禁止の意味を表す終助詞が入る。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ばや　イ　そ　ウ　なむ　エ　かし　オ　ぞ

④傍線部は終助詞である。その意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「あはれに、同じやうなるもののさまかな。」と見はべりしに、…

ア　願望　イ　念押し　ウ　禁止　エ　詠嘆

⑤「詠みつべくは、はや言へかし。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　念押し　イ　願望　ウ　詠嘆　エ　禁止

PART2　識別（ばや）

【識別対象】
1「　　　」の終助詞「ばや」
2 接続助詞「ば」＋係助詞「や」

★〈見分け方〉

1「　　形」＋［ばや］（　　　　）＝自己願望の終助詞「ばや」

（例）いましばしもあら**ばや**。

2「　　形」＋ⓑⓨ（　　　　）＝接続助詞「ば」**仮定**条件＋係助詞「や」

（例）八千夜し寝**ばや**あく時のあらむ

3 「形」＋ ㋩や ＝接続助詞「ば」**確定**条件＋係助詞「や」

（例）月の桂も秋はなほもみぢすれ**ばや**照りまさるらむ

問一 傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中からそれぞれ選べ。

① 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを

② この精進のついでに賀茂へも参らばやと思ふに、かやうにくたびれ…

③ 心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花

ア　自己願望の終助詞
イ　順接仮定条件の接続助詞＋係助詞
ウ　順接確定条件の接続助詞＋係助詞

①＝　②＝　③＝

第22講　PART2　確認問題

①「父母のために諸国の観音にも参詣（さんけい）せばやと存ずるなり。」の傍線部の助詞の種類を、次の中から選べ。

ア　格助詞　イ　接続助詞＋係助詞　ウ　係助詞　エ　副助詞＋係助詞　オ　終助詞

②「読まばや飽く時のあらむ。」の傍線部の助詞の種類を、次の中から選べ。

ア　格助詞　イ　接続助詞＋係助詞　ウ　係助詞　エ　副助詞＋係助詞　オ　終助詞

③「いかで見ばやと思ひつつ、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうにかして見たい
イ　どうにかして見てほしい
ウ　どうにかして見せてほしい
エ　どうにかして見ることができたらなあ

④「龍ならばや、雲にも乗らむ。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　龍になりたい

イ　もしも龍ならば

ウ　龍であってほしい

エ　きっと龍であるが

⑤終助詞「ばや」ではないものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　五月来ば　鳴きも古りなむ　ほととぎす　まだしきほどの　声を聞かばや

イ　いかなる御有様（おんありさま）を見え参らせむずらん恥づかしさよ。消えも失せばや。

ウ　「あなや」と声に出せばや、人思ひ及びける。

エ　（この少年の父は）いかばかりか嘆き給はんずらん。あはれ、助け奉らばや。

第23講　副助詞・識別（し）

PART1　だに・すら・さへ

副助詞（だに・すら・さへ・し・のみ・ばかり・など・まで）

★「だに・すら・さへ」の用法

副助詞	用法
※だに	類推（〜　　　）
すら	
さへ	添加（〜　　　）

※**「だに」**には**限定用法**（＝　　　〜　　　）もある。

（例）

（帥殿〔＝伊周（これちか）〕は）的のあたりに**だに**近く寄らず、無辺世界を射給へるに…。

鬼ある所とも知らで、神〔＝雷〕**さへ**いといみじう鳴り、雨もいたう降りければ、…

〈Memo〉

第23講　PART1　確認問題

① 傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「ほたるばかりの光だになし。」

ア　だけしか　イ　さえも　ウ　だけでも　エ　ばかり

② 傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「郷里を廻れど一親にすら会はず、…」

ア　まで　イ　しか　ウ　やっと　エ　さえ

③ 傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「風吹き、浪激しけれども、雷(かみ)さへ頂に落ちかかるやうなるは、…」

ア　までも　イ　さえ　ウ　だけでも　エ　しか

④「ちかくだにえ寄らで、…」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　近くに寄ってきて、…
イ　近くにだけでも寄りたくて、…
ウ　近くにさえ寄ることができなくて、…
エ　近くへと言っても寄ってこなくて、…

⑤「いまより後は、毛の末一筋をだに動かしたてまつらじ。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　毛の先一本だけでも動かしてはいけません
イ　毛の先一本でさえも動かし申し上げません
ウ　毛の先一本だけであれば動かし申し上げられます
エ　毛の先一本だけでは動かし申し上げられません

PART2　だに（類推と最低限の限定・副助詞）

★「類推」の構文

[A] **だに**／**すら**（サエ）[B]

「（　　）」

[C] はなおさら [　　]

（例）ここぞ関屋の跡とばかりいへど、
この頃は、荒れたる板屋**だに**なく、まいて守る人もなかりき。

★〈「だに」の意味の見分け方〉＝「　　」を見る。

だに＋～「　　　」・「　　　」・「　　　」・「　　　」

限定用法

（例）

苔の袂よかわき**だに**せよ。

見てけりと**だに**知られむと思ひて、…

問二　傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

あはれなる御遺言ども多かりけれど、女のまねぶべき事にしあらねば、この片端だにかたはら痛し。

ア　遺言は、女の私が理解することができない内容だったので、少し聞いただけで興味を失ってしまった
イ　遺言が、女が聞いて人に伝えてよい性質のものであったならば、全てを詳しく書けたのにと残念に思う
ウ　女の私は、これまで漢字を学ぶ機会がなかったので、遺言の一部分しか理解できなかったのが悔しい
エ　遺言は、女の私が聞いて人に伝えるようなものではないので、こうして少し書くことさえも気がとがめる
オ　仮に私が女で、漢字を学んでいなかったならば、遺言がわからないふりができたのにと悔やまれる

問三　「今日だに日もとく暮れなむ」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　きっと今日だけは日も早く暮れるだろう
イ　おそらく今日は日も早く暮れるだろう
ウ　その上今日までも日も早く暮れてほしい
エ　せめて今日だけでも日も早く暮れてほしい

問四　「もの一言をだに言はむ」の現代語訳として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　さらに何か一言を言わせてください
イ　今ごろ何か一言を言っているだろう
ウ　せめて何か一言だけでも言ってやろう
エ　かつて何か一言だけ言ったことがあった
オ　そのうち何か一言を言うことがあるだろう

問五　「とぶらはむと言ひし人さへ、かのわたり近く来ゐて待つなれば」の現代語訳として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　お見舞いしますと伝えた人なのに、病気をおしてこちらに近い所に来て待つということなので、
イ　弔問に行くだろうと伝えてきた人でさえ、まだ桂の近くで待っている状態であるから、
ウ　桂の邸に来たいと言っていた人が、そのすぐ近くに来るので滞在して待つ予定だから、
エ　こちらから訪ねようと言っておいた人まで、桂の邸の近くまで来て待っているそうなので、

第23講　PART2　確認問題

① 「一文字（いちもんじ）をだに知らぬもの、…」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　一という文字さえ知らない者
イ　一という文字しか知らない者
ウ　一という文字だけでも知りたいという者
エ　一という文字までも知らないという者

② 「家の人どもに物を<u>だに</u>言はんとて、…」の傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　家の人たちに物を言うことさえできないなんて、という類推の意味を表している。
イ　家の人たちに言葉をぜひかけておこうという強調の意味を表している。
ウ　家の人たちにも言葉をかけておこうという添加の意味を表している。
エ　せめて家の人たちと何か話すだけでも、という最低限の限定を表している。

③「いま一（ひと）きざみの位をだにと、贈（おく）らせたまふなりけり。」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　一つ上の位さえも　　イ　せめて一つ上の位だけでも

ウ　一つ上の位は無理でも　　エ　そのうえ一つ上の位までも

④「いとどかきくらす涙の雨さへ降り添ひて、…」の傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　最低限、涙の雨だけでもということを意味する。

イ　雨よりも激しい涙の雨をいっそう強調する。

ウ　涙の雨に限定することによって雨を否定する。

エ　雨と涙の雨とを並べて対比する。

オ　雨のほかに涙の雨まで加わることを意味する。

⑤「いまはとて忘るる草のたねを［　　］人の心にまかせずもがな」の傍線部の意味が、「せめて忘れ草の種だけでも」という意味になるように、［　　］に入れる副助詞として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　すら　　イ　ばかり　　ウ　だに　　エ　まで

PART3　し・識別（し）

★「し」の用法＝「　　　」➡訳不要！

①「し　　」・「し　　」

㋫（例）さびしさはその色と**し**もなかりけり

②「A**し**Bば」

（例）名に**し**負はばいざこと問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと

③「Vと**し**V」　※同じV

（例）ありと**し**ある人はみな…

「し」の識別

【識別対象】

1 サ変動詞「　　」の「　　形」
2 過去の助動詞「　　」の「　　形」
3 「　　　　」の副助詞「し」

接続		形
基本形	サ変「す」	き
未然形		
連用形		
終止形		
連体形		
已然形		
命令形		
活用の型		特殊型

★〈見分け方〉

1「　　」と訳せる＝サ変動詞

（例）物語**し**て、…

2「　　形」＋**し**＝過去の助動詞「き」

（例）思はざり**し**を

3「し」を省いても文意が通じる＝副助詞　※副助詞「し」の用法①〜③参照

（例）唐衣きつつなれにし妻**し**あれば…

問一　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

①　先追ふ声々などして、上達部など…
②　いと嘆かしと思へり。
③　観念のたよりなきにしもあらず。
④　みなかねて思ひしことなれど、…

ア　副助詞
イ　過去の助動詞「き」の連体形
ウ　サ行変格活用動詞の連用形
エ　形容詞の活用語尾

①＝　②＝　③＝　④＝

問二　次の傍線部「し」の文法的説明をそれぞれせよ。

歌など学問 a しけるとぞ聞こえ b し。

a＝

b＝

第23講　PART3　確認問題

①「君をもわれをも祝ひなどしたる、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　副助詞「し」
イ　形容詞の活用語尾
ウ　サ行変格活用動詞「す」の連用形
エ　過去の助動詞「き」の連体形

②「この皇子に申し給ひし蓬萊の玉の枝を、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞の連用形
イ　サ行四段活用動詞の連用形
ウ　過去の助動詞「き」の連体形
エ　副助詞「し」

③「わが父母（ちちはは）ありとしおもへば。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞　　イ　副助詞
ウ　形容詞の活用語尾　　エ　助動詞

④　傍線部の「し」a～cのうち、他の二つと文法的意味が異なるものが一つある。選んだ「し」の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

「から衣きつつなれに[a]しつま[b]しあればはるばるきぬる旅を[c]しぞ思ふ」

ア　副助詞「し」
イ　形容詞の活用語尾
ウ　サ行変格活用動詞の連用形
エ　過去の助動詞「き」の連体形

⑤　傍線部の文法的説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

恋[a]しや慣れし里のあま人
磯越す風は聞く心地[b]して、…
この人も安嘉門院（あんかもんゐん）に候（さぶら）ひ[c]しなり。

ア　a名詞の一部　b助詞　cサ行変格活用動詞
イ　a形容詞の活用語尾　bサ行変格活用動詞　c助詞
ウ　a形容詞の活用語尾　bサ行変格活用動詞　c助動詞
エ　a四段活用動詞の活用語尾　b形容詞の活用語尾　c助動詞

PART1　識別の基本（なむ）

「なむ」の識別

【識別対象】

1 「　　」の終助詞「なむ」
2 「　　・　　」の助動詞「ぬ」の「　　形」＋推量の助動詞「む」
3 ナ行変格活用動詞の未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」
4 「　　」の係助詞「なむ」

★〈見分け方〉＝「　　」

1 「　　形」＋［なむ］＝他者願望〔あつらえ〕の終助詞「なむ」

（例）峰も平らになりな**なむ**。

2 「　　形」＋（な）（む）＝完了・強意の助動詞「ぬ」＋推量の助動詞「む」

（例）わろかり**なむ**と思ひて、…

3　「なむ」・「なむ」・「なむ」＝ナ変動詞未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」

（例）出でていなむと思ひて、…

4　**1～3以外**＝強意の係助詞「なむ」

（例）かき抱きてなむ寝にける。

問三　「風より先にまたも訪はなむ」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　終助詞
イ　係助詞
ウ　助動詞と助動詞
エ　動詞の一部と助動詞
オ　助動詞

問四　「我、人に劣りなむや」の傍線部の文法的な説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　係助詞
イ　終助詞
ウ　副助詞
エ　完了の助動詞＋推量の助動詞
オ　断定の助動詞＋推量の助動詞

問五　「君が宿にてかへらざらなむ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あなたの所へ帰っていきたい。
イ　あなたの所へ帰っていくだろう。
ウ　あなたの所へ帰らないでいたい。
エ　あなたの家で孵化(ふか)してほしい。
オ　あなたの家で孵化するだろう。
カ　あなたの家で孵化しないでほしい。

問六　「かはれる事もありなむ」の傍線部と同じ用法の「なむ」として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　うぐひすは植ゑ木の木の間を鳴き渡らなむ
イ　かの草をもみてつけぬれば、すなはち癒ゆとなむ
ウ　容貌もかぎりなくよく、髪もいみじく長くなりなむ
エ　わびぬれば身を浮き草の根を絶えて誘ふ水あらばいなむとぞ思ふ

問七　傍線部の「なむ」の文法的説明として適当なものを、次の中から選べ。

① かしこ〔＝ここでは「自邸」〕へものしなむ。
② いくばくもあらぬ心地なむするなむ、いとわりなき。
③ また対面せでや、やみなむと思ふこそ、いみじけれ。
④ はや奉りなむ。

ア　①のみが係助詞で、他は助動詞「ぬ」に助動詞「む」が接続したもの
イ　②のみが係助詞で、他は助動詞「ぬ」に助動詞「む」が接続したもの
ウ　③のみが係助詞で、他は助動詞「ぬ」に助動詞「む」が接続したもの
エ　④のみが係助詞で、他は助動詞「ぬ」に助動詞「む」が接続したもの

問八　「見てだに帰りなむ」を単語にくぎったとき、各単語の品詞として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　動詞・助詞・助動詞・助動詞・動詞・助詞
イ　動詞・助詞・助詞・助詞・動詞・助詞
ウ　動詞・助動詞・助動詞・動詞・助動詞・助動詞
エ　動詞・助動詞・助詞・動詞・助詞
オ　動詞・助詞・助詞・動詞・助動詞・助動詞
カ　動詞・助動詞・助動詞・助詞・動詞・助動詞

問九　「我が玉の緒は尽きななむ」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　私の琴の絃はきっと切れてしまうだろう
イ　私の琴の絃は切れたりしないだろう
ウ　私とあなたの絆を終わりにしたくない
エ　私の命はきっとなくなってしまうだろう
オ　私の命はなくなってしまってほしい

〈Memo〉

第24講 PART1 確認問題

① 傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

「我がやどに　蒔きしなでしこ　いつしかも　花に咲きなむ　なそへつつ見む」

ア　終助詞「なむ」
イ　係助詞「なむ」
ウ　強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」
エ　ナ行変格活用動詞の未然形の活用語尾＋推量の助動詞「む」

② 傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

「山の端逃げて入れずもあらなむ」

ア　終助詞
イ　係助詞
ウ　強意の助動詞＋推量の助動詞
エ　動詞の活用語尾＋推量の助動詞

③「橋を八つわたせるによりてなむ八橋といひける。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　係助詞　　イ　完了の助動詞＋推量の助動詞

ウ　終助詞　　エ　動詞の活用語尾＋推量の助動詞

④「さあらむ所に一人往なむや」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　係助詞　　イ　助動詞＋助動詞

ウ　終助詞　　エ　動詞の活用語尾＋助動詞

⑤「良かりなむ」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　形容詞「良し」の命令形＋終助詞「なむ」

イ　形容詞「良し」の連体形＋係助詞「なむ」

ウ　形容詞「良し」の未然形＋完了の助動詞「り」の連用形＋終助詞「なむ」

エ　形容詞「良し」の連用形＋禁止の終助詞「な」＋推量の助動詞「む」の終止形

オ　形容詞「良し」の連用形＋完了の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形

PART 2　識別の応用（なむ）

★注意すべき「なむ」

（例）　受け**なむ**

●「未然形」と「連用形」が同じ形の場合→**文脈判断**

まず「　　　　　」と訳してみる。

○→他者願望の終助詞

×→完了の助動詞＋推量の助動詞

※ただし、「　　　　　」にあれば「完了の助動詞＋推量の助動詞」である。

（例）　親王（みこ）、酔ひて（寝所に）入りなむとす。月も隠れ**なむ**とすれば、…

●「しなむ」の場合

「し」が「　　」と訳せる＝サ変「す」連用形＋「　　」＋「　　」

「し」が「　　」の意味＝ナ変動詞未然形＋推量の助動詞

(例)　連歌し**なむ**。

●「連用形＋なむ」が「係助詞」である場合

(例)　いと恥ずかしく**なむ**。

連用形
～
～
～
＋**なむ**＝**係助詞**

●「てなむ」＝**接続助詞**「て」＋**係助詞**「なむ」

(例)　一筋に通ひて**なむ**ありける。

第24講　PART2　確認問題

① 傍線部の文法的説明として最も適当なものを、現代語訳を参考にして、次の中から選べ。

「おのづから聞こえなむと思ひて、…」
（現代語訳「自然にうわさになってしまうにちがいないと思って、…」）

ア　ナ変動詞の活用語尾＋推量の助動詞
イ　強意の助動詞＋推量の助動詞
ウ　係助詞
エ　終助詞

② 「拾はば消えなむと見ゆる玉笹の上の霰などの、…」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　動詞の活用語尾＋推量の助動詞
イ　助動詞＋助動詞
ウ　係助詞
エ　終助詞

③「さりとも今一度はおはしなむ」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　サ行変格活用動詞連用形の一部＋完了の助動詞＋推量の助動詞
イ　ナ行変格活用動詞未然形＋推量の助動詞
ウ　サ行変格活用動詞連用形の一部＋推量の助動詞
エ　ナ行変格活用動詞未然形＋完了の助動詞＋推量の助動詞

④「心にいらで、あしくなむよみたまひける。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　副助詞
イ　係助詞
ウ　完了の助動詞＋推量の助動詞
エ　断定の助動詞＋推量の助動詞

⑤「心やましき物越しにてなむ逢ひてはべる。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　終助詞
イ　副助詞
ウ　係助詞
エ　完了の助動詞＋推量の助動詞

第25講　識別（に）

PART1　識別の基本（に）

「に」の識別

【識別対象】

1　**形容動詞**ナリ活用の連用形の活用語尾
2　**ナ行変格活用動詞**「死ぬ」・「往ぬ」・「去ぬ」の連用形の活用語尾
3　**完了の助動詞「ぬ」**の連用形
4　**断定の助動詞「なり」**の連用形
5　**格助詞**の「に」
6　**接続助詞**の「に」
7　**副詞・副助詞**の一部　→「さら**に**」「まさ**に**」「げ**に**」「だ**に**」など

★〈見分け方〉＝「　　」→「　　」

1　「　　・　　」＋**に**＝**形容動詞**

〜「　　」
〜「　　」
〜「　　」
＋**に**　の形が多い。

（例）

には か**に**、親この女を追ひうつ。

あはれ**に**見給ふ。

2

　　　　　　
にの「**に**」＝**ナ変動詞**連用形の活用語尾

（例）狩りにい**に**けり。

３「　　形」＋に＝**完了の助動詞**「ぬ」の連用形

※　**に**＋｛　　　｝の形が多い。

（例）事なくてやみ**に**けり。

〈Memo〉

第25講　PART1　確認問題

①「いましづかに、御局（みつぼね）にさぶらはむ。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ナ行変格活用動詞の活用語尾
イ　形容動詞の活用語尾
ウ　完了の助動詞
エ　断定の助動詞

②「世かはり時うつりにければ、…」の傍線部の助動詞の文法的意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定　イ　過去　ウ　完了　エ　打消

③「野分（のわき）のまたの日こそ、いみじうあはれにをかしけれ。」の傍線部の品詞構成として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　形容動詞＋名詞＋形容詞
イ　形容動詞＋助詞＋形容詞
ウ　形容詞＋名詞＋助動詞
エ　形容詞＋形容動詞＋形容詞

④　「すゐなほして去(い)にければ、…」の傍線部と文法的に同じものを、次の中から選べ。

ア　行(ゆ)くさき多く夜もふけにければ、…
イ　真実(しんじち)に絶(た)えいりにければ、…
ウ　まどひ来(き)たれど死にければ、…
エ　おのが世々になりにければ、…

⑤　傍線部のうち、一つだけ品詞が異なるものを次の中から選べ。

ア　人の国へいにけり。
イ　夜になりて寝にけり。
ウ　御(み)船来にけり。
エ　三十日(みそか)あまり九日(ここぬか)になりにけり。

PART2　識別の応用（に）

4　「　　」＋**に**

- **断定**の助動詞　※次ページ「断定」参照
- **格助詞**　（「である」と訳せない）

（例）　天の川といふ所**に**至りぬ。

※断定

● **に**＋（助詞）＋

（例）　いかなる天魔（てんま）の仕業（しわざ）**に**てありけむ、…

〔注〕　女、野にありて…

● **に**

（例）同じことに**に**や。

5

「　形」＋**に**
- **断定**の助動詞　※前ページ「断定」参照
- **格助詞**
- **接続助詞**

※断定

（例）さるべき**に**やありけむ、…

※格助詞

連体形＋**に**　述部

（例）尼君の見上げたる**に**、少しおぼえたるところあれば、（少女は尼君の）子なめりと見給ふ。

※接続助詞

連体形＋**に**、～

⇒ 「　　」「　　」「　　」で訳せる。

（例）（女房が格子を）上げちらしたる**に**、雪降りにけり。

〈Memo〉

第25講　PART2　確認問題

①　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

かくうたふを聞きつつこぎ来るに、黒鳥（くろとり）といふ鳥、岩の上にあつまりをり。

ア　格助詞　イ　接続助詞　ウ　完了の助動詞　エ　断定の助動詞
オ　動詞の活用語尾　カ　形容動詞の活用語尾

②　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

三尺の御几帳のうしろにさぶらふに、絵などとり出でて見せさせ給ふを、手にてもえさし出づまじうわりなし。

ア　格助詞＋動詞の連体形＋接続助詞
イ　接続助詞＋動詞の連体形＋接続助詞
ウ　接続助詞＋動詞の終止形＋格助詞
エ　格助詞＋動詞の終止形＋格助詞

③ 「思ひなしにや、…」の傍線部と文法的意味・用法が同じものを、次の中から選べ。

ア　みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。
イ　ここだくも狂ひに狂ひ思ほゆるかも
ウ　火の中にうちくべて焼かせたまふに、めらめらと焼けぬ。
エ　鬢は失せにたれば、ひたぶるになし。

④ 傍線部のうち、一つだけ品詞が異なるものを次の中から選べ。

ア　「一夜（ひとよ）の門（かど）の事、中納言に語りはべりしかば、…」
イ　「定めてならひあることに侍らん。」
ウ　朝夕の宮仕へにつけても、…
エ　いかでこの男にものいはむと思ひけり。

⑤ 傍線部について、文法的に正しい組み合わせを、次の中から選べ。

いづれの御時（おほんとき）ａにか、女御（にょうご）・更衣（かうい）あまたさぶらひたまひけるなかｂにいとやむごとなききはｃにはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。

ア　aとbが同じ　イ　aとcが同じ　ウ　bとcが同じ　エ　すべて同じ　オ　すべて異なる

PART3　練習問題（「に」の識別）

問一　「この猫の声にてありつるが、…」の傍線部の助動詞の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定　イ　尊敬　ウ　完了　エ　使役　オ　強意

問二　「ひきはり逃げにけり。」の傍線部の文法的説明として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞　イ　完了の助動詞　ウ　打消の助動詞
エ　助詞　オ　形容動詞の活用語尾

問三　傍線部の文法的説明としても適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

あざやかに[a]なさんはなにの難かあらん。
これはただ事に[b]あらず。

ア　助詞　　イ　完了の助動詞　　ウ　断定の助動詞
エ　打消の助動詞　　オ　形容動詞の活用語尾

a＝　　b＝

問四　「明けなんとするにや」の傍線部の文法的説明として適切なものを、次の中から選べ。

ア　動詞「似る」の連用形　　イ　完了の助動詞「ぬ」の連用形
ウ　断定の助動詞「なり」の連用形　　エ　格助詞「に」　　オ　接続助詞「に」

問五　「誰も制せずになりにけり。」の傍線部と文法的に同じ働きをするものを、次の中から選べ。

ア　用ゐられたる者になんありける。
イ　失せにし児なり。
ウ　便り悪しき事になりて、…
エ　夜あけてこれを見るに、ありし琵琶なり。

問六　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

「この所を見る[a]に、憂き世ながらかかる所もありけりと、…」
手毎(てごと)に拭(ふ)きて膳棚(ぜんだな)[b]に重ねける。
実(まめ)やか[c]に約(ちぎ)りつつも、…
さらぬことだ[d]におぼし寄らぬことなく仕うまつりたまふを、…
「ありぬべき身[e]にこそあめれ」など、…
尼になり[f]にけり。

ア　完了の助動詞「ぬ」の連用形　　イ　接続助詞　　ウ　形容動詞の活用語尾
エ　断定の助動詞「なり」の連用形　　オ　格助詞　　カ　副助詞の一部

a＝　　b＝　　c＝　　d＝　　e＝　　f＝

問七　「いかにすることにかあらむ」の傍線部と文法的に同じものを、次の中から選べ。

ア　年にそへ日にそへては、…
イ　道理もあはれにおぼえて…
ウ　すでに残り少なく、…
エ　人も申し置かぬにやと、…
オ　衰へにたることはり、…

【識別総合練習問題】

問八　傍線部について、文法的に正しい組み合わせを次の中から選べ。

人がらなりければ[a]にや、…
女はえ詠ま[b]ぬにや、
なかなか[c]に、半ばなる月を見る心地するに、…
この花やがてにほは[d]なむ。
皇子出で給ひ[e]ぬれば、…
見ずなり[f]なむこそあはれなれと、…

ア　a「に」とc「に」が同じ。
イ　b「ぬ」とd「な」が同じ。
ウ　b「ぬ」とe「ぬれ」が同じ。
エ　d「な」とf「な」が同じ。
オ　e「ぬれ」とf「な」が同じ。

第25講 PART3 確認問題

① 「げにぞをかしき。」の品詞構成として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　名詞＋助詞＋助詞＋形容詞
イ　名詞＋助詞＋助動詞
ウ　副詞＋形容詞＋助動詞
エ　副詞＋助詞＋形容詞

② 傍線部の文法的説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

景時にあづけられ[a]にけり。
まこと[b]に大きにたかくして、…
存知したりける[c]にや、…

ア　a・接続助詞　b・副詞の一部　c・動詞の活用語尾
イ　a・動詞の活用語尾　b・副詞の一部　c・断定の助動詞
ウ　a・完了の助動詞　b・副詞の一部　c・接続助詞
エ　a・完了の助動詞　b・副詞の一部　c・断定の助動詞

③　傍線部のうち、一つだけ品詞が異なるものを次の中から選べ。

ア　「…御心も通ひぬべきを…」
イ　「…老人御方に入りたまひにけり。」
ウ　「男の艶だちゐたまへる方に帰り往にけり。」
エ　「中将、言ひわづらひて帰りにければ、…」

④　傍線部ａ・ｂの文法的説明の組み合わせとして最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

「元の帯[a]にはあらねども、むなしく失ひて、…」
「手をすりて、とりてまかり[b]にけり。」

ア　ａ・完了の助動詞の連用形　ｂ・接続助詞
イ　ａ・断定の助動詞の連用形　ｂ・完了の助動詞の連用形
ウ　ａ・格助詞　ｂ・形容動詞の連用形活用語尾
エ　ａ・断定の助動詞の連用形　ｂ・接続助詞

⑤　傍線部の組み合わせの文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ゆく河の流れは絶えずして、しかも、もとの水に(a)あらず。
京に(b)はあらじ、あづまの方に住むべき国求めにとて行きけり。
花のなかよりこがねの玉かと見えて、いみじうあざやかに(c)見えたるなど、…
急ぎ参らせて御覧(ごらん)ずるに(d)、めづらかなるちごの御かたちなり。
鳥は、異所(ことどころ)のものなれど、あうむ、いとあはれなり(e)。
もののはづかしきことの数知らず、涙も落ちぬ(f)べければ、…

ア　aとbが同じで、格助詞
イ　bとdが同じで、接続助詞
ウ　cとeが同じで、形容動詞の活用語尾
エ　dとeが同じで、断定の助動詞
オ　dとfが同じで、完了の助動詞

〈Memo〉

PART1　呼応の副詞（禁止・不可能）

呼応（陳述）の副詞

★「禁止」

「　」～**そ**＝～するな（～してくれるな）

→「　　形」

（例）な射そ。

※ただし、カ変・サ変のときは未然形。

（例）なこそ。＝来るな（来てくれるな）。
なせそ。＝するな（してくれるな）。

「　　」
｛かまへて／あなかしこ｝〜｛そ／**な**／べからず｝＝決して〜するな

（例）あなかしこあなかしこ、人に語り給ふな。

★「不可能」

「　　」〜打消＝〜できない

※打消＝ず・じ・まじ・なし・で

（例）返しえし給はず。

おぼろけの紙はえ張るまじければ、…

問一　「沈みはべりてなむ、えきこえぬ」の傍線部の文法的な説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　名詞＋動詞の未然形＋完了の助動詞の終止形
イ　名詞＋動詞の連用形＋完了の助動詞の終止形
ウ　副詞＋動詞の連用形＋完了の助動詞の終止形
エ　副詞＋動詞の未然形＋打消の助動詞の連体形
オ　副詞＋動詞の連用形＋打消の助動詞の連体形

問二　下の打ち消しの語と呼応して不可能の意味を表す副詞の言葉として、最適なものを次の中から選べ。

ア　さらに　　イ　よも　　ウ　な　　エ　え

問三　「な泣きたまひそ」の口語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　泣くかもしれない
イ　お泣きなさるな
ウ　泣くだろうな
エ　お泣きなさるだろう

問四　「花ならばしばし□散りそ木の下を」の空欄には、ひらがな一字が入る。最も適切な語を記せ。

問五　「え参り来まじきを」の解釈として最適なものを、次の中から選べ。

ア　お訪ねするべきではないのに
イ　お訪ねしたいわけでもないのに
ウ　お訪ねしないつもりでいるのに
エ　お訪ねすることもできないのに

第26講　PART1　確認問題

①「もの知らぬことなのたまひ給ひそ。」の傍線部分の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　おっしゃるのかもしれませんね
イ　おっしゃったら良いではないですか
ウ　おっしゃるものではありません
エ　おっしゃるのでしょうね

②「な来そ。」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　副詞＋カ行変格活用動詞の未然形＋終助詞
イ　副詞＋カ行変格活用動詞の連用形＋終助詞
ウ　終助詞＋カ行変格活用動詞の未然形＋副詞
エ　終助詞＋カ行変格活用動詞の連用形＋副詞

③　傍線部が呼応する語として最も適当なものを、次の中から選べ。

「あなかしこ、あなかしこ、われ人に許さるる程になりたりとも、証得（しやうとく）してわれはきそくしたる歌詠み給ふな。」

ア　とも　　イ　て　　ウ　たる　　エ　な

④　空欄A・Bに入る最も適当な語の組み合わせとして適当なものを、次の中から選べ。なお、Aは禁止、Bは不可能を表すために用いられている。

今宵は［A］行くべからず。
今宵は［B］参らず。

ア　A・そ　B・な　　イ　A・え　B・かまへて
ウ　A・な　B・そ　　エ　A・かまへて　B・え

⑤　「人のそしりをもえはばからせたまはず。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　決してお慎みになられることのなきよう
イ　お慎みになられることはやめてください
ウ　お慎みになられることもできず
エ　どうしてお慎みになられる必要などありましょう

PART2　呼応の副詞（その他の打消系統）

★「全否定」

「おほかた」
「たえて」
「つやつや」
「かけて」
「あへて」

～打消＝
- 全く～ない
- 全然～ない
- 決して～ない

（例）

さらにこそ信ぜられね。

ほかへもさらに行かで、…

世の中にたえて桜のなかりせば…

★「弱い否定」

いと
いたく
} ～打消＝**たいして**～ない

（例）いたう罪な作り給ひそ。

「　　」～打消＝めったに～ない
　　　　　　　　ほとんど～ない

（例）山はすべて若木の細枝原にて、年ふりたる木などは、をさをさ見えず。

★「その他の打消系統」

「　　」知ら**ず**＝さあ、どうだかわからない

（例）行疫神（＝疫病神）はいさ知らず、…

「　　」〜「　　」＝まさか〜ないだろう

（例）　さまざまの歌の道をば、よも知らじ。

問六　「さらにそのほかのものも食はずありければ、…」の傍線部の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　ますます
イ　まったく
ウ　たいてい
エ　ふつうは
オ　ほとんど

問七　「さらにあるまじ」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　それ以上しなかった
イ　おそらくしないだろう
ウ　確かにあり得なかった
エ　決してあるはずがない
オ　ますますあり得ないだろう

問八　「をさをさ違ふことなし」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　めったに外れることはない
イ　そうやたらと間違ってはいけない
ウ　ややもすると違いがみえなくなる
エ　思惑が外れてしまうこともないわけではない

問九　「左府の乗らせたまひたるにはよもあらじ。」の傍線部の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　係助詞で「あるまい」の意。反語の用法。
イ　副助詞で「まったく」の意。多く打消の意で用いる。
ウ　副詞で「まさか」の意。多く打消を伴う。
エ　連語で「よもや」の意。反語の用法。
オ　連語で「決して」の意。強意の用法。

第26講　PART2　確認問題

① 「このめの童（わらは）は、たえて宮仕へ仕（つか）うまつるべくもあら［　　］侍るを、…」の空所には、「たえて」に呼応する語が入る。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ば　　イ　ず　　ウ　まほしく　　エ　しめ

② 「いとやむごとなききはにはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　たいそう身分の高い方に違いないが
イ　とても高貴な身の上の方で
ウ　たいして高い身分ではない方で
エ　全く高貴な身分の方ではなかったが

③「いたくうれしからず。」の傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　副詞で、下に打消の語を伴って「たいして」の意味となる。

イ　副詞で、下に推量の語を伴って「おそらく」の意味となる。

ウ　副助詞で、下に推量の語を伴って「とても」の意味となる。

エ　副助詞で、下に打消の語を伴って「決して」の意味となる。

④「かの僧はいさ知らず。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あの僧はさあ、どうだかわからない

イ　あの僧のことならともかく

ウ　あの僧ならばどうするのだろうか

エ　あの僧ならきっと知っているだろうけれど

⑤「その男、尼が細工によもまさり侍らじ。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　副詞＋ラ行四段活用動詞＋ラ行変格活用動詞＋打消意志の助動詞

イ　副詞＋ラ行四段活用動詞＋ラ行変格活用動詞＋打消推量の助動詞

ウ　名詞＋係助詞＋名詞＋ラ行変格活用動詞＋打消意志の助動詞

エ　名詞＋係助詞＋名詞＋ラ行変格活用動詞＋打消推量の助動詞

PART3　いかでか〜推量／願望／意志・いつしか〜願望・かまへて〜・はやく〜けり

●いかで（か）〜

いかで（か）〜 ｛
推量＝【疑問】「どうして〜だろうか」
　　　【反語】「どうして〜だろうか、いや、〜でない」
願望・意志＝「〜したい・しよう」
｝

（例）

いかで見ばやと思ひつつ、…

いかでこのかぐや姫を得てしがな。

いかでとく京へもがな。

（客を見送った後、すぐに部屋にもどらずに月を見ている女性を、作者は物陰から見ていた。）あとまで見る人ありとは、**いかでか**知らん。かやうのことは、ただ朝夕の心づかひによるべし。

問十　「今はいかで見聞かずだにありにしがな」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　今は何とかしてせめてあの人に関するうわさだけでも聞きたい
イ　今ではどんなに小さなことでもあの人について知らないことはない
ウ　今までどうしてあの人のうわさを耳にもせず過ごしてきたのだろう
エ　今はどうにかしてあの人のことを見たり聞いたりもせず過ごしたい
オ　今までどうしてあの人のことを見聞きせずにいられたのかわからない

問十一　「いかで思ふやうならむ人に盗ませたてまつらむと、明け暮れ『あたらもの』と言ひ思ふ。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　なんとしてでも理想的な男君に落窪の君をお盗ませ申し上げたい。
イ　どういう手段で理想的な男君に落窪の君をお盗ませ申し上げるのか分からない。
ウ　なぜか北の方の思惑通りになるので、誰かに落窪の君をお盗ませ申し上げたい。
エ　思い通りの男君に落窪の君をお盗ませ申し上げることはどうやってもかなうまい。

● **いつしか〜願望**＝「　〜したい・してほしい」

（例）**いつしか**聞かまほしく、…

● **かまへて〜**
- 禁止＝「　〜するな」
- 命令・意志＝「　〜せよ・しよう」

（例）**かまへて**、念仏おこたるな。

かまへて参り給へ。

● **はやく〜けり**＝「なんと実は〜だったよ」

（例）**早う**、翁の籠の瓜を取り出だし**ける**を…

問十二 「いつしか梅咲かなむ」の「いつしか」の意味として適切なものを、次の中から選べ。

ア いつの間にか　イ はやく　ウ もはや　エ いったいいつか

問十三 「構へて見えさせたまふな」の口語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア いつでも会えるように心構えをしておいてください
イ 用心して外を見ないようにしてください
ウ けっしてお姿をお見せにならないでください
エ 用心している気配が分からないようにしてください

問十四 「はやく違ひたりけり」の現代語訳として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア わずかながら違っているのです
イ そもそもが違っていたのでした
ウ すぐに違うことに気づきました
エ 手早いものの違っていたのです
オ なんとまあ違っているのでした

第26講 PART3 確認問題

① 傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

雲のうへも涙にくるる秋の月いかですむらむ浅茅生（あさぢふ）の宿（やど）

ア　どうしても澄んでいる状態で見たいと思うが、きっと見られないだろう
イ　どうして澄んで見えることがあるだろうか、きっと澄んでは見えないだろう
ウ　どうにかして澄んで見ることができるところに住みたいものだ
エ　どうしたら澄んで見えるだろうかということばかり考えてしまうものだ

② 「いかでよくて見せ［　］。」が「どうにかして立派にして見せたいものだ」という現代語訳になるように空所に補う語として、最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　てしがな　　イ　ながら　　ウ　たり　　エ　ぬ

③ 「いかでこの男にものいはむと思ひけり。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうしてこの男に思いを伝えるのですか
イ　この男に思いなどは伝えなくてよい
ウ　なんとしてでもこの男に思いを伝えたい
エ　このままならこの男に思いが伝わるはずだ

④「いつしか見ばや。」の「いつしか」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いつの間にか　イ　もはや　ウ　はやく　エ　いつの日か

⑤空欄A・Bに入る最も適当な語の組み合わせとして適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。なお、Aは禁止を、Bは命令・意志を表す文意となる。

かまへて申し［A］。
かまへて申し［B］。

ア　A・給へ、B・給ふまじ　イ　A・給へ、B・給ひけり
ウ　A・給ひけり、B・給へ　エ　A・給ふまじ、B・給へ

⑥「はやく山へ行かざりけり」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　早く山に行かないといけませんね
イ　なんとまあ山へ行かなかったのでした
ウ　元々山には行かないことになっていました
エ　かつては山に行きませんでした

第27講　敬語の種類・本動詞と補助動詞

PART1　敬語の種類・本動詞と補助動詞

★敬語の種類＝「　　語」・「　　語」・「　　語」

★「本動詞」と「補助動詞」

本動詞…動詞本来の意味・用法がある動詞。
補助動詞…動詞本来の意味・用法が薄れ、他の語に付いて意味を添える動詞。

（例）「ございます」

おめでとうございます。

お釣りがございます。

★補助動詞の型　※「　　」確認

①「　　」＋V

（例）書き**奉る**

②「　　」＋「　　」＋V

（例）書きて**侍り**

③「　　」＋「　（　）」＋

「　　」の意味の動詞
おはす
おはします
侍り
候ふ

（例）女房に（て）**候ふ**

※形容詞・形容動詞＋Vの**V**は、「あり」の意味の動詞

第27講　PART1　確認問題

① 「敬語の種類」に含まれないものを次の中から選べ。

ア　修飾語　　イ　丁寧語　　ウ　謙譲語　　エ　尊敬語

② 空欄にあてはまる語として最も適当なものを、次の中から選べ。

動詞のうち、動詞本来の意味・用法が薄れ、他の語に付いて意味を添える動詞を［　　］という。

ア　自動詞　　イ　他動詞　　ウ　本動詞　　エ　補助動詞

③ 傍線部が補助動詞であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　昔、惟喬親王（これたかのみこ）と申す皇子（みこ）おはしましけり。

イ　年ごとの桜の花ざかりには、その宮へなむおはしましける。

ウ　東（ひむがし）の五条に、大后（おほきさき）の宮おはしましける西の対（たい）に、…

エ　右の馬の頭（かみ）なりける人を、常に率（ゐ）ておはしましけり。

④ 傍線部が補助動詞でないものを、次の中から選べ。

ア　いづれの御時にか、女御、更衣あまたさぶらひたまひける中に、…

イ　世になく清らなる玉の男皇子（をのこみこ）さへ生まれたまひぬ。

ウ　御使ひには、かの大蔵の大夫をぞたまへりける、…

エ　先帝（せんだい）の四（し）の宮の、御容貌（かたち）すぐれたまへる。

⑤ 傍線部のうち、動詞の種類（本動詞か補助動詞か）が他と異なるものを次の中から選べ。

ア　菩提講（ぼだいかう）に詣（まう）でて侍りしかば、…

イ　験方（げんがた）の行なひも捨て忘れてはべるを、…

ウ　なにがし寺（でら）といふ所に、かしこき行（おこ）なひ人はべる。

エ　同じやうなるもののさまかなと見侍りしに、…

PART2　敬語の補助動詞・現代語の敬語（本動詞）

★それぞれの種類の補助動詞と訳

●

給ふ（　　　）
おはす
おはします

＝

（訳）「～　　」・「　～　　」

●

奉る
申す
聞こゆ
参らす
給ふ（　　　）

＝

（訳）「（お）～（し）　　」・「　～　　」

● 侍り 候ふ ＝

（訳）「～　　」・「～　　」・「～　　」

★補助動詞と本動詞の見分け方

補助動詞の型と単語を満たせば、基本「補助動詞」。

（例）

聞き侍り。

木が侍り。

聞き笑ふ。

問一　「恥ぢられたてまつる人」について、空欄a・bに入る最も適切な語を、次の中からそれぞれ選べ。

「たてまつる」は（　a　）といわれるもので、文法的意味は、（　b　）を表す。

ア　動詞　　イ　助動詞　　ウ　補助動詞
エ　尊敬　　オ　丁寧　　カ　謙譲

a＝　　　　b＝

問二　「心地し①はべるに、…」「～いかに見②たてまつり③たまはん」の傍線部の敬語の種類を、次の中からそれぞれ選べ。

ア　尊敬語
イ　謙譲語
ウ　丁寧語

①＝　　　　②＝　　　　③＝

★「本動詞」

（例）　のたまふ＝おっしゃる　（「言ふ」の尊敬語）

尊敬語	通常語	謙譲語
おっしゃる	言う	申し上げる
お聞きになる	聞く	伺う
ご覧になる	見る	拝見する
いらっしゃる	行く・来る	伺う・参る
召し上がる	食べる・飲む	いただく
なさる	する	いたす

第27講 PART2 確認問題

①　傍線部の敬語の種類の組み合わせが正しいものを、次の中から選べ。

・この日の荒れて、日ごろここに経（へ）給ふは、おのれがし<u>侍る</u>[a]ことなり。
・なべての手して書かせむがわろく侍れば、われに書かせ<u>奉ら</u>[b]むと思ふにより、…

ア　a＝尊敬　b＝丁寧　　イ　a＝丁寧　b＝尊敬
ウ　a＝謙譲　b＝丁寧　　エ　a＝丁寧　b＝謙譲

②　「とどめ<u>奉り</u>[a]」「<u>思（おぼ）し</u>[b]」は、どの種類の敬語か。最も適当な組み合わせを、次の中から選べ。

ア　a尊敬語　b謙譲語　　イ　a謙譲語　b尊敬語
ウ　a丁寧語　b尊敬語　　エ　a丁寧語　b謙譲語

③　「なんでふさることかし侍らん。」の現代語訳として正しいものを、次の中から選べ。

ア　どうしてそのようなことをなさるでしょうか。
イ　なぜそのようにお仕えしましょうか。
ウ　どうしてそのようなことをしましょうか。
エ　なぜそのようなことをするのですか。

④ 傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

上にさぶらふ御猫は、*かうぶりにて*命婦（みやうぶ）のおとどとて、いみじうをかしければ、*かしづかせたまふが、端にいでてふしたるに、…

注　かうぶり…五位の位を与えられること。
命婦（みやうぶ）のおとど…ここでは、猫の名前。
かしづか…カ行四段活用動詞「かしづく」の未然形。大切に世話をすること。

ア　大切になさる
イ　大切にお世話させなさる
ウ　大切にお世話し申し上げる
エ　大切にお世話させていらっしゃる

⑤ 傍線部のうち、補助動詞でないものを次の中から選べ。

ア　姫君の住み給ふ方の北面（きたおもて）の立蔀（たてじとみ）のもとにて、…
イ　「取りわかつべくも侍らず。」
ウ　「あらはにやおはすらむ。告げたてまつらむ。」
エ　「いとはづかしげなる人侍るなるを。」

PART3　敬語の本動詞

●「覚えておくべき尊敬語」

※太字の敬語動詞は最高敬語

敬語動詞	訳	通常語
あそばす	なさる	す
います	いらっしゃる	あり・居り 行く・来
いまそがり		
おはす		
おはします		
ます		
まします		
仰す	おっしゃる	言ふ
のたまふ		
のたまはす		
思す	お思いになる	思ふ
思ほす		
思しめす		
大殿ごもる	おやすみになる	寝
聞こす	お聞きになる	聞く
聞こしめす		

敬語動詞	訳	通常語
御覧ず	ご覧になる	見る
給ふ	お与えになる	与ふ
たぶ		
たまはす		
しろしめす	お治めになる	治む
	知っていらっしゃる	知る
召す（※食(を)す）	御覧になる	見る
	※お治めになる	治む
	お呼びになる	呼ぶ
	※召し上がる	食ふ・飲む
	※お召しになる	着る
	お乗りになる	乗る
参る 奉る	お召しになる	着る
	召し上がる	食ふ・飲む
	お乗りになる	乗る

●「覚えておくべき**謙譲語**」

敬語動詞	訳	通常語
承る	うかがう	聞く
聞こゆ	申し上げる	言ふ
聞こえさす		
申す		
奏す	「　　・　　」に申し上げる	
啓す	「　　・　　」に申し上げる	
奉る	差し上げる	与ふ
参る		
参らす		
賜(たまは)る	いただく	受く

敬語動詞	訳	通常語
参る	参上する	行く・来
まうづ		
まかる	退出する	行く・来
まかづ		
つかまつる	お仕えする	仕ふ
つかうまつる		
侍り		
候ふ		

●「覚えておくべき**丁寧語**」

敬語動詞	訳	通常語
侍り	あります・おります	あり・居り
候ふ		

問三　「あな苦しと思して、…」の傍線部のよみがなを記せ。

問四　「大殿籠り入りたるに」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　姫君たちが部屋にお入りになったところ
イ　源氏の大殿が部屋にお入りになったところ
ウ　源氏の大殿が琴をお仕舞いになったところ
エ　姫君たちがすっかりお休みになったところ

問五　「つらしとなおぼしそ」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あなたを家に帰すことを、意地が悪いと思わないでおくれ
イ　病でつらいから、私に冷たくしないでください
ウ　私のすることを、ひどい仕打ちとお思いにならないでおくれ
エ　病でつらいときに、私に心配をかけないでください
オ　女房達に、ひどい仕打ちをしてやろうなどと思わないでおくれ

問六　「なのたまひそ」を現代語訳せよ。

問七　「奏す」の一般的な特徴を説明した文において、空欄 a と b に当てはまる語を、次の中からそれぞれ選べ。なお、解答の順序は問わない。

「奏す」は、 a や b に対して言うときに限って用いられる。

ア　関白　　イ　天皇　　ウ　中宮　　エ　皇后　　オ　皇太子　　カ　上皇

a＝　　　　b＝

問八　次のうち、謙譲の意味を持つものを一つ選べ。

ア　空也上人、山の中におはしけるが、…

イ　「あなものさわがしや」とのたまひければ、…

ウ　かきくらし給ひてし後は、…

エ　そこたちを育み聞こえんとて、…

オ　さこそはと思ひやられ侍り。

問九　傍線部の敬語の種類を、次の中からそれぞれ選べ。

「心もとながり聞こえ[a]させ給へれど、…」

「いまはと思しなし[b]たる御心…」

ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語

a＝　　　b＝

問十　傍線部について、敬語の種類によって二つのグループに分けたものとして適切なものを、次の中から一つ選べ。

ただまもり[A]参らせて、…
もの恐ろしくぞ[B]思し召す。
「〜」と[C]申せど、…
「〜」と[D]仰せられて、…
すこし[E]召し、また[F]大殿ごもりぬ。

ア　ABE／CDF　　イ　AD／BCEF　　ウ　AC／BDEF
エ　ACE／BDF　　オ　ABDF／CE

問十一　傍線部と敬語の種類が同じものはどれか、適当なものを次の中から選べ。

「わたらせたまへ」と申させたまへば

「〜」と[ア]仰せられて…
おそろしくいとほしく思し召して、[イ]おはしましけるに、…
この人々をば[ウ]思しゆるすべきなり。
「〜」と[エ]聞こえさせたまひけるを…
「ただこなたにてを[オ]召せ」とて…

問十二　「いかに心もとなくおぼすらむ」の傍線部を文法的に説明するとどうなるか。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　「思ふ」の尊敬語「おぼす」の終止形
イ　「思ふ」の尊敬語「おぼす」の連体形
ウ　「思ふ」の謙譲語「おぼす」の終止形
エ　「思ふ」の謙譲語「おぼす」の連体形
オ　「思ふ」の丁寧語「おぼす」の連体形

〈Memo〉

第27講　PART3　確認問題

①　傍線部の意味・用法の説明として適当でないものを、次の中から選べ。

ア　おぼし浮かれにし心、しづまりがたうおぼさるるけにや、…
→尊敬の本動詞「おぼす」の未然形

イ　綾小路宮（あやのこうぢのみや）のおはします小坂殿（こさかどの）の棟（むね）に、…
→尊敬の本動詞「おはす」の連体形

ウ　殿上の小庭に畏（かしこ）まつてぞ候ひける。
→謙譲の本動詞「候ふ」の連用形

エ　徳大寺にもいかなるゆゑか侍りけん。
→丁寧の本動詞「侍り」の連用形

②　傍線部が謙譲の本動詞であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　「その月、何のをり、その人のよみたる歌はいかに。」と問ひ聞こえさせたまふを、…

イ　「大将殿をぞ豪家（かうけ）には思ひ聞こゆらむ。」など言ふ。

ウ　恋しう思ひ出（い）で聞こえたまひて、…

エ　「夜（よ）ふけはべりぬ。」と聞こゆれど、…

③「あいなき事のついでをも聞こえさせてけるかな。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　困ったことのきっかけをお聞きになるものだ。
イ　困ったことのきっかけを聞かせなさるものだ。
ウ　困ったことのきっかけを申し上げるものだ。
エ　困ったことのきっかけを聞き申し上げるものだ。

④「不覚におほとのごもりぬ。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　不意にお隠れになった。　　イ　正体なくお眠りになった。
ウ　なかなか寝つけなかった。　エ　気づかずにお帰りになった。

⑤　傍線部が同じ敬語の種類の組み合わせになっているものを、次の中から選べ。

「あはれ、ただ今の事は(a)聞こえさせ侍りなむかし。」
「いづら、少将（せうしやう）の君」と(b)のたまへば、…
宮人（みやびと）いみじき大事（だいじ）にて、御祈り（いの）などさまざま(c)仕う（つか）まつる。
いかなる所にか、この木は(d)さぶらひけん。

ア　a・c　　イ　b・c　　ウ　c・d　　エ　a・c・d　　オ　b・c・d

第28講　補助動詞２つの給ふ

PART1　２つの給ふ・謙譲の補助動詞給ふの特徴

★補助動詞　２つの「給ふ」

敬語の種類	活用の種類	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形
	四段活用						
	下二段活用						

●「給へ」の場合→「　　」（＝活用形）確認。

（例）

思ひ**給へ**ず。

渡らせ**給へ**れば、…

「忠度。」と名のり**給へ**ば、…

★謙譲の補助動詞「給ふ」の特徴

①「　　　」・「　　　」で使用。

（例）「忠度」と名のり**給へ**ば、…
「この際まで立ち寄らせ**給へ**。」とのたまへば、…

②「　　」・「　　」・「　　」・「　　」・「　　」にしか付かない。

（例）「この際まで立ち寄らせ**給へ**。」とのたまへば、…
「～聞き**たまへ**て…」

③主語は「　　」（＝　　　）

④訳は「～　　　」・（「～　　　」）

⑤敬意の方向＝聞き手に対する敬意

第28講 PART1 確認問題

① 「たまふ」に関する説明文の空欄[A]〜[F]に入る語として最も適当なものの組み合わせを、次の中から選べ。

「たまふ」は、四段活用の場合は[A]の意味で、下二段活用の場合は[B]の意味となる。四段活用の場合は動詞としても[C]としても自由に用い、地の文、[D]ともに無関係に用いる。下二段活用の場合は多くは「思ふ」「見る」「聞く」に続く[E]としての用法にほぼ限られ、[F]に集中して用いられる。

ア　謙譲・謙譲・助動詞・会話文・補助動詞・地の文
イ　尊敬・謙譲・補助動詞・会話文・補助動詞・会話文
ウ　尊敬・謙譲・助動詞・会話文・補助動詞・地の文
エ　謙譲・謙譲・助動詞・会話文・補助動詞・会話文
オ　尊敬・謙譲・補助動詞・会話文・助動詞・会話文
カ　謙譲・尊敬・補助動詞・会話文・補助動詞・地の文

② 空欄にあてはまる語として最も適当なものを、次の中から選べ。

（私は）去ぬる朔日(ついたち)の日の夢に、さま異(こと)なるものの告げ知らすることはべりしかば、信じ難(がた)きことと思ひ[　　]しかど、…

ア　給ひ　　イ　給へ　　ウ　給はり　　エ　給はれ

③　傍線部が謙譲の補助動詞であるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　殿、「とく御紐とかせ給へ。事破れ侍りぬべし」とおほせられ…

イ　「…、この見たまふるわたりより、情（なさけ）なくうたてあることをなむ、…」とて、涙ぐみたり。

ウ　「よし、異時（ことどき）は知らず、こよひはよめ。」など責めたまへど、…

エ　「左近（さこん）の中将、みな着きたまふ。」と言へど、…

④　傍線部の敬語の種類として最も適当なものを、次の中から選べ。

涙ぐませたまへる、…

ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語

⑤　傍線部のうち、補助動詞でないものを次の中から選べ。

皇子（みこ）の君、千日いやしき匠らともろともに同じ所に隠れゐ^{ア}給ひて、かしこき玉の枝作らせ^{イ}給ひて、官（つかさ）も^{ウ}給はんとおほせ^{エ}給ひき。これをこの頃按（あん）ずるに、御つかひとおはしますべきかぐや姫の要じ^{オ}給ふべきなりけり、とうけたまはりて、…

PART2 練習問題（給ふ）

問一 傍線部の敬語の種類として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

「思う<u>たまへ</u>[a]られし…」

「習ひ<u>たまへ</u>[b]る…」

ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語

a＝　　　b＝

問二 「今宵、夜ひと夜思し騒ぐを<u>見給へ</u>つれば、…」の傍線部の活用の種類と敬語の種類について答えよ。

問三 次の傍線部のうち、敬語の種類の異なるものを一つ選べ。

「～なほたち返り紅葉もいかにと思ひ<u>たまへ</u>[ア]てなむ。旅寝もしつべき木のもとにこそ」とて、見出だし<u>たまへ</u>[イ]り。〈中略〉「さま変り<u>たまへ</u>[ウ]らんさまを、いささか見せよ」と、少将の尼にのたまふ。「それをだに、契りしるしにせよ」と責め<u>たまへ</u>[エ]ば、…

問四　「憚りあるまじうなん見給ふる。」の「給ふる」と敬語の種類が同じものを、次の中から選べ。

ア　聞えさせ給ひて…
イ　思ひ給へしなり。
ウ　違へさせ給ふな。
エ　ねびまさらせ給へるを…
オ　見奉り給ふ御気色…

問五　次の傍線部の中には、敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）が他と異なるものが一つ含まれている。その語を選べ。

「〜われよりほかのとのみ、ア思ひたまへつつ過ぐしはべる…」
「ただいかにもイのたまはするままにとウ思ひたまふるを、…」
「見苦しきことにエ聞こえさすらむ。」

問六　「まかり出でて見給へむと思ひ給へしに、年はまかり老いにたり、…」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　（陽成院が）御覧になると思いましたが
イ　（陽成院が）御覧になるはずがないと思いましたので
ウ　拝見しようと思いましたが
エ　見るのを諦めようと思ったのですが
オ　孫が姿を現すのを期待していたのですが

第28講 PART2 確認問題

① 傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

「…うちうちに、思ひたまふるさまを*奏したまへ。ゆゆしき身にはべれば、かくておはしますも、いまいましう、かたじけなく。」などのたまふ。

注　奏す…帝に申し上げる。

ア　思いなさる様子を、帝にお申し上げください
イ　思っていただく様子を、帝に申し上げてください
ウ　思い申し上げる様子を、帝に申し上げなさい
エ　お思いになる様子を、帝に申し上げさせてください
オ　思っております様子を、帝に申し上げなさってください

② 「『*さばかりの人の、むげにこそ心弱きけしきを、*人の国にて*見え［　　］けれ。』と、…」の空欄にあてはまる語として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　さばかりの人…ここでは、身分の高い人を指している。
人の国…他の人の国。
見え…見せる。

ア　給ひ　イ　給ふ　ウ　給へ　エ　給ふれ

③ 傍線部のうち、他と意味が異なるものを次の中から選べ。

ア 「これをと思ひ給ひね。人ないたくわびさせたてまつらせ給ひそ。」と言ひて、…

イ 「後（のち）の世に願ひはべる所のありさまも、思うたまへやらるる夜（よ）のさまかな。」と、…

ウ 「総門は錠のさされてさぶらふぞ。東面（ひがしおもて）の小門（こもん）より入らせたまへ。」と申しければ、…

エ 「これに都より流されたまひし丹波少将殿（たんばのしょうしょうどの）、法勝寺執行（ほっしょうじのしゅぎゃう）の御房（ごぼう）、平判官（へいはうぐわん）入道殿やおはする。」と、…

④ 空欄には、「たまふ」があてはまる。正しく活用させたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

神仏のあはれびおはしまして、しばしのほど御心（み）をも悩まし奉るにやとなむ思う［　　］。

ア たまひ　　イ たまへ　　ウ たまふれ　　エ たまふる

⑤ 「見る目の情（なさけ）をば、え頼むまじく思うたまへえてはべる。」の傍線部と同じ活用形のものを、次の中から選べ。

母御息所（みやすどころ）は、影だにおぼえ（ア）たまはぬを、「いとよう似（イ）たまへり。」と、典侍（ないしのすけ）の聞こえけると、若き御心地（みここち）に、いとあはれと思ひ聞こえ（ウ）たまひて、常に参らまほしう、なづさひ見奉らばやと、おぼえ（エ）たまふ。

PART1　本動詞奉る・参る

★『2種類ある敬語本動詞』

●「覚えておくべき**尊敬語**」

敬語動詞	訳	通常語
参る 奉る	お召しになる	着る
	召しあがる	食ふ・飲む
	お乗りになる	乗る

●「覚えておくべき**謙譲語**」

敬語動詞	訳	通常語
奉る	差し上げる	与ふ
（参る）	（参上する）	（行く・来）
侍り 候ふ	お仕えする	仕ふ

●「覚えておくべき**丁寧語**」

敬語動詞	訳	通常語
侍り 候ふ	あります・おります	あり・居り

★本動詞の「奉る」と「参る」→「　　」か「　　」

「　　」
「　　」｛「　　」お召しになる
「　　」召しあがる
「　　」お乗りになる

（例）

宮は、白き御衣どもに紅の唐綾をぞ上に**奉り**たる。

（体調が悪くて）物もつゆばかり**参ら**ず。

御車に**奉り**て…

「　」＝「　」「　（「参る」のみ）」

（例）

「（銀の軟挺（＝銀貨））三つをば**奉ら**ん。」と言ひて、…

宮（＝中宮様のもと）に初めて**参り**たるころ、…

問七　次の傍線部を現代語訳せよ。

① 御文奉りたまふ。

② 右大弁の子のやうに思はせて率て奉る。

③ ほかにて酒など参り、酔ひて…。

④ 親王（みこ）に馬頭（うまのかみ）（＝馬寮（めれう）の長官）、大御酒（おほみき）参る。

問八　傍線部a・bについて。傍線部aを七字以内の現代語で言い換えよ。また、傍線部bは、ここではどういう意味の語の尊敬語か。次の中から最も適切なものを選べ。

「壺なる御薬たてまつれ。穢き所の物きこしめしたれば、御心地悪しからむものぞ」とて、持て寄りたれば、いささかなめたまひて、…

a＝

b　ア　聞く　　イ　触る　　ウ　嗅ぐ
　　エ　食ふ　　オ　着る　　カ　見る

第29講 PART1 確認問題

① 傍線部は、この場合どのような意味に使われているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

御袴着(はかまぎ)のこと、一の宮の奉りしに劣らず、…

ア 召し上がる　イ お乗りになる　ウ お召しになる　エ 申し上げる

② 傍線部には、通常語が他と異なるものが一つ含まれている。その語として最も適当なものを、次の中から選べ。

「夜(よ)の明け果(は)てぬ先に御舟に(ア)奉れ。」

わが御かたにて、御直衣(なほし)などは(イ)奉る。

女御(にょうご)殿、対(たい)の上は、ひとつに(ウ)奉りたり。次の御車には、明石(あかし)の御方、…

御輿(こし)に(エ)たてまつりて後に、…

③　傍線部の敬語の種類と現代語訳の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

※さぶらひにまかで給ひて、人々大御酒など参るほど、…

注　さぶらひ……詰め所

ア　尊敬語・召し上がる　　イ　尊敬語・お召しになる　　ウ　謙譲語・お飲みになる　　エ　謙譲語・参上する

④　二つの傍線部は同じ意味で使われている。その意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「何をか奉らむ。まめまめしきものは、まさなかりなむ。ゆかしくし給ふものを奉らむ。」

ア　お乗りになる　　イ　お召しになる　　ウ　お食べになる　　エ　差し上げる

⑤　傍線部の敬語の種類と現代語訳の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「今日宮に参りたりつれば、いみじうものこそあはれなりつれ。」

ア　尊敬語・お召しになる　　イ　尊敬語・お乗りになる

ウ　謙譲語・参上する　　エ　謙譲語・お仕えする

PART2　本動詞侍り・候ふ／3種類の聞こゆ

★本動詞の「侍り」と「候ふ」→「　」か「　」

「　」＝あります・おります

（例）何の悔いか**はべら**む。

「　」＝「　」

※貴人に／貴人がいる場所に ＋ 侍り／候ふ ＝「　」の本動詞

（例）後一条院の中宮に**侍り**ける出雲の御(ご)といふが…

問九　傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「＊1悦は、＊2近衛殿（このゑどの）（応山公）に侍りて、筆法を学び奉りけり。」

＊1　悦＝本阿弥光悦（こうえつ）。安土桃山時代から江戸時代初期の書家・工芸家。
＊2　近衛殿＝江戸時代初期の公家・近衛信尋（のぶひろ）。後陽成（ごようぜい）天皇の皇子で、近衛家を継ぎ関白となる。優れた書を残す。

ア　取り入って　　イ　警護を任されて　　ウ　気に入られて
エ　お仕えして　　オ　期待されて

★3種類の「聞こゆ」

● 「　」の補助動詞

（例）恋ひ**聞こゆ**。

● 「　」の敬語動詞（本動詞）

（例）上〔＝帝〕に「かく」と**聞こゆれ**ば、…

● 普通動詞

①聞こえる　（例）箏の琴の音ほのぼの**聞こゆ**。

②うわさされる・世に知られる　（例）人々は、世に**聞こゆる**ことどもて、…

③理解される・わけがわかる　（例）**聞こえ**ぬことども言ひつつ、…

〈Memo〉

第29講　PART2　確認問題

①「侍り」「候ふ」に関する説明文の空欄ａ・ｂに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

本動詞の「侍り」「候ふ」は、［ａ］か丁寧語である。丁寧語では、「あります・おります」と訳す。「貴人に＋侍り〔候ふ〕」「貴人がいる場所に＋侍り〔候ふ〕」という文脈の場合は［ａ］で、「［ｂ］」と訳す。

ア　ａ　尊敬語　ｂ　いらっしゃる　　イ　ａ　尊敬語　ｂ　お与えになる
ウ　ａ　謙譲語　ｂ　お仕えする　　エ　ａ　謙譲語　ｂ　差し上げる

②　傍線部は、この場合どのような意味に使われているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

「北山になむ、なにがし寺（でら）といふところに、かしこき行（おこ）なひ人侍る。」

ア　いらっしゃる　　イ　参上する　　ウ　おります　　エ　いる

③　傍線部ア～エの中には、敬語の種類と意味が他と異なるものが一つ含まれている。その語として最も適当なものを、次の中から選べ。

「物語の多く候ふなる、ある限り見せ給へ。」
宮の御前近く候ひて、もの啓しなど、…
明くるまで月見ありくこと侍りしに、…
徳大寺(とくだいじ)にもいかなるゆゑか侍りけん。

④　傍線部は、この場合どのような意味に使われているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

御いらへもえ聞こえ給はず、まみなどもいとたゆげにて、…

ア　申し上げる　　イ　おっしゃる　　ウ　うわさされる　　エ　お聞きになる

⑤　傍線部に関する文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

かしこき御蔭(みかげ)をば、頼み聞こえながら、…
琵琶(びは)の風香調(ふかうでう)ゆるるかに弾(ひ)き鳴らしたる、いといみじく聞こゆるに、…

ア　aは尊敬の補助動詞、bは謙譲の補助動詞　　イ　aは尊敬の動詞、bは普通動詞
ウ　aは謙譲の動詞、bは謙譲の補助動詞　　エ　aは謙譲の補助動詞、bは普通動詞

第30講　敬意の方向

PART1　敬意の方向・敬語の重なる順番

★敬意の方向

「誰から誰に対する敬意か」「誰への敬意か」

（例）帝、少将に聞き奉り給ひ侍り。

★「誰から」→敬語の「　　　」確認。

●**地の文**＝「　　　」から。

●**会話文**＝「　　　」から。

★**「誰へ」**→敬語の「　　」確認。

●**尊敬語**＝**主体**（～　・　）へ

●**謙譲語**＝**客体**（～　・　）へ

●**丁寧語**　→　敬語の「　　」確認。

- **地の文**＝「　　」へ
- **会話文**＝「　　」へ

★**敬語の重なる順番**＝

（例）女御、更衣あまた**候ひ**給ひける中に、…

第30講　PART1　確認問題

① 空欄ａ・ｂに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「宣耀殿（せんえうでん）の女御、かたちをかしげにうつくしうおはしけり。」の傍線部は、「［ａ］」という意味の尊敬語である。地の文で用いられているため、［ｂ］から宣耀殿の女御への敬意を表す。

ア　ａ　いらっしゃる　　ｂ　作者
イ　ａ　おっしゃる　　ｂ　作者
ウ　ａ　お仕えする　　ｂ　語り手
エ　ａ　申し上げる　　ｂ　語り手

② 空欄ａ・ｂ・ｃに入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「誰から誰への敬意か」の「誰へ」を考えるときは、その敬語の種類を確認する。［ａ］の場合は主体（～は・が）へ、［ｂ］の場合は客体（～を・に）への敬意である。丁寧語の場合は、地の文であれば［ｃ］へ、会話文であれば聞き手への敬意である。

ア　ａ　尊敬語　　ｂ　謙譲語　　ｃ　主体
イ　ａ　尊敬語　　ｂ　謙譲語　　ｃ　読者
ウ　ａ　謙譲語　　ｂ　尊敬語　　ｃ　主体
エ　ａ　謙譲語　　ｂ　尊敬語　　ｃ　読者

③　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

近衛府（このゑづかさ）にさぶらひける翁（おきな）、…

ア　尊敬語・翁から近衛府への敬意　　イ　尊敬語・作者から翁への敬意
ウ　謙譲語・翁から近衛府への敬意　　エ　謙譲語・作者から近衛府への敬意

④　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

(中宮のもとに) 中納言殿参り給ひて、御扇奉らせ給ふに、…

ア　「参り」は中宮を敬う謙譲表現、「給ひ」は中納言殿を敬う尊敬表現である。
イ　「参り」は中宮を敬う尊敬表現、「給ひ」は中納言殿を敬う丁寧表現である。
ウ　「参り」は中納言殿を敬う謙譲表現、「給ひ」は中宮を敬う尊敬表現である。
エ　「参り」は中納言殿を敬う尊敬表現、「給ひ」は中宮を敬う謙譲表現である。

⑤　傍線部は、誰から誰に対する敬意を表しているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

(法師は) かたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。…」とぞ言ひける。

ア　作者からかたへの人に対する敬意　　イ　作者から読み手に対する敬意
ウ　法師からかたへの人に対する敬意　　エ　法師から読み手に対する敬意

PART2 練習問題（敬意の方向）

問一 傍線部に用いられている敬語の説明として、最も適当なものを次の中から選べ。

重景（しげかげ）かしこまつて、「何の御慎みか候ふべき。上人をば生身の仏と承る。～」など、こざかしく申しければ、…

ア　語り手から法然上人への敬意を表す謙譲語
イ　語り手から三位中将への敬意を表す謙譲語
ウ　重景から法然上人への敬意を表す謙譲語
エ　重景から三位中将への敬意を表す丁寧語
オ　法然上人から三位中将への敬意を表す謙譲語
カ　法然上人から三位中将への敬意を表す丁寧語

問二 傍線部の説明として正しいものはどれか。次の中から選べ。

東三条院、石山にまうでて還御有りけるに、…

東三条院＝長保三（一〇〇一）年九月に石山寺に参詣し、その年の閏十二月に亡くなった。
石山＝石山寺。近江の国（現滋賀県）の古寺。

ア　謙譲語。作者から石山寺への敬意。
イ　尊敬語。東三条院から石山寺への敬意。
ウ　謙譲語。作者から東三条院への敬意。
エ　謙譲語。東三条院から石山寺への敬意。
オ　尊敬語。作者から石山寺への敬意。

問三　次の傍線部はそれぞれ誰に対する敬意を表しているか答えよ。

「蔵人の少将が、まづ<u>召す</u>[a]」と言ふめれば、…
（蔵人の少将が）三の君に「これ（＝手紙）見給へ。惟成が落としたりつるぞ」とて<u>奉り</u>[b]<u>給ふ</u>[c]。

a＝
b＝
c＝

問四　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

公助が将どもに、「父の年八十に罷(まか)り余りたるは。『いたう腹を立て、逃げむを追ひ候はむ程、倒れもこそ仕れ』と思ひ<u>給へ</u>て、打たれ臥して候ひつるなり」と答へつれば、将どもいとほしかりにけり。

ア　将達を敬う尊敬表現
イ　将達を敬う謙譲表現
ウ　将達を敬う丁寧表現
エ　公助を敬う尊敬表現
オ　公助を敬う謙譲表現

問五　傍線部を説明した文の空欄に入れる語として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

＊泉（いづみ）の大将、＊故左のおほいどのにまうでたまへりけり。ほかにて酒などまゐり、酔（ゑ）ひて、夜（よ）いたくふけて、ゆくりもなくものしたまへり〔＝突然おいでになった〕。＊大臣（おとど）おどろきたまひて、「いづくにものしたまへるたよりにかあらむ」など<u>聞こえたまひ</u>て、御（み）格子あげさわぐに、…

注　泉の大将…藤原定国。
故左のおほいどの…藤原時平。
大臣…藤原時平。

「聞こえ」は［A］に対する［B］、「たまひ」は［C］に対する［D］。

ア　泉の大将　　イ　故左のおほいどの　　ウ　語り手　　エ　読者

オ　尊敬語　　カ　謙譲語　　キ　丁寧語

A＝　　B＝　　C＝　　D＝

〈Memo〉

第30講　PART2　確認問題

① 傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

（聖海上人（しょうかいしょうにん）は）神官を呼びて、「この御社（みやしろ）の獅子（しし）の立てられやう定めてならひあることに侍らん。ちと承らばや」と言はれければ、…

ア　作者から聖海上人への敬意を表す尊敬語　　イ　作者から神官への敬意を表す謙譲語
ウ　聖海上人から神官への敬意を表す謙譲語　　エ　聖海上人から神官への敬意を表す尊敬語

② 傍線部の中には、敬意の方向が他と異なるものが一つ含まれている。その語として最も適当なものを、次の中から選べ。

夜うちふくるほどに、（中宮は）題出（いだ）して、女房にも歌よませ給ふ（ア）。みなけしきばみゆるがしいだすに、（私は）宮の御前近く候ひ（イ）て、もの啓し（ウ）など、ことごとをのみ言ふを、大臣（おとど）御覧じ（エ）て「など、歌はよまで、むげに離れゐたる。題とれ」とて給ふを、…

③ 傍線部は誰から誰に対する敬意を表しているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

（人々が）「夜（よ）ふけ侍りぬ。」と聞こゆれど、（光源氏は）なほ入（い）り給はず。

ア　人々から光源氏に対する敬意　　イ　人々から読者に対する敬意
ウ　作者から光源氏に対する敬意　　エ　作者から読者に対する敬意

④　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

*帥殿（そちどの）の南の院にて、人々集めて弓あそばししに、*この殿のわたらせ給へれば、思ひかけず、あやしと*中ノ関白殿おぼしおどろきて、いみじう饗応（きやうおう）し〔＝もてなし〕申させ給ひて、…

注　帥殿…藤原伊周（ふじわらのこれちか）。
　この殿…藤原道長（みちなが）。
　中ノ関白殿…藤原道隆（みちたか）。伊周の父。

ア　「申さ」はこの殿に対する丁寧語、「給ひ」は中ノ関白殿に対する謙譲語である。
イ　「申さ」は中ノ関白殿に対する謙譲語、「給ひ」はこの殿に対する尊敬語である。
ウ　「申さ」はこの殿に対する謙譲語、「給ひ」は中ノ関白殿に対する尊敬語である。
エ　「申さ」は中ノ関白殿に対する丁寧語、「給ひ」はこの殿に対する謙譲語である。

⑤　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

中将、人々引き具して帰り参（まゐ）りて、かぐや姫をえ戦ひ止めず成りぬる事、こまごまと奏す。

ア　「言ふ」の尊敬語で、作者から中将に対する敬意を表す。
イ　「言ふ」の謙譲語で、作者から天皇に対する敬意を表す。
ウ　「言ふ」の尊敬語で、中将からかぐや姫に対する敬意を表す。
エ　「言ふ」の謙譲語で、中将から天皇に対する敬意を表す。

解答

第16講　PART1　解答

問一　①　断定　②　存在　③　（伝聞）推定　④　断定

問二　エ

問三　イ

第16講　PART2　解答

〔例題〕　断定

問四　ウ

問五　（伝聞）推定

問六　①ア　②ア　③ウ　④ウ　⑤ア　⑥ウ
⑦ア　⑧ウ　⑨イ　⑩ウ　⑪ア　⑫イ

第17講 PART1 解答

問一　エ
問二　イ
問三　a ア　b イ　c ウ
問四　a ア　b ウ　c エ
問五　a イ　b ウ　c エ

第17講　PART2　解答

問六　a　カ　b　イ
問七　a　ア　b　エ
問八　a　ラ行四段活用動詞「なる」の連用形
b　伝聞推定の助動詞「なり」の終止形
問九　オ
問十　オ

第17講　PART3　解答

問十一　イ
問十二　そうであるようだ
問十三　エ

第18講　PART1　解答

問一　①　し…き　②　まほしけれ…まほし　③　ける…けり　④　れ…り
問二　ウ
問三　エ
問四　イ
問五　エ
問六　ウ
問七　べけれ
問八　A　ある　B　め

第18講　PART2　解答

問九　イ
問十　ウ
問十一　イ

第18講　PART3　解答

問十二　ア
問十三　イ
問十四　エ
問十五　1 ア　2 オ　3 キ
問十六　A ウ　B オ　C エ　D オ
問十七　イ
問十八　ア
問十九　エ

第19講 PART1 解答

問一　エ

問二　ウ

問三　ウ

問四　ア

問五　イ

第19講　PART2　解答

問六　ウ

問七　ア

第19講　PART3　解答

問八　ウ
問九　エ
問十　ア
問十一　①ア　②エ　③イ　④ウ
問十二　イ

第19講　PART4　解答

問十三　ア

第20講　PART3　解答

問一　①エ　②イ　③オ　④ア　⑤ウ
問二　イ
問三　イ
問四　イ
問五　a イ　b ウ　c ア
問六　エ

第21講　PART1　解答

問一　①　ウ　②　ア　③　イ

問二　イ

第22講 PART1 解答

問三　イ
問四　エ
問五　ア
問六　イ
問七　ウ
問八　x な　y そ

第22講　PART2　解答

問一　①　ウ　②　ア　③　イ

第23講　PART2　解答

問二　エ
問三　エ
問四　ウ
問五　エ

第23講　PART3　解答

問一　①ウ　②エ　③ア　④イ

問二　a　サ行変格活用動詞「す」の連用形

b　過去の助動詞「き」の連体形

第24講 PART1 解答

問三　ア
問四　エ
問五　カ
問六　ウ
問七　イ
問八　オ
問九　オ

第25講 PART3 解答

問一　ア
問二　イ
問三　a オ　b ウ
問四　ウ
問五　イ
問六　a イ　b オ　c ウ　d カ　e エ　f ア
問七　エ
問八　オ

第26講　PART1　解答

問一　エ
問二　エ
問三　イ
問四　な
問五　エ

第26講　PART2　解答

問六　イ
問七　エ
問八　ア
問九　ウ

第26講　PART3　解答

問十　エ
問十一　ア
問十二　イ
問十三　ウ
問十四　オ

第27講 PART2 解答

問一 a ウ　b カ

問二 ① ウ　② イ　③ ア

第27講　PART3　解答

問三　おぼ
問四　エ
問五　ウ
問六　おっしゃるな
問七　a　イ　b　カ（順不同）
問八　エ
問九　a　イ　b　ア
問十　ウ
問十一　エ
問十二　ア

第28講　PART2　解答

問一　a　イ　b　ア

問二　ハ行下二段活用・謙譲語

問三　ア

問四　イ

問五　イ

問六　ウ

第29講　PART1　解答

問七　①　差し上げなさる　②　引き連れ申し上げる
③　お飲みになり（召しあがり）　④　差し上げる

問八　a　お飲みなさい　b　エ

第29講　PART2　解答

問九　エ

第30講　PART2　解答

問一　エ

問二　ア

問三　a　蔵人の少将　b　三の君　c　蔵人の少将

問四　イ

問五　A　ア　B　カ　C　イ　D　オ

確認問題　解答

第16講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

①　傍線部は、助動詞「なり」の連体形（「ぞ」の結び）。「なる」の上が「聞こゆ」。「聞こゆ」はヤ行下二段活用の終止形。

②　「なり」なので、イ・ウ・エのどれかになる。「なり」の上が「事」＝体言。よって、ウが正解。

③　傍線部は、助動詞「なり」の已然形。「なれ」は「鳥」という体言についているので、断定の助動詞。

④　傍線部は、助動詞「なり」の終止形。上の「はべる」は「はべり」の連体形で、「なり」は断定の助動詞。

⑤　傍線部を含む「消え失せぬなり」は、「消え失す」の連用形「消え失せ」＋完了の助動詞「ぬ」の終止形＋伝聞の助動詞「なり」の終止形、からなる。アは「の」という格助詞、ウは「旅人」という体言、エは文脈と「見送る」の連体形についていることから、断定の助動詞「なり」。イはヤ行下二段活用「見ゆ」の終止形についているので、伝聞の助動詞「なり」である。

〔解答〕

①　オ　②　ウ　③　エ　④　ウ　⑤　イ

第16講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「たる」は完了の助動詞「たり」の連体形であるが、ラ変型活用であるので、接続では「なり」が断定か伝聞・推定かの識別はできない。ただし会話文で一人称と思われるため、断定の助動詞と判断する。よって、エが正解。

② 「あんなり」は、ラ行変格活用動詞「あり」の連体形「ある」の撥音便（「あん」）に伝聞の助動詞「なり」がついたもの。

③ 「なら」は断定の助動詞「なり」の未然形で、活用する語の連体形につく。

④ アはサ行変格活用動詞「す」の連体形に断定の助動詞「なり」がついたもの。他はラ行変格活用の連体形（イ・エは撥音便）に伝聞・推定の「なり」がついたものである。

⑤ 「なるなり」の「なる」はラ行四段活用の終止形。「なり」は伝聞の助動詞。下に「～といふ」とあることからも伝聞とわかる。したがって、「心が違ってしまうということです」という意味になる。

〔解答〕

① エ　② イ　③ イ　④ ア　⑤ エ

第17講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 上の「する」は、動詞「す」の連体形。それに続く「なり」なので、断定の助動詞である。よって、ウが正解。

② ア・イ・エは形容動詞の活用語尾。ウは断定の助動詞である。よって、ウが正解。

③ 「なる」が接続する「近う」は、形容詞ク活用「近し」の連用形「近く」がウ音便化したもの。したがって「近うなれ」は「近くなる」と訳すことができるので、ここでの「なれ」は、動詞「なる」の已然形だとわかる。よって、イが正解。

④ 「物思ふなる」の「なる」とアの「なり」は、伝聞・推定の助動詞「なり」。イは断定の助動詞。ウは動詞の「なる」。エは形容動詞の活用語尾。よって、アが正解。

⑤ イは形容動詞の活用語尾。ア・ウ・エは断定の助動詞。よって、イが正解。

〔解答〕

①ウ　②ウ　③イ　④ア　⑤イ

第17講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 傍線部の上の「等しかん」は、形容詞「等し」の連体形「等しかる」が撥音便になったもの。「なり」は伝聞推定の助動詞で、ラ変型の活用語の場合は、その連体形につく。

② イは「わざ」という体言に断定の助動詞「なり」がついたもの。ア・ウ・エの傍線部は伝聞推定の「なり」。上の「ざ」は打ち消しの助動詞「ず」の連体形「ざる」が撥音便になったもの。エは係り結びで已然形になっている。

③ 傍線部の「なり」とウは断定の助動詞。ウは連体形「なる」が撥音便になったもの。ア・イ・エは伝聞推定の助動詞。

④ 傍線部の「な」は断定の助動詞「なり」の連体形「なる」が撥音便になったもの。

⑤ 「なめり」は、断定の助動詞「なり」の連体形に推定の助動詞「めり」がついた「なるめり」が撥音便化したもの。

〔解答〕

① エ　② イ　③ ウ　④ ア　⑤ ウ

第17講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

①「めり」は推定・婉曲の助動詞だが、選択肢には婉曲がない。よって、オが正解。

②「なめり」は断定の助動詞「なり」の連体形「なる」に、推定の助動詞「めり」の終止形がついた「なるめり」が撥音便化（「な（ん）めり」）したもの。よって、アが正解。

③「めれ」は推定の助動詞「めり」の已然形。「泣くようだが」という意味になる。よって、アが正解。

④「らし」は推定の助動詞。「〜らしい」「〜にちがいない」という訳になる。よって、エが正解。

⑤ア・イは推定、エは推量の助動詞。ウは断定の助動詞。よって、ウが正解。

〔解答〕

①オ　②ア　③ア　④エ　⑤ウ

第18講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 係助詞の種類によって「結びの語」を考える問題。上の部分に「なん」があるので、係り結びの法則により、結びの語は助動詞「けり」の連体形となる。

② 助動詞「けん」が「けん」の形となるのは終止形か連体形の場合であるが、ここは上に係助詞「か」があるので、係り結びの法則により文末は連体形となる。

③ 「結びの語」は、上に係助詞があることで形を変える部分のことである。係助詞よりも下にあり、文末の一単語のみが該当する。

④ 「結びの語」によって係助詞の種類を考える問題。文末が助動詞「けり」の已然形「けれ」となっていることに着目する。係助詞「こそ」のみ、結びが已然形となる。

⑤ 「結びの語」によって係助詞の種類を考える問題。「こそ」が上にある場合のみ、結びの語は已然形となる。「ぞ」「なむ」「や」「か」がある場合は、結びの語は連体形となる。「るれ」は助動詞「る」の已然形、「近き」は形容詞「近し」の連体形、「たる」は助動詞「たり」の連体形。

〔解答〕

① ウ　② エ　③ エ　④ オ　⑤ ウ

第18講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「ぞ・なむ・こそ」は「強意」、「や・か」は「疑問・反語」という文法的意味を持つ。

② 「や」は「疑問・反語」のいずれかの文法的意味を持つ係助詞。「やは」の形で用いられると反語であることが多い。発話部の文意は「これはどうしたことか。こんなことがあってよいのか（、いや、よいはずがない）。」となる。

③ 「こそ」は「強意」の文法的意味を持つ係助詞。文末の「はべれ」はラ行変格活用動詞「はべり」の已然形か命令形であるが、ここは係り結びの法則により已然形。

④ 文脈から判断し、文末の「や」は「疑問」の意味で使われている。よって、「～か」という疑問の形に訳す。

⑤ 「や」は「めや（は）」の形で和歌の中に用いられる場合は反語。「～か、いや、～」という反語の訳と一致する解釈を選ぶ。「め」は推量の助動詞「む」の已然形。

〔解答〕

① ウ　② エ　③ エ　④ ア　⑤ ウ

第18講 PART3 確認問題 解答

〔解説〕

① 結びの省略の問題。「に」が係助詞「こそ」の上に来ているので、「あらめ」が省略されている。

② 結びの省略の問題。「と」が係助詞「ぞ」の上に来ているので、「言ふ・思ふ」などが省略されている。

③ 結びの流れの問題。本来であれば係助詞「ぞ」があるため「をかしき」と連体形で結ぶべきところが、已然形に接続する接続助詞「ど」が下につく事によって、結びの語が「をかしけれ」と已然形となってしまっている。このような形となる事を、係り結びの「結びの流れ」という。

④ 現代語訳に気をつける係助詞の使い方として、「危惧の用法」についての問題。係助詞「ぞ・こそ」に「も」がつき、「もぞ・もこそ」の形で使われる場合、「～したら困る・大変だ」という形に訳す。

⑤ 現代語訳に気をつける係助詞の使い方として、「逆接強調法」についての問題。「こそ～已然形、～」というように、結びの語の後に読点がつき下に文章が続いている場合、逆接の用法となり、「～けれども」、「～が」と訳す。

〔解答〕

① ア　② ウ　③ ウ　④ ア　⑤ イ

第19講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 選択肢の中で接続助詞は「て」のみ。よって、イが正解。

② エのみ上が「未然形」で仮定条件。他は全て上が「已然形」で確定条件。よって、エが正解。

③ 上に過去の助動詞「けり」の已然形「けれ」があるので、順接の確定条件で訳す。よって、正解はア。

④ 「たり」の接続と、「ば」の上に来る語の活用形による意味の違いを考えるとよい。「捕らふ」の活用形が「未然形」と「連用形」に分かれているが、完了の助動詞「たり」の上は連用形。よって、アとウは削る。残った選択肢で「ば」の文法的意味が確定条件か仮定条件かに分かれるが、上に「未然形」が来る場合は「仮定条件」。よって、正解はエ。

⑤ 「なれ」は断定の助動詞「なり」の已然形。上に已然形が来るときの「ば」は順接の確定条件。「〜ので」という訳ができる。よって、ウが正解。

〔解答〕

① イ　② エ　③ ア　④ エ　⑤ ウ

第19講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「あり」はラ行変格活用動詞の連用形か終止形。下の「とも」は終止形に接続する。よって、ウが正解。

② 「とも」は逆接の仮定条件を表す接続助詞。「たとえ～としても」という訳ができている。よって、アが正解。

③ 「なり」はラ変型に活用する助動詞。接続助詞「ど」の上には已然形が来る。よって、エが正解。

④ 「ども」は逆接の確定条件を表す接続助詞で、上に已然形が来る。よって、ウが正解。

⑤ 「ども」は逆接の確定条件を表すので、「～けれども」という訳ができている。よって、アが正解。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ エ　④ ウ　⑤ ア

第19講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

①「言ふ」はハ行四段活用動詞。接続助詞「で」の上には未然形が来る。よって、アが正解。

②「来る」はカ行変格活用動詞の連体形。選択肢の中で連体形に接続する接続助詞は「に」のみ。よって、イが正解。

③「数量＋ながら」なので、「全部・〜中」の意味。他の意味は「ながら」にはない。よって、エが正解。

④接続助詞「つつ」は、反復（〜ては）あるいは継続（〜し続けて）の意味。よって、アが正解。

⑤「ものを」は、文末にあるときは不満や残念な気持ちを込めた詠嘆の終助詞として「〜のになあ」と訳す。よって、アが正解。

〔解答〕

①ア　②イ　③エ　④ア　⑤ア

第19講　PART4　確認問題　解答

〔解説〕

① 傍線部下の「て」は、「接続助詞の『て』」、「完了の助動詞『つ』の未然形もしくは連用形」のいずれかと考えられるが、どちらの場合も上は連用形である。よって、正解はイ。

② 下に助動詞がある場合の「て」は完了の助動詞「つ」の未然形か連用形である。「けり」は連用形接続。よって、正解はエ。

③ 下に助動詞はないので、傍線部の「て」は単純接続を表す接続助詞の「て」である。よって、ウが正解。

④ 「て」の接続と、下に助動詞があることから考えるとよい。「て」の上は必ず連用形。よって、ウとエは削る。また、下に助動詞が来る場合の「て」は完了の助動詞の未然形か連用形で、「む」は未然形接続。よって、アが正解。

⑤ アは、下が助動詞「む」なので、傍線部も助動詞。イは、下が接続助詞「ば」だが、「てば」「てばや」の「て」は助動詞。ウは、下が助動詞「けり」なので、傍線部も助動詞。エは、下が「歩む」で助動詞ではないため、傍線部は接続助詞。よって、エが正解。

〔解答〕

① イ　② エ　③ ウ　④ ア　⑤ エ

第20講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 格助詞は、上の語が他（下）の語に対して文中でどのような関係にあるかを示す助詞である。よって、カが正解。

② 格助詞は、体言または活用語の連体形に接続する。ア直前の「おもしろく」は形容詞の連用形、イ直前の「咲き」は四段動詞「咲く」の連用形、ウ直前の「桜」は体言、エ直前の「をかしけれ」は形容詞「をかし」の已然形。よって、正解はウ。動作の対象を表す「を」が入る。

③ 「たまふ」は終止形もしくは連体形。格助詞は活用語の連体形に接続する。よって、エが正解。

④ 格助詞は、体言または活用語の連体形に接続するので、尊敬の助動詞「らる」の連体形「らるる」となる。よって、ウが正解。

⑤ それぞれ接続している直前の語を確認する。アウは体言に接続している格助詞だが、エはガ行上二段活用動詞「過ぐ」の連用形に接続しているので、格助詞ではない。また、イは引用を表す格助詞である。

〔解答〕

① カ　② ウ　③ エ　④ ウ　⑤ エ

第20講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「法師の」の「の」の下に、「物見る」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「法師」を入れて訳してみると、「法師で、登って木の枝にまたがって見物している者（＝法師）…」とおかしくないので、同格である。よって、ウが正解。

② イ・ウ・エは「体言＋の…体言」という形で、連体修飾格の意味。アのみ「の」の下に、「ひらける」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「桜」を入れて訳してみると、「桜で、つぼみが半分くらい開いているの（＝桜）…」とおかしくないので、同格の意味。よって、アが正解。

③ 「侘(わび)しげなる女の出でて」の部分だけが、「体言＋の…用言」の形をとる主格の意味。よって、アが正解。

④ 連体修飾格は、「体言＋が…体言」の形をとる。よって、「庄司(しやうじ)が旧館」、「わが国氏神正八幡」の二つが正解。よって、イが正解。

⑤ aは「人（体言）の得させ（用言）」という形で、「人が与えた」という意味なので主格。bは「木（体言）の枝（体言）」という形で、「木の枝」という意味なので、連体修飾格。cは「もの（＝なりひさこ）」を補って「～が」と訳せる。よって、エが正解。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ ア　④ イ　⑤ エ

第20講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 設問の傍線部「の」のすぐ下の「恐ろしげなる」が形容動詞の連体形である。そこに「の」の上の体言＝「虫」を入れて訳してみると、「たくさんの虫で、気味悪いような虫を取り集めて、…」とおかしくないので同格（もしくは「の」から連体形までを省いて、「たくさんの虫を取り集めて」と確認しても良い）。選択肢アは「が」と訳せるので主格。イは「の」の下に、「いふかひなき」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言を入れて訳してみると、「男の童（＝男の子の召し使いを指すことが多い）で、物怖じをせず、身分が低い男の童を召し寄せて…」とおかしくないので、これが正解。ウ、エは連体修飾格「の」。

② a「体言（＝人）」が「用言（＝申す）」にかかっていくので、この「の」は主格。b「体言（＝即位）」が「体言（＝日）」にかかっていくので、この「の」は連体格。c「の」の下に、「たる」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「頭（かしら）」を入れて訳してみると、「髪がついているものの頭で、血がついている頭を見つけた、…」とおかしくないので、同格。d「かばかり」は副詞で、「これほど・これくらい」という意味。「かばかり」は体言ではないが、「これくらいのこと」と「体言（＝こと）」にかかっていき、「の」のままでおかしくないので連体修飾格。よって、正解はア。

③ 「の」の下に、「なる」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「人」を入れて訳してみると、「出家した人で無一文の身である人が、家族が多い人が望みが深いことを見て、ひどく軽蔑するのは間違いである。」とおかしくないので、同格。よって、正解はイ。

④ a「の」の下に、「おぼしき」と連体形があるので、そこに「の」の上の体言＝「僧」を入れて訳してみると、「（錦を）

足にもはいている僧で、別当〔＝僧官の一つ〕と思われる僧が寄って来て、…」とおかしくないので、同格。b「体言〔＝親〕」が「用言〔＝あはすれ（＝結婚させようとする）〕」にかかっていくので、この「の」は主格。よって、正解はウ。

⑤　ここでは「あらぬ」と「たまふ」の下に「方」などの体言を補うことができる。よって、エが正解。

〔解答〕

①　イ　②　ア　③　イ　④　ウ　⑤　エ

第21講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 選択肢の中で、格助詞「して」の意味はア、イ、ウのどれかである。「書かせて」の「せ」が使役であることから、「返事は、おとなしき（＝思慮分別のある）人に命じて書かせた」と考えられる。よって、ウが正解。

② 設問は「徒歩(かち)より」（＝徒歩で）なので、手段の用法。選択肢から手段を探すとイのみ。よって、正解はイ。

③ 選択肢の中で、格助詞「より」の意味はア、イ、ウのどれかである。傍線部の上が、活用形の連体形や手段ではないので、経由の「西の御方から」と考えられる。よって、正解はア。

④ 「およびの血」が活用形の連体形ではないので、経由か手段・方法のどちらかである。手段・方法の「指の血で書きつけた」とすると、文意が通る。選択肢から手段・方法を探すとエのみ。よって、正解はエ。

⑤ 格助詞「より」の意味は、経由、即時、手段・方法である。「より」の意味で訳しているのは、イのみ。よって、正解はイ。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ ア　④ エ　⑤ イ

第21講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 格助詞「にて」に即時の意味はない。よって、正解はカ。

② 選択肢の中で、格助詞「にて」の意味はア、イのどちらかである。「（梨の花は）葉の色からはじめて、つまらなく見えるが、中国ではこのうえないものとして、漢詩にも作る…」と資格・状態で訳すと、文意が通る。よって、正解はア。

③ 選択肢の中で、格助詞「にて」の意味はウ、エのどちらかである。「奥にある家屋で酒を飲み、物を食べ、…」と場所で訳すと、文意が通る。よって、正解はウ。

④ 選択肢の中で、格助詞「にて」の意味はア、イ、ウのどれかである。「天の河のほとりに来たのを題として、和歌を詠み、杯に（酒を）注ぎなさい」と資格・状態で訳すと文意が通る。よって、正解はイ。

⑤ 選択肢の中で、格助詞「にて」の意味で訳しているのはウとエ。引用文は京という場所を示す用法である。よって、正解はエ。

〔解答〕

① カ　② ア　③ ウ　④ イ　⑤ エ

第22講 PART1 確認問題 解答

〔解説〕

① 「搦(から)む」は下二段活用なので、「搦(から)め」は未然形か連用形である。「ばや」は、連用形に接続する「ばや」はないので、未然形。文末にあることから自己願望の終助詞で、「～たい」という解釈になる。よって、アが正解。

② カ行四段活用「咲く」の未然形＋「なむ」＝他者願望の終助詞。よって、正解はア。

③ 禁止の終助詞は「な」か「そ」。選択肢に「な」がなく、設問文を確認すると、「な～［　］」と「な」と一緒に用いているので「そ」と考えられる。よって、正解はイ。

④ 終助詞「かな」は詠嘆の意味である。よって、正解はエ。

⑤ 終助詞「かし」は念押しの意味である。よって、正解はア。

〔解答〕

① ア　② ア　③ イ　④ エ　⑤ ア

第22講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「参詣せ」は「参詣する」と訳せるので、サ変動詞の未然形。傍線部「ばや」は未然形接続である。直後は引用の「と」なので、傍線部は文末と判断できることから、自己願望の終助詞である。よって、正解はオ。

② 「読ま」はマ行四段活用動詞の未然形だが、直後は「飽く」という動詞なので、傍線部は文中と判断できることから、終助詞ではなく、接続助詞「ば」仮定条件＋係助詞「や」である。よって、正解はイ。

③ 「見」はマ行上一段活用動詞の未然形か連用形だが、傍線部「ばや」の直後は引用の「と」なので、傍線部は文末と判断できることから、自己願望の終助詞である。よって、正解はア。

④ 「なら」は断定の助動詞「なり」の未然形で、傍線部「ばや」は未然形接続である。直後は読点で、文が続くので傍線部は文中と判断できることから、接続助詞「ば」仮定条件＋係助詞「や」である。よって、正解はイ。

⑤ ウの「出せ」はサ行四段活用動詞の已然形なので、傍線部「ばや」は已然形接続であるが、引用文の終助詞「ばや」は未然形接続である。ウは接続助詞「ば」確定条件＋係助詞「や」である。また、イは下二段活用動詞なので未然形か已然形になるが、文脈から願望の終助詞。よって、正解はウ。

〔解答〕

① オ　② イ　③ ア　④ イ　⑤ ウ

第23講　PART1　確認問題　解答

〈解説〉

① 下に「なし」と打消の言葉があることから、程度の類推を表す「だに」とわかるので、「〜さえも」という意味になる。よって、イが正解。

② 「すら」は程度の類推を表す。前後を含めると「郷里を探し回ったが、片方の親にさえ会えず、…」という意味になる。よって、エが正解。

③ ここで使われている「さへ」は添加の意味を表すので、「〜までも」となる。前の部分が「風が吹き、波が激しいけれども、（そのうえ）雷」ということからも推測できる。よって、アが正解。

④ 「だに」は程度の類推を表す副助詞。「え」＋「寄ら」＋「で」で、「寄ることができなくて」という意味になる。よって、ウが正解。

⑤ ここでの「だに」は「〜さえ」「〜さえも」の意味の副助詞。「動かしたてまつらじ」は、「じ」が打消の意志を表して、「動かし申し上げません」という意味になる。よって、イが正解。

〈解答〉

① イ　② エ　③ ア　④ ウ　⑤ イ

第23講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「だに」は、下に打消や反語の表現を伴って類推の意味を表す。よって、「～さえ（知らない）」という意味になる。よって、アが正解。

② 「言はん」は、「言おう」という意志を表しているので、「だに」は、「せめて家の人たちと何か話すだけでもと思って…」という最低限の限定を表している。よって、エが正解。

③ 下に打消や反語の表現がないので、「だに」は「せめて～だけでも」という最低限の限定を表している副助詞。よって、イが正解。

④ 「さへ」は添加の働きの副助詞。よって、オが正解。

⑤ 「せめて～だけでも」という最低限の限定を表すのは、ウの「だに」。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　ア　　②　エ　　③　イ　　④　オ　　⑤　ウ

第23講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「祝いなどをしている」と訳せるので、「する」という意味の、サ行変格活用動詞「す」の連用形。よって、ウが正解。

② ハ行四段活用の補助動詞「給ふ」の連用形に付いているので、過去の助動詞「き」の連体形。よって、ウが正解。

③ 「わが父母(ちちはは)ありとおもへば。」と、「し」がなくても意味が通るので、副助詞の「し」。よって、イが正解。

④ aの「し」は、上に完了の助動詞「ぬ」の連用形、下に「つま」という体言があるので、過去の助動詞「き」の連体形。bとcはそれぞれ「つまあれば」「旅をぞ思ふ」と「し」を取り除いても意味が変わらないので、副助詞の「し」である。よって、意味が違うのはaで、説明としてはエが正解。

⑤ a　形容詞「恋し」の活用語尾。b　心地が「する」と訳せるので、サ行変格活用動詞「す」の連用形。c　ハ行四段活用動詞「候ふ」の連用形に接続しているので、過去の助動詞「き」の連体形。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ウ　② ウ　③ イ　④ エ　⑤ ウ

第24講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① カ行四段活用動詞「咲く」の連用形に接続しているので、「なむ」は、強意（完了）の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」。よって、ウが正解。

② ラ行変格活用動詞「あり」の未然形に接続しているので、終助詞の「なむ」。よって、アが正解。

③ 終助詞、助動詞、ナ行変格活用動詞＋助動詞のいずれにもあてはまらないので、係助詞の「なむ」。下は係り結びで「けり」の連体形で終わっている。よって、アが正解。

④ 「往なむ」はナ行変格活用動詞「往ぬ」の未然形に推量の助動詞「む」がついたもの。よって、エが正解。

⑤ 形容詞「良し」の連用形で「良かり」なので「良く＋あり」の補助活用。したがって下に助動詞がつく。よって、この「なむ」は強意（完了）の助動詞＋推量の助動詞。よって、オが正解。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ ア　④ エ　⑤ オ

第24講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 上の「聞こえ」は「聞こゆ」の未然形もしくは連用形なので、「なむ」は他者願望の終助詞か、完了・強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」である。現代語訳に「〜にちがいないと思って」とあるので、強意の助動詞＋推量の助動詞。よって、イが正解。

② 上の「消え」は「消ゆ」の未然形もしくは連用形なので、助動詞＋助動詞か終助詞かで迷うが、訳すと「拾えば消えてしまうだろうと思われる」となるので、助動詞＋助動詞。よって、イが正解。

③「おはしなむ」を分解すると、サ行変格活用動詞「おはす」の連用形＋完了・強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」。よって、アが正解。

④ 形容詞「あし」の連用形「あしく」に係助詞「なむ」が付き、文末が係り結びで「けり」の連体形「ける」となっている。よって、イが正解。

⑤ 係助詞「なむ」で、係り結びにより文末は「はべり」の連体形「はべる」となっている。よって、ウが正解。

〔解答〕

① イ　② イ　③ ア　④ イ　⑤ ウ

第25講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 状態・性質を表す語につく「に」は形容動詞ナリ活用の連用形の活用語尾。よって、イが正解。

② 連用形に接続し、下に「ければ」と「けり」があることからも、完了の助動詞「ぬ」の連用形。よって、ウが正解。

③ 「いみじう」は形容詞「いみじ」の連用形のウ音便化したもの。「あはれに」は、状態・性質を表す「あはれ」＋「に」なので形容動詞「あはれなり」の連用形。「をかしけれ」は形容詞「をかし」の已然形。よって、エが正解。

④ 「去(い)に」の「に」はナ行変格活用動詞「去ぬ」の連用形活用語尾。選択肢の中で、ナ変動詞の連用形活用語尾はウのみ。他は連用形に接続しているので完了の助動詞「ぬ」の連用形。よって、ウが正解。

⑤ 選択肢アは「いに」で一語のナ行変格活用動詞。他は連用形に接続する完了の助動詞。よって、アが正解。

〔解答〕

① イ　② ウ　③ エ　④ ウ　⑤ ア

第25講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 連体形に接続し、「〜すると」と訳すことができ、下に文が続いているので接続助詞。よって、イが正解。

② 一つ目の「に」は体言に接続するので格助詞。「さぶらふ」はハ行四段活用動詞の終止形か連体形であるが、終止形に接続する「に」は存在しないので連体形。二つ目の「に」は「〜すると」と訳すことができ、下に文が続いているので接続助詞。よって、アが正解。

③ 「にや」の「に」は断定の助動詞。アは、連体形に接続し、「に」の下に「あらず」とラ行変格活用動詞の「あり」がある形から断定の助動詞。よって、アが正解。

④ 選択肢はすべて体言に接続しているが、イは下に「侍らん」とラ行変格活用動詞の「侍り」があるので断定の助動詞。他は下に「あり」や「はべり」がなく、「である」と訳すこともできないので格助詞。よって、イが正解。なお、アは「に」と「はべり」の間に動詞「語り」があるので、断定の「に」＋「はべり」ではない。

⑤ a・b・cはすべて体言についているので、断定の助動詞か格助詞かで判断する。aは「にか、」の形なので「に」は断定の助動詞。bは下に「あり」や「はべり」がなく、「である」と訳すこともできないので格助詞。cは下に「あらぬ」とラ行変格活用の「あり」があるので断定の助動詞。よって、イが正解。

〔解答〕

① イ

② ア

③ ア

④ イ

⑤ イ

第25講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「げに」で一語の副詞。「ぞ」は係助詞。「をかしき」はシク活用形容詞の連体形。よって、エが正解。

② aは、上の「られ」は助動詞「らる」の未然形か連用形だが、未然形に接続する「に」は存在しないので連用形。連用形に接続する「に」は完了の助動詞。ただし、この場合は下の「けり」に気づいたほうが早く解ける。上の「に」を確認し、ナ行変格活用動詞ではないので完了の助動詞。bは、「まことに」で一語の副詞。「本当に・実に」の意味。cは「にや」の「に」は断定。「あらむ」などが省略されている。よって、エが正解。

③ 選択肢ウは「往に」で一語のナ行変格活用動詞。他は連用形に接続する完了の助動詞。よって、ウが正解。

④ aは体言につき、下に「あらねども」とラ行変格活用動詞の「あり」があるので、断定の助動詞。bは連用形につき、下に「けり」があることからも、完了の助動詞。よって、イが正解。

⑤ aは体言につき、下にラ行変格活用動詞の「あり」があるので、断定の助動詞。bは体言につき、下に「あり」があるが、「である」と訳せないので格助詞。cは上に状態・性質を表す「あざやか」があるので、形容動詞の活用語尾。dは連体形につき、「～すると」と訳せて下に文が続いているので、接続助詞。eは上に状態・性質を表す「あはれ」があるので、形容動詞の活用語尾。fは下に終止形接続の「べし」があるので完了の助動詞。よって、ウが正解。

〔解答〕

① エ　② エ　③ ウ　④ イ　⑤ ウ

第26講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「な～動詞（連用形）そ」の形で「～してくれるな」という「禁止」の意味となる。よって、ウが正解。

② 呼応の副詞を用いた「な～そ」の「な」と「そ」の間には、基本的には動詞の連用形が入るが、カ変・サ変動詞の場合、その活用形は「未然形」となるので注意する。したがって「な来そ」は「なこそ」と読む。よって、アが正解。

③ 「あなかしこ～。そ／な／べからず」で「決して～するな」という「禁止」の意味となる。よって、エが正解。

④ A・「禁止」の意味になる副詞のうち、「かまへて」は呼応する語が「そ／な／べからず」となり、「かまへて～べからず」で、「決して～するな」という意味になる。B・「え～打消」の形で「～できない」という「不可能」の意味となる。よって、エが正解。

⑤ 「え～ず」の形なので「不可能」を表すため、それに準じた訳を選ぶ。文中の「せ＋たまふ」は動作主が天皇の場合など、書き手から動作主に対する特に高い敬意を表現する「二重敬語」であることも、覚えておくと良い。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ エ　④ エ　⑤ ウ

第26講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「たえて〜打消」の形で、「全く〜ない・全然〜ない・決して〜ない」という「全否定」の意味となる。選択肢の中で打消を表すのはイのみ。よって、イが正解。

② 「いと〜打消」の形で、「たいして〜ない」という「弱い否定」の意味となる。「いと」は打消を伴わない場合、「大変、とても」という意味の「程度の副詞」として用いられる。「やむごとなし」は「身分の高い、高貴な」という意味の形容詞である。よって、ウが正解。

③ 「いたく〜打消」の形で、「たいして〜ない」という「弱い否定」の意味となる。呼応の部分は、形容詞「うれし」の未然形に続く打消の助動詞「ず」にあたる。よって、アが正解。

④ 副詞「いさ」に「知らず」を伴った「いさ知らず」の形で、「さあ、どうだかわからない」という意味となる。よって、アが正解。

⑤ 「よも」は一語の副詞で、「よも〜じ」の形で「まさか〜ないだろう」という意味となる。「じ」は打消推量の助動詞である。他にも、同じく打消推量の助動詞「まじ」とも呼応し、同じ意味となる。よって、イが正解。

〔解答〕

① イ　② ウ　③ ア　④ ア　⑤ イ

第26講　PART3　確認問題　解答

〈解説〉

① 「いかで」の後に願望・意志を表す語はなく、現在推量の助動詞「らむ」と呼応しているので「疑問・反語」の用法である。選択肢の中で適当なのは、反語で解釈をしているイのみ。なお、傍線部には「どうして住んでいるだろうか」という疑問の意味も掛けられている。よって、イが正解。

② 「いかで～」の用法のうち、「どうにかして～したい」という訳になるのは、下に願望・意志を表す語を伴う場合である。選択肢の中で願望・意志を表すのは自己願望の終助詞であるアのみ。よって、アが正解。

③ 「いかで～」の「願望・意志」の用法であり、「なんとしてでも～したい・～しよう」と訳す。後の部分に「ものいはむ」と「意志」を表す助動詞があることから考える。よって、ウが正解。

④ 「いつしか」の後に、「まほし（助動詞）」・「ばや（助詞）」・「なむ（助詞）」・「もがな（助詞）」など、願望を表す語を伴って、「はやく～したい・してほしい」という願望を表す意味となる。よって、ウが正解。

⑤ A「かまへて」の後に、「まじ（助動詞）」・「な（助詞）」など禁止表現を伴って、「けっして～するな」という禁止を表す意味となる。B「かまへて」の後に、命令・意志を表す語を伴うと、「きっと～せよ・しよう」という意味となる。よって、エが正解。

⑥ 「はやく～けり」と、助動詞「けり」を伴う形で、「なんと実は～だったよ」という驚きを表す意味となる。よって、イが

正解。

〔解答〕

①　イ

②　ア

③　ウ

④　ウ

⑤　エ

⑥　イ

第27講 PART1 確認問題 解答

〔解説〕

① 「修飾語」は、他の文節と意味の結び付きがあり、その文節を詳しく説明する文節。「敬語の種類」には含まれない。

② 補助動詞とは、「朝見たまへむ。」という文の「たまへ」のように、本来の動詞の意味や用法が薄れて、他の語に付いて意味を添える動詞。ここでは、動詞「たまふ」の本来の意味が薄れ、「見」という語に謙譲の意味を添えている。

③ 「おはしまし」は、動詞「おはします」の連用形。エは、「動詞」＋「て」＋「おはします」の型になっており、補助動詞である。

④ ア・イ・エは、いずれも「動詞」＋「たまふ」という型になっており、補助動詞である。

⑤ ウのみ「行（おこ）なひ人（＝行者）」が「はべる」という形で、丁寧の本動詞。他は「用言」（＋て）＋「侍（はべ）り」の形で、丁寧の補助動詞。

〔解答〕

① ア　② エ　③ エ　④ ウ　⑤ ウ

第27講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① a「侍る」は「～です」「～ます」などと訳す丁寧の補助動詞、b「奉ら（＝奉る）」は「～申し上げる」などと訳す謙譲の補助動詞である。

② a「用言（＝とどめ（終止形「とどむ」））」＋奉り＝謙譲の補助動詞。b「思」の下がサ行なので、終止形は「思（おぼ）す」で尊敬の本動詞。

③ サ行変格活用動詞「す」と、丁寧の補助動詞「侍り」と、推量の助動詞「ん（む）」を正しく訳しているのはウ。丁寧の補助動詞は「～です」「～ます」などと訳す。

④ 「たまふ」は尊敬の補助動詞で、「～なさる」「お～になる」などと訳す。直前にある「せ」は、使役と尊敬の意味をもつ助動詞だが、ここでは「かしづく（＝世話をする）」の使役の対象が見当たらないので、尊敬の意味で訳す。

⑤ 補助動詞とは、動詞本来の意味が薄れたものである。エの「侍る」については、「はづかしげなる人（＝立派な人）」が「います」と訳すことができ、存在を表す本来の意味が薄れていないので、補助動詞ではない。

〈解答〉

① エ
② イ
③ ウ
④ ア
⑤ エ

第27講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① イ「おはします」と「おはす」はどちらも「いらっしゃる」と訳す尊敬の本動詞だが、別の語である。よって、イが正解。

② エは「動詞」（＋「て」）＋V、あるいは「体言」＋「に（て）」＋「おはす・侍り・候ふ」などの補助動詞の型にあてはまらない。よって、エが正解。ここで使われているのは、謙譲の本動詞「聞こゆ（＝申し上げる）」である。

③ 補助動詞の型にあてはまらないので、ここでの「聞こえさす」は、謙譲の本動詞として訳す。よって、ウが正解。

④ 「おほとのごもる」は「寝（ぬ）」の尊敬語で、「おやすみになる」。よって、イが正解。

⑤ a「聞こえさす」は謙譲、b「のたまふ」は尊敬、c「仕うまつる」は謙譲の本動詞。dについては、主語が「木」であるので、謙譲は不適当。よって、丁寧の本動詞である。よって、アが正解。

〔解答〕

① イ　② エ　③ ウ　④ イ　⑤ ア

第28講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 四段活用の「たまふ」が尊敬。四段活用の「たまふ」は本動詞と補助動詞がある。下二段活用の「たまふ」が謙譲。こちらはほとんどが補助動詞で、主に会話文中や手紙文中で使用される。よって、正解はイ。

② 会話文であり、直前に認識を表す動詞「思ひ」があることから、空欄には謙譲の補助動詞「給ふ」が入る。また、直後にある過去の助動詞「しか」（＝終止形「き」）は連用形接続なので、下二段活用動詞「給ふ」の連用形「給へ」が正解。よって、イが正解。

③ イについて、直後の名詞「わたり」にかかっていることから、連体形。「たまふ」の連体形が「たまふる」となるのは、下二段活用動詞で、謙譲の意味。よって、イが正解。

④ 助動詞＋「たまへ」なので補助動詞。「思ふ・覚ゆ・見る・聞く・知る」以外に付いていることから尊敬である。よって、アが正解。

⑤ 用言に接続しているア・イ・エ・オは尊敬の補助動詞。未然形に接続する意志の助動詞「ん」に連なっているウ「給は（終止形「給ふ」）」が尊敬の本動詞である。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　イ　②　イ　③　イ　④　ア　⑤　ウ

第28講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

① 「たまふる」と活用するのは、下二段活用の「たまふ」で、他の謙譲語と違い、「(思って) おります」と訳す。「たまへ」は文末にあることから、命令形であると判断できる。よって、こちらは四段活用の「たまふ」として、「(帝に申し上げ) なさってください」と尊敬の意で訳す。よって、オが正解。

② 直後の「けれ」は連用形接続なので、空欄には「給ふ」の連用形が入る。ここでの「見え」は、「身分の高い人」が「他の国の人」に「見せる」という文脈に接続する形で用いられているので、謙譲ではなく尊敬の意味。よって、四段活用の「給ふ」の連用形「給ひ」が入る。よって、アが正解。

③ ア「給ひ」は後に連用形接続の助動詞「ぬ」の命令形があるので、四段活用の連用形。よって、尊敬。イは認識を表す動詞「思う (＝「思ひ」のウ音便化)」に接続し、会話文中にあるので、謙譲。ウは認識を表す動詞に接続していないので、尊敬。エは四段活用動詞「たまふ」の連用形なので、尊敬。よって、イが正解。

④ 直前に係助詞「なむ」があるので、「たまふ」を連体形に活用させる必要がある。尊敬の場合「たまふ」、謙譲の場合は「たまふる」。選択肢に「たまふ」がなく、認識を表す動詞「思う (＝「思ひ」のウ音便化)」に接続している。よって、エが正解。

⑤ 傍線部「たまへ」は、直後に連用形接続の助詞「て」があることから、下二段活用の連用形だとわかる。アは未然形接続の助動詞「ぬ (終止形「ず」)」、イは四段活用に已然形で接続する助動詞「り」、ウは連用形接続の助詞「て」にそれぞれ接

続している。エは文末にあるので終止形。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　オ　②　ア　③　イ　④　エ　⑤　ウ

第29講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「御袴着」という語が直前にあり、「着る」という文脈で使われているので、尊敬語「お召しになる」である。よって、ウが正解。

② ア・ウ・エは「乗り物に乗る」という文脈で使われているので、尊敬語「お乗りになる」。イは「御直衣」という語が直前にあり、「着る」という文脈で使われているので、尊敬語「お召しになる」。よって、イが正解。

③ 「大御酒」という語が直前にあり、「酒を飲む」という文脈で使われているので、尊敬語「召し上がる」である。よって、アが正解。

④ 「着る」「食ふ・飲む」「乗る」という文脈とは考えにくく、「何を差し上げようか」「ほしがりなさっているものを差し上げよう」と謙譲語の訳にすると自然である。よって、エが正解。

⑤ 直前に「宮に」とあることから、「着る」「食ふ・飲む」「乗る」という文脈とは考えにくく、「宮（＝中宮様の御殿）に参上したところ」と謙譲語の訳にすると自然である。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ ア　④ エ　⑤ ウ

第29講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 本動詞の「侍り」「候ふ」は、謙譲語か丁寧語である。「貴人に＋侍り〔候ふ〕」「貴人がいる場所に＋侍り〔候ふ〕」という文脈の場合は謙譲語で、「お仕えする」と訳す。よって、ウが正解。

② 「侍り」は謙譲語か丁寧語。上に係助詞「なむ」があるので、連体形「侍る」になっている。「貴人に＋侍り〔候ふ〕」「貴人がいる場所に＋侍り〔候ふ〕」という文脈ではないので、丁寧の本動詞。よって、ウが正解。

③ イは、「貴人がいる場所に＋侍り〔候ふ〕」という文脈なので、謙譲語「お仕えする」。ア・ウ・エは、丁寧語「あります」。よって、イが正解。

④ 補助動詞の型にあてはまらないので、本動詞「聞こゆ」である。謙譲語であれば、ア「申し上げる」。普通動詞であれば、ウ「うわさされる」。文脈からウは考えにくい。よって、アが正解。

⑤ ａは動詞の連用形に付いているので、補助動詞「聞こゆ」である。補助動詞「聞こゆ」は謙譲語。ｂは補助動詞の型にあてはまらないので、本動詞「聞こゆ」。「琵琶を弾き鳴らす音が聞こえる」という文脈だと考えられるので、普通動詞。よって、エが正解。

〔解答〕

① ウ　② ウ　③ イ　④ ア　⑤ エ

第30講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「おはし〔おはす〕」は、「いらっしゃる」という意味の尊敬語である。地の文で用いられている場合は、作者から主体（〜は・が）への敬意を表す。よって、アが正解。

② 敬意は、尊敬語の場合は主体（〜は・が）へ、謙譲語の場合は客体（〜を・に）へ向かう。丁寧語の場合は、地の文では読者へ、会話文であれば聞き手へ向かう。よって、イが正解。

③ 「さぶらひ〔さぶらふ〕」は謙譲語か丁寧語なので、ウかエに絞る。地の文なので、作者からの敬意。謙譲語は客体（〜を・に）に対する敬語で、「近衛府に」という文脈であるので、近衛府への敬意。よって、エが正解。

④ 「参り〔参る〕」は尊敬語か謙譲語。「中宮のもとに行く」という文脈なので、謙譲語だと判断できる。謙譲語は客体（〜を・に）に対する敬語なので、中宮を敬う。「給ひ〔給ふ〕」は四段活用なので尊敬の補助動詞。尊敬語は主体（〜は・が）に対する敬語なので、中納言殿を敬う。よって、アが正解。

⑤ 「はべり」は動詞の連用形についているので、丁寧の補助動詞。会話文なので、話し手（＝法師）から聞き手（＝かたへの人）への敬意を表す。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② イ　③ エ　④ ア　⑤ ウ

第30講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 会話文中で用いられているので、話し手（＝聖海上人）からの敬意。「承ら〔承る〕」は謙譲語。謙譲語は客体（～を・に）に対する敬語。「神官にお聞きしたい」という文脈であるので、神官への敬意を表す。よって、ウが正解。

② アは尊敬語で、主体である中宮を敬う。イは謙譲語で、客体である中宮を敬う。ウ「啓し〔啓す〕」は「言ふ」の謙譲語で「申し上げる」。「啓す」は言う相手は必ず「中宮・東宮」の誰かである。ここでは中宮を敬う。エは尊敬語で、主体である大臣を敬う。よって、エが正解。

③ 会話文中で用いられているので、話し手（＝人々）からの敬意。「侍り」はここでは丁寧の補助動詞。会話文の場合、丁寧語は聞き手（＝光源氏）への敬意を表す。よって、アが正解。

④ 「申さ〔申す〕」は謙譲語。謙譲語は客体（～を・に）に対する敬語。「この殿をたいそうもてなして」という文脈なので、この殿を敬う。「給ひ〔給ふ〕」はここでは尊敬の補助動詞。尊敬語は主体（～は・が）に対する敬語なので、中ノ関白殿を敬う。よって、ウが正解。

⑤ 「奏す」は「言ふ」の謙譲語で「申し上げる」。地の文なので、作者からの敬意。「奏す」は、言う相手は必ず「天皇・上皇・法皇（＝出家した上皇）」の誰かである。よって、イが正解。

〔解答〕

①　ウ　②　エ　③　ア　④　ウ　⑤　イ

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。